

— 目 次 —

はじめに

1. 「就労体験型実習（インターンシップ）」に関する取組について	1
2. 平成29年度就労体験型実習実施状況（マッチング結果）	2
(1) 就労体験型 基本協定締結大学	2
(2) 就労体験型 受入「道の駅」	3
(3) マッチング結果	5
(4) 平成29年度就労体験型実習結果	7
① 実習結果概要一覧	7
② 「道の駅」別実習結果概要	- 13 -
(5) 基本協定（ひな形）、各様式等	- 54 -
3. 平成29年度 連携企画型実習結果	- 61 -
(1) 連携企画型実習状況	- 61 -
(2) 平成29年度 連携企画型実習結果概要	- 62 -

【はじめに】

「道の駅」には地域の観光資源や魅力を語る人材が集まっており、地域の課題を解決する拠点となっています。また、将来の地域活性化の担い手となる人材を育成・確保するためには、現場での就労体験を通して、実地的な知識や技術を学ぶことが重要です。

このため、国土交通省では「道の駅」を、観光振興や地域振興を学ぶ学生の課外活動やインターンシップの場として本格活用することとしました。

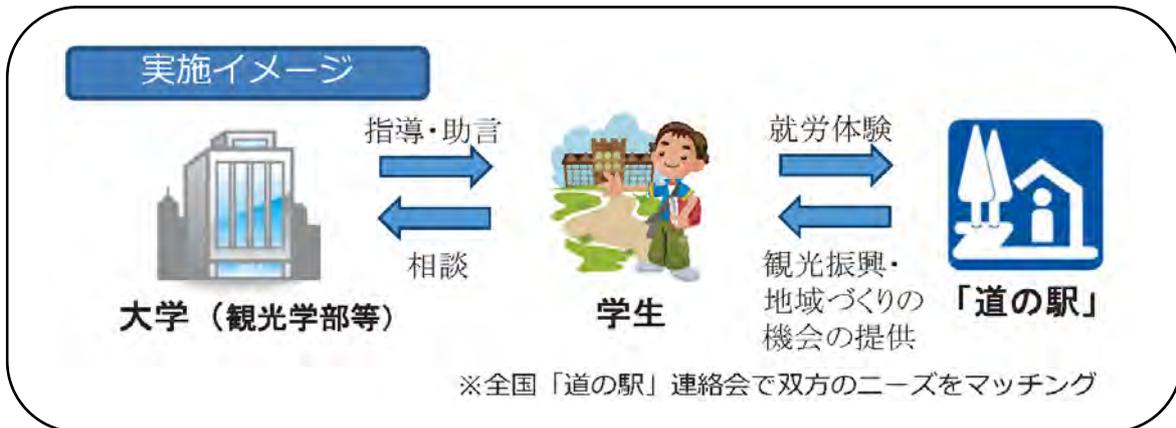
これまで、「道の駅」において、地元大学等と個別に連携を行う事例はありましたが、全国の「道の駅」を対象に実施することにより、都市部の学生が地方部の「道の駅」で交流するなど、新たな価値の創造が期待されます。

本書は、この「道の駅」と大学の連携・交流に関する取組に関して、今夏に実施された「就労体験型実習（インターンシップ）」の実績を紹介するものです。

1. 「就労体験型実習（インターンシップ）」に関する取組について

「道の駅」と大学の連携・交流に関する一環として、平成27年度より、観光や地域づくりを学ぶ学生が、夏期休暇等を利用し、「道の駅」で就労体験型実習（インターンシップ）を実施する取組が始まっております。

本取組は、地域の魅力の集まる「道の駅」と、観光学等を学ぶ地域外の若者が交流することで、新たな価値の創造を図ります。



具体的な取組としては、「就労体験型」と「連携企画型」の2種類があります。過去の実施例としては、以下のとおりです。

<就労体験型>	<連携企画型>
<p>「霧の森」（愛媛県四国中央市）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地元イベントの企画立案、実施補助のほか、道の駅内で製造されている地元名産品の製造・販売の補助を実施。 ・H25年度は10名受け入れ、うち7名は関西圏の大学から参加 <p>・H15からこれまで約110名が実施 ・そのうち2名が「道の駅」へ就職</p> <p>大学生が企画したイベント</p> <p>地元名産品「霧の森大福」</p>	<p>京都府亀岡市、南丹市、京丹波町の道の駅</p> <ul style="list-style-type: none"> ・京都精華大学の大学生が、道の駅で販売するスイーツパッケージをデザイン <p>包装デザイン打合せ</p> <p>「かなん」(大阪府河南町)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・道の駅と大阪府立大学の大学生のコラボによりオリジナル弁当を開発 <p>道の駅弁当「かなん冬の恵み」</p>

本取組によって期待される効果としては、次のようなものがあります。

〈大学のメリット〉

- 地域の資源が集中し、地方が直面する課題が明確である「道の駅」をフィールドとして、机上では得ることが難しい学習が可能
- 地域の活性化の現場における将来の人材育成

〈「道の駅」のメリット〉

- 若者の視点を活かした地域づくり、若者の元気による実行力のある企画の実施
- HP作成やSNS等の若者のITスキル、情報ネットワークを活用した情報発信

2. 平成29年度就労体験型実習実施状況（マッチング結果）

（1）就労体験型 基本協定締結大学

就労体験型実習に関して、全国「道の駅」連絡会と基本協定を締結している大学は、平成29年12月現在、一つのコンソーシアムを含む67大学（大学数としては71大学）となっています。

表-1 就労体験型 基本協定締結大学 一覧

平成29年12月時点

No.	都道府県	大学名	No.	都道府県	大学名	
1	北海道	北海道大学	35	長野県	長野大学	
2		稚内北星学園大学	36		松本大学	
3		北星学園大学	37	岐阜県	中部学院大学	
4		旭川大学	38		中部学院大学短期大学部	
5		北海商科大学	39	静岡県	常葉大学	
6		釧路公立大学	40	愛知県	名古屋外国語大学	
7		釧路短期大学	41		名城大学	
8		北見工業大学	42	三重県	鈴鹿大学	
9	青森県	青森大学	43	京都府	福知山公立大学	
10		青森中央学院大学	44		平安女学院大学	
11	岩手県立大学	45	立命館大学			
12	岩手県	岩手大学	46	大阪府	大阪観光大学	
13	山形県	東北芸術工科大学	47		近畿大学	
14		東北公益文科大学	48		阪南大学	
15	福島県	福島大学	49		桃山学院大学	
16	茨城県	茨城キリスト教大学	50	兵庫県	神戸海星女子学院大学	
17		茨城県立農業大学校	51		神戸芸術工科大学	
18		筑波大学	52		流通科学大学	
19	宇都宮大学	53	神戸学院大学			
20	栃木県	佐野短期大学	54	奈良県	帝塚山大学	
21		文星芸術大学	55	和歌山県	和歌山大学	
22	埼玉県	淑徳大学	56	鳥取県	鳥取大学	
23		立教大学	57	岡山県	倉敷芸術科学大学	
24		城西大学	58		岡山理科大学	
25		平成国際大学	59	徳島県	徳島大学	
26	千葉県	江戸川大学	60	香川県	香川大学	
27		城西国際大学	61	愛媛県	大学コンソーシアムえひめ インターンシップ部会※	
28	跡見学園女子大学	福岡県			九州産業大学	
29	東京都		帝京大学	62	長崎県	長崎県立大学
30			法政大学	63		長崎国際大学
31		文化学園大学	64	長崎総合科学大学		
32	神奈川県	専修大学	65	大分県	日本文理大学	
33		文教大学	66		宮崎県	宮崎大学
34	山梨県	山梨学院大学	67			

※「大学コンソーシアムえひめインターンシップ部会」は、愛媛大学、松山大学、松山東雲女子大学、松山東雲短期大学、聖カタリナ大学より構成されており、大学数としては71大学となる。

※都道府県は、協定締結先（学長・学部長等）により整理している。

(2) 就労体験型 受入「道の駅」

就労体験型実習に対して受入を表明している「道の駅」は、平成29年12月現在、189駅となっています。

表-2 就労体験型受入「道の駅」一覧

No.	都道府県	市町村	道の駅名	備考	No.	都道府県	市町村	道の駅名	備考		
1	北海道	旭川市	あさひかわ		49	茨城県	常陸太田市	さとみ			
2		室蘭市	みたら室蘭		50				ひたちおた	H26重点	
3		名寄市	もち米の里☆なよろ		51		城里町	かつら			
4		ニセコ町	ニセコビュープラザ	H26重点	52		古河市	まくらがの里こが			
5		猿払村	さるふつ公園		53		五霞町	ごか			
6		更別村	さらべつ		54	栃木県	宇都宮市	うつのみやろまんちっく村			
7		幕別町	忠類		55		栃木市	みかも			
8		羅臼町	知床・らうす		56		佐野市	どまんなかたぬま			
9		東川町	ひがしかわ「道草館」		57		茂木町	もてぎ	全国モデル		
10		厚岸町	厚岸グルメパーク		58	那珂川町	ぱとう				
11	青森県	青森市	なみおか		59	群馬県	藤岡市	ららん藤岡			
12			浅虫温泉		60		甘楽町	甘楽			
13		今別町	いまべつ		61		草津町	草津運動茶屋公園			
14		七戸町	しちのへ		62	長野原町	ハッ場ふるさと館				
15		弘前市	ひろさき		63	埼玉県	吉見町	いちごの里よしみ			
16		奥入瀬		64	春日部市		庄和				
17	十和田市	とわだ		65	千葉県	八千代市	やちよ				
18	岩手県	遠野市	遠野風の丘	全国モデル		66	鴨川市	鴨川オーシャンパーク			
19		野田村	のだ			67	芝山町	風和里しばやま			
20		雫石町	雫石あねっこ			68	鋸南町	保田小学校			
21		岩手町	石神の丘			69	旭市	季楽里あさひ	H27重点		
22		山田町	やまだ		70	香取市	くりもと				
23	八幡平市	にしね		71	東金市	みのりの郷東金					
24	久慈市	くじ		72	山梨県	山梨市	花かげの郷まきおか				
25	登米市	津山		73			みとみ				
26	宮城県	大崎市	あ・ら・伊達な道の駅	H26重点		74	北杜市	こぶちさわ			
27	石巻市	上品の郷	H29地域交通拠点部門モデル	75				南きよさと			
28	秋田県	横手市	さんない			76		中央市	とよとみ		
29			十文字		77	小菅村	こすげ				
30		北秋田市	あに		78	長野県	上田市	上田道と川の駅			
31				たかのす			79	中野市	ふるさと豊田		
32		湯上市	てんのう		80		飯山市	花の駅千曲川			
33		しょうわ		81	東御市		雷電くるみの里				
34	湯沢市	おがち		82	青木村		あおき	H26重点			
35	秋田市	あきた港		83	伊那市	南アルプスむら長谷					
36	鹿角市	かつの		84	阿南町	信州新野千石平	H27重点				
37	美郷町	雁の里せんなん		85	長野市	大岡特産センター					
38	山形県	村山市	むらやま		86	松本市	今井 恵みの里				
39		高島町	たかはた		87	新潟県	胎内市	胎内			
40		遊佐町	鳥海		88		阿賀町	阿賀の里			
41		米沢市	たざわ		89	十日町市	瀬替への郷せんた	H26重点			
42		飯豊町	いいで		90	富山県	小矢部市	メルヘンおやべ			
43	庄内町	しょうない		91	石川県	中能登町	織姫の里なかのと				
44	福島県	天栄村	羽鳥湖高原		92	岐阜県	高山市	ななもり清見			
45		磐梯町	ばんだい		93			パスカル清見			
46		柳津町	会津柳津		94		関市	平成			
47		昭和村	からむし織の里しょうわ		95				むげ川		
48		湯川村・会津坂下町	あいづ 湯川・会津坂下		96			中津川市	賤母		

No.	都道府県	市町村	道の駅名	備考
97	岐阜県	美濃市	美濃にわか茶屋	
98		飛騨市	宙ドーム・神岡	
99		郡上市	古今伝授の里やまと	
100			明宝	H27重点
101		下呂市	馬瀬 美輝の里	
102		池田町	池田温泉	
103		富加町	半布りの郷 とみか	
104		白川町	美濃白川	
105		本巣市	織部の里もとす	
106			うすずみ桜の里・ねお	
107	静岡県	富士宮市	朝霧高原	
108		富士市	富士川茶座	
109		小山町	すばしり	
110	沼津市	くるら戸田		
111	愛知県	西尾市	にしお岡ノ山	
112		愛西市	立田ふれあいの里	
113		豊根村	豊根グリーンポート宮嶋	
114	三重県	大台町	奥伊勢おおだい	H27重点
115		亀山市	閑宿	
116	福井県	大野市	九頭竜	
117		おおい町	うみんびあ大飯	
118		名田庄		
119	滋賀県	米原市	伊吹の里	
120	京都府	舞鶴市	舞鶴港とれとれセンター	
121		南丹市	京都新光悦村	
122		福知山市	農匠の郷やくの	
123	大阪府	河南町	かなん	H27重点
124	兵庫県	西脇市	北はりまエコミュージアム	
125		宍粟市	みなみ波賀	
126		香美町	村岡ファームガーデン	
127		加東市	とうじょう	
128		奈良県	葛城市	ふたかみパーク當麻
129	和歌山県	かつらぎ町	紀の川万葉の里	
130		北山村	おくとろ	
131		紀の川市	青洲の里	
132	鳥取県	岩美町	きなんせ岩美	
133		若桜町	若桜	
134		江府町	奥大山	
135		日南町	にちなん日野川の郷	H26重点
136		湯梨浜町	燕趙園	
137	島根県	松江市	本庄	
138		雲南市	樹合の里	H27重点(国道54号沿線「道の駅」)
139			おろちの里	
140	安来市	あらエッサ		
141	笠岡市	笠岡ベイファーム		
142	岡山県	真庭市	醍醐の里	
143			風の家	
144	広島県	三次市	ふおレスト君田	

No.	都道府県	市町村	道の駅名	備考
145	広島県	庄原市	たかの	
146		安芸太田町	来夢とごうち	
147		三原市	よがんす白竜	
148		世羅町	世羅	
149		三原市	みはら神明の里	
150		三次市	ゆめランド布野	H27重点(国道54号沿線「道の駅」)
151		竹原市	たけはら	
152	山口県	周南市	ソレーネ周南	H27重点
153		美祢市	おふく	
154		岩国市	ピュアラインにしき	
155	徳島県	山口市	仁保の郷	
156		阿南市	公方の郷なががわ	
157	美馬市	藍ランドうだつ		
158	香川県	三豊市	たからだの里さいた	H27重点
159			ふれあいパークみの	
160		小豆島町	小豆島オーブ公園	H28住民サービス部門モデル
161			小豆島ふるさと村	
162	愛媛県	今治市	しまなみの駅御島	H28重点(しまなみ海道「道の駅」)
163		八幡浜市	八幡浜みなつと	
164		四国中央市	霧の森	
165		松野町	虹の森公園まつの	H28地域交通拠点部門モデル
166		鬼北町	日吉産地	
167		宇和島市	みま	
168			うわじまさいや広場	
169	内子町	内子フレッシュパークからり	全国モデル	
170	高知県	四万十町	あぐり窪川	
171			四万十とおわ	
172	福岡県	うきは市	うきは	H26重点
173		大牟田市	おおむた	
174	佐賀県	鹿島市	鹿島	H26重点
175	長崎県	西海市	さいかい	
176		菊池市	旭志	
177		大津町	大津	
178	熊本県	阿蘇市	阿蘇	H27重点
179		南阿蘇村	あそ望の郷くぎの	
180		熊本市	すいかの里植木	
181	大分県	豊後大野市	原尻の滝	
182		佐伯市	かまえ	
183	宮崎県	都城市	都城	
184		延岡市	北川はゆま	H27重点
185		日南市	酒谷	H28住民サービス部門モデル
186		都農町	つの	
187		小林市	ゆ〜ぱるのじり	
188	鹿児島県	薩摩川内市	樋脇	
189		阿久根市	阿久根	

(3) マッチング結果

平成 29 年度に実施された就労体験型実習において、大学（学生）の希望する「道の駅」とマッチングを行った結果、協定を締結している 20 大学のべ 45 名が全国の 34 箇所の「道の駅」で実習を行うこととなりました。

表-3 平成 29 年度就労体験型実習 参加大学一覧

No.	都道府県名	大学名
1	青森県	青森大学
2		青森中央学院大学
3	福島県	福島大学
4	茨城県	茨城キリスト教大学
5	埼玉県	立教大学
6	千葉県	江戸川大学
7	東京都	帝京大学
8		法政大学
9	神奈川県	専修大学
10		文教大学
11	長野県	長野大学
12	京都府	平安女学院大学
13	大阪府	大阪観光大学
14		桃山学院大学
15	兵庫県	神戸学院大学
16	岡山県	倉敷芸術科学大学
17		岡山理科大学
18	香川県	香川大学
19	長崎県	長崎国際大学
20	大分県	日本文理大学

表-4 平成29年度就労体験型実習受入「道の駅」と実習者数一覧

都道府県	市町村名	道の駅名	大学名	人数
青森県	青森市	なみおか	青森大学	1
	今別町	いまべつ	青森中央学院大学	1
山形県	米沢市	たざわ	福島大学	1
茨城県	常陸太田市	さとみ	茨城キリスト教大学	2
		ひたちおおた	専修大学	1
	古河市	まくらがの里こが	立教大学	1
栃木県	佐野市	どまんなかたぬま	帝京大学	1
群馬県	藤岡市	ららん藤岡	帝京大学	1
千葉県	芝山町	風和里しばやま	専修大学	1
	旭市	季楽里あさひ	帝京大学	1
			平安女学院大学	1
長野県	東御市	雷電くるみの里	長野大学	1
	青木村	あおき	文教大学	1
	伊那市	南アルプスむら長谷	立教大学	1
新潟県	十日町市	瀬替えの郷せんだ	法政大学	1
滋賀県	米原市	伊吹の里	岡山理科大学	1
大阪府	河南町	かなん	大阪観光大学	1
兵庫県	加東市	とうじょう	大阪観光大学	1
奈良県	葛城市	ふたかみパーク當麻	大阪観光大学	1
和歌山県	かつらぎ町	紀の川万葉の里	岡山理科大学	1
鳥取県	若桜町	若桜	桃山学院大学	1
島根県	安来市	あらエッサ	大阪観光大学	1
岡山県	笠岡市	笠岡ベイファーム	倉敷芸術科学大学	1
			岡山理科大学	2
広島県	三次市	ふおレスト君田	大阪観光大学	1
			岡山理科大学	1
	安芸太田町	来夢とごうち	岡山理科大学	1
	世羅町	世羅	桃山学院大学	1
三原市	みはら神明の里	岡山理科大学	1	
徳島県	阿南市	公方の郷なかがわ	岡山理科大学	2
香川県	三豊市	ふれあいパークみの	岡山理科大学	1
愛媛県	宇和島市	うわじまきさいや広場	香川大学	1
高知県	四万十町	あぐり窪川	神戸学院大学	1
長崎県	西海市	さいかい	長崎国際大学	1
熊本県	阿蘇市	阿蘇	文教大学	2
			岡山理科大学	1
			日本文理大学	2
			大阪観光大学	1
南阿蘇村	あそ望の郷くぎの	江戸川大学	1	
鹿児島県	薩摩川内市	樋脇	帝京大学	1

24府県

34駅

20大学 45名

※実習人数はのべ人数（実質の実習人数は44名）

(4) 平成29年度就労体験型実習結果

平成29年度における就労体験型実習結果について、①に実習結果概要一覧、②に「道の駅」別の実習結果概要を示します。

① 実習結果概要一覧

都道府県	市町村	道の駅名	大学名	実習概要
青森県	青森市	なみおか	青森大学	○実習期間：平成29年8月2日(水)～8月25日(金)【24日間】 ○実習生：学生1名 ○実習内容：①Facebookを活用したソーシャルメディアマーケティング調査・検証 ②道の駅やその周辺の観光スポット、イベント等の取材 ③道の駅の各種情報と上記取材結果のFacebook投稿 ④これらの活動の効果検証①
	今別町	いまべつ	青森中央学院大学	○実習期間：平成29年8月17日(木)～8月31日(木)【14日間】 ○実習生：学生1名 ○実習内容：①駐車場清掃 ②道の駅開店準備 ③レストランでのホール作業 ④顧客調査
山形県	米沢市	たざわ	福島大学	○実習期間：平成29年8月7日(月)～8月18日(金)【10日間】 ○実習生：学生1名 ○実習内容：①開店準備 ②厨房業務 ③売店および対面販売業務 ④インフォメーション業務
茨城県	常陸太田市	さとみ	茨城キリスト教大学	○実習期間：平成29年8月13日(日)～8月26日(土)【14日間】 ○実習生：学生2名 ○実習内容：①「道の駅」店舗販売に関する業務(準備・片づけ、店舗・レストラン接客) ②店舗内販売およびソフトクリーム等の販売、販売促進活動 ③地元食材を使用した新メニューの開発と販売 ④地域の方々との交流(夏祭り等のイベント参加)
		ひたちおおた	専修大学	○実習期間：平成29年8月11日(金)～8月27日(日)【14日間】 ○実習生：学生1名 ○実習内容：①レストランホールスタッフ体験 ②インフォメーション業務でのアンケート調査の実施 ③トマトハウスの農業就労体験 ④コーヒーショップでの会計やその他イベントの補助
	古河市	まくらがの里 しが	立教大学	○実習期間：平成29年8月3日(木)～8月4日(金)【2日間】 ○実習生：学生1名 ○実習内容：①道の駅を支える仕組みについて理論的に学ぶ ②レジ業務にてお客様の購買動向を視察 ③生産農家様と直売所へ野菜を陳列・インタビュー ④パンの加工状況視察・販売業務
栃木県	佐野市	どまんなかたぬま	帝京大学	○実習期間：平成29年8月31日(木)～9月5日(火)【6日間】 ○実習生：学生1名 ○実習内容：①農産物直売所「朝採り館」の販売業務 ②移動スーパー「とくし丸」の販売業務 ③移動スーパー「とくし丸」の開拓業務
群馬県	藤岡市	ららん藤岡	帝京大学	○実習期間：平成29年8月7日(月)～8月14日(月)【7日間】 ○実習生：学生1名 ○実習内容：①農産物直売所での座学、レジ補助、商品の出荷 ②花の交流館での花の手入れ、フラワーアレンジメント ③レストランのホール業務 ④観光案内所での座学

都道府県	市町村	道の駅名	大学名	実習概要
千葉県	芝山町	風和里しばやま	専修大学	○実習期間：平成29年9月4日（月）～9月10日（日）【5日間】 ○実習生：学生1名 ○実習内容：①レジ打ち補助、品出し等の接客業務 ②生産者さんとの交流 ③系列店「空の駅 風和里しばやま」視察 ④風和里しばやまオリジナル「古代米バウムクーヘン」試食販売
	旭市	季楽里あさひ	帝京大学	○実習期間：平成29年8月10日（木）～8月18日（金）【9日間】 ○実習生：学生1名 ○実習内容：①野菜、果物のパック詰め ②レストランの補助 ③夏期のイベント補助 ④商品の仕入れ
			平安女学院大学	○実習期間：平成29年9月10日（木）～9月24日（木）【14日間】 ○実習生：学生1名 ○実習内容：①露店（金魚すくい・かき氷・水ふうせん）の運営 ②バイキングレストラン（ホール）・花屋の接客 ③野菜の袋詰め・品出し・レジ ④道の駅グランプリ出場の米粉焼の試作
長野県	東御市	雷電くるみの里	長野大学	○実習期間：平成29年9月4日（月）～9月13日（水）【10日間】 ○実習生：学生1名 ○実習内容：①環境部門における実習（駐車場、トイレ等の清掃活動） ②食堂部門における実習（食堂での軽食提供に係る業務全般） ③店舗部門における実習（農産物直売所、お土産売店での接客業務） ④地元生産者との交流、道の駅運営の改善点へのアイデア出しなど
	青木村	あおき	文教大学	○実習期間：平成29年8月6日（日）～8月17日（木）【10日間】 ○実習生：学生1名 ○実習内容：①店頭での野菜の苗の販売 ②お墓参り用の仏花の販売 ③農園でのジャガイモ掘り ④店内の清掃・備品整備
	伊那市	南アルプスむら長谷	立教大学	○実習期間：平成29年8月22日（火）～8月29日（月）【7日間】 ○実習生：学生1名 ○実習内容：①道の駅の運営構造の把握 ②直売所での販売業務体験（レジ打ち、陳列、ソフト販売等） ③地元特産品の加工場での加工・梱包体験 ④農業体験
新潟県	十日町市	瀬替えの郷せんだ	法政大学	○実習期間：平成29年8月5日（土）～8月8日（火）【4日間】 ○実習生：学生1名 ○実習内容：①「道の駅瀬替えの郷せんだ」における実習（接客のお手伝い、ポップ作り、施設内の清掃、商品の陳列など） ②お盆縁日の準備、玉こんにゃく販売のお手伝い ③道の駅を利用される方、お店の方、また農家の方々へのインタビュー

都道府県	市町村	道の駅名	大学名	実習概要
滋賀県	米原市	伊吹の里	岡山理科大学	○実習期間：平成29年8月17日（木）～8月31日（木）【14日間】 ○実習生：学生1名 ○実習内容：①食堂【穂波】（調理補助、掃除） ②パン工房【樽の実】（成形、掃除、ラッピング） ③直売所【森の民】（品出し、掃除） ④事務（POP作成）
大阪府	河南町	かなん	大阪観光大学	○実習期間：平成29年8月21日（月）～8月25日（金）【5日間】 ○実習生：学生1名 ○実習内容：①主に接客・レジ業務補助 ②農作業
兵庫県	加東市	とうじょう	大阪観光大学	○実習期間：平成29年8月29日（火）～9月1日（金）【4日間】 ○実習生：学生1名 ○実習内容：①レジ業務補助 ②商品陳列 ③農作業（葡萄の収穫） ④出荷作業
奈良県	葛城市	ふたかみパーク當麻	大阪観光大学	○実習期間：平成29年9月13日（水）～9月15日（金）【3日間】 ○実習生：学生1名 ○実習内容：①直売所での仕事 ②味噌と味噌だれ作り ③甘酒の作り方
和歌山県	かつらぎ町	紀の川万葉の里	岡山理科大学	○実習期間：平成29年8月15日（火）～8月21日（月）【7日間】 ○実習生：学生1名 ○実習内容：①商品の袋詰め ②傷んだ商品を選定 ③柿の葉寿司に使う洗い終わった柿の葉上の水分のふき取り ④お客様の車や2階の食堂への重い商品や食材の運搬
鳥取県	若桜町	若桜	桃山学院大学	○実習期間：平成29年8月8日（火）～8月18日（金）【11日間】 ○実習生：学生1名 ○実習内容：①販売業務（開店・閉店準備、レジ打ち、品出し） ②食堂での注文業務 ③若桜町見学（若桜駅SL、氷ノ山、岩屋堂）
島根県	安来市	あらエッサ	大阪観光大学	○実習期間：平成30年2月15日（木）～2月19日（月）【5日間】 ○実習生：学生1名 ○実習内容：①レジ業務補助 ②商品陳列 ③ポスター・ポップ作成 ④仕込み・盛り付け
岡山県	笠岡市	笠岡ベイファーム	倉敷芸術科学大学	○実習期間：平成29年8月18日（金）～8月28日（月）【10日間】 ○実習生：学生1名 ○実習内容：①商品開発（ソフトクリームの新商品） ②駐車場拡大に向けた新施設案、ツアーの考案 など ③インターンシップ成果発表会（笠岡市役所にて） ④道の駅業務（畑仕事、品並べ）
			岡山理科大学	○実習期間：平成29年8月18日（金）～8月28日（月）【10日間】 ○実習生：学生2名 ○実習内容：①道の駅・笠岡市の活性化（新作アイス）、観光客の増加を目的とした新たな企画立案（展望台、天体観測、フェリー・ヘリコプターによる観光プラン） ②商品の陳列、袋詰め、畑仕事の手伝い（トラクター運転、種まき）

都道府県	市町村	道の駅名	大学名	実習概要
広島県	三次市	ふおレスト君田	大阪観光大学	○実習期間：平成29年8月21日（月）～8月25日（日）【5日間】 ○実習生：学生1名 ○実習内容：①「森のパン屋さん」でのレジ ②「喫茶21番店」でのスタッフ ③フロントでお土産のレジ ④客室の掃除、食事のセット作業、宴会準備 ⑤美術館での接客、作品展示の準備 ⑥レストランでの宴会準備、料理提供
			岡山理科大学	○実習期間：平成29年8月21日（月）～8月25日（火）【5日間】 ○実習生：学生1名 ○実習内容：①囲炉裏 ②風呂掃除と番台、巡回バスの付き添い ③フロント ④はらみちを美術館 ⑤三次市内観光施設視察
	安芸太田町	来夢とごうち	岡山理科大学	○実習期間：平成29年8月28日（月）～9月3日（日）【6日間】 ○実習生：学生1名 ○実習内容：①安芸太田町、道の駅について座学 ②広島グッドデザイン賞審査立会同行 ③柿を使用した商品開発 ④柿農園の手入れ ⑤道の駅前出店
	世羅町	世羅	桃山学院大学	○実習期間：平成29年8月7日（月）～8月15日（水）【8日間】 ○実習生：学生1名 ○実習内容：①レジ打ち ②品出し ③商品の検品 ④コーヒー作成
	三原市	みはら神明の里	岡山理科大学	○実習期間：平成29年8月10日（木）～8月17日（木）【8日間】 ○実習生：学生1名 ○実習内容：①事務員の補佐 ②産直物品販売の補佐 ③飲料販売
徳島県	阿南市	公方の郷なかがわ	岡山理科大学	○実習期間：平成29年8月28日（木）～8月31日（日）【4日間】 平成29年9月7日（木）～9月10日（日）【4日間】 ○実習生：学生2名 ○実習内容：①商品陳列、レジ ②商品発注 ③ホームページ更新 ④ポスター作成・管理 ⑤観光案内・パンフレット補給、掲示 ⑥スタンプラリー、記念切符の販売 ⑦ラッピング用紙作成 ⑧掃除（外回り、玄関、トイレ、商品棚、床、ガラス）
香川県	三豊市	ふれあいパークみの	岡山理科大学	○実習期間：平成29年8月11日（金）～8月14日（月）【4日間】 ○実習生：学生1名 ○実習内容：①物産館での販売、喫茶店での接客やメニューの調理 ②温泉施設の管理、宿泊施設の掃除 ③フロントでの接客、事務の仕事 ④食堂での接客、宴会場の準備や片付け

都道府県	市町村	道の駅名	大学名	実習概要
愛媛県	宇和島市	うわじまきさいや 広場	香川大学	○実習期間：平成29年8月21日（月）～8月23日（水）【3日間】 ○実習生：学生1名 ○実習内容：①販売業務（レジ打ち） ②商品管理業務（仕入入力） ③施設設備管理業務 ④商品仕入れ ⑤商品品出し
高知県	四万十町	あぐり窪川	神戸学院大学	○実習期間：平成29年8月21日（月）～8月25日（金）【5日間】 ○実習生：学生1名 ○実習内容：①地場産品等の販売実施 ②売場及びブログ等での商品紹介 ③「第5回しまんと生姜収穫祭」の企画実施 ④情報コーナー及びブログ等での道の駅情報の発信 ※レポート未提出の為、②「道の駅」別実習結果概要には非掲載
長崎県	西海市	さいかい	長崎国際大学	○実習期間：平成29年8月18日（金）～8月29日（火）【11日間】 ○実習生：学生1名 ○実習内容：①道の駅でのレジ打ちや接客、商品の品出し ②注力商品のセールスポイントの検討、また新商品の提案 ③イベント内の企画（ハロウィン、みかんフェスティバル等） ④インターンシップ総括（報告書の作成、改善案の提出）
熊本県	阿蘇市	阿蘇	文教大学	○実習期間：平成29年8月16日（火）～8月26日（土）【11日間】 ○実習生：学生1名 ○実習内容：①阿蘇の情報を発信するブログ作成 ②阿蘇地域の情報雑誌掲載のためのヒアリング ③阿蘇田園空間博物館の資源と活用法の視察 ④熊本県全体の地域活性の取り組みなどの座学
				○実習期間：平成29年8月16日（水）～8月26日（土）【11日間】 ○実習生：学生1名 ○実習内容：①ホームページのブログ更新 ②道の駅内でのレジ業務 ③ASO田園空間博物館のまちづくり業務 ④インターンシップを通しての提案（職場内発表）
			岡山理科大学	○実習期間：平成29年8月27日（日）～9月13日（水）【18日間】 ○実習生：学生1名 ○実習内容：①観光窓口と外出考察 ②レジ販売 ③中国語の翻訳 ④ポスターの作成
			日本文理大学	○実習期間：平成29年9月13日（水）～9月20日（水）【7日間】 ○実習生：学生2名 ○実習内容：①現地での販売実習 ②韓国語のパンフレット作成 ③韓国語のホームページ作成 ④震災地の訪問
			大阪観光大学	○実習期間：平成30年2月14日（水）～2月18日（日）【5日間】 ○実習生：大阪観光大学 学生1名 ○実習内容：①サテライトの現地視察 ②レジの体験 ③野焼き見学 ④情報の発信

都道府県	市町村	道の駅名	大学名	実習概要
熊本県	南阿蘇村	あそ望の郷くぎの	江戸川大学	<ul style="list-style-type: none"> ○実習期間：平成 29 年 8 月 16 日（水）～8 月 18 日（金）【3 日間】 ○実 習 生：学生 1 名 ○実習内容：①品出し ②商品の袋詰め ③移動販売 ④商品の陳列
鹿児島県	薩摩川内市	樋脇	帝京大学	<ul style="list-style-type: none"> ○実習期間：平成 29 年 8 月 5 日（土）～8 月 12 日（土）【8 日間】 ○実 習 生：学生 1 名 ○実習内容：①道の駅樋脇にてアンケート調査実施 ②レジ業務 ③商品管理業務（野菜等の運搬） ④食堂業務 ⑤地域振興業務（市比野温泉夏祭りでの業務）

② 「道の駅」別実習結果概要

道の駅「なみおか」インターンシップ結果概要①



実習概要

- 実習期間：平成29年8月2日（水）～8月25日（金）【24日間】
- 実習生：青森大学 学生1名
- 実習内容：①Facebookを活用したソーシャルメディアマーケティング調査・検証
②道の駅やその周辺の観光スポット、イベント等の取材
③道の駅の各種情報と上記取材結果のFacebook投稿
④これらの活動の効果検証

取組状況



<活動の最終報告会>

<活動の様子や取材結果に関する投稿>

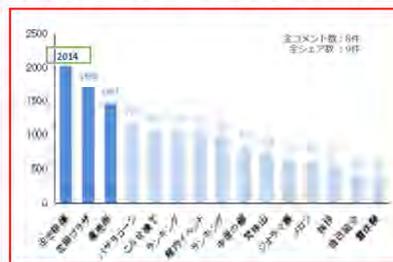
道の駅「なみおか」インターンシップ結果概要②



実習成果

- 工夫、成果と検証
- ・インターンシップ生の「日記」スタイルで投稿。取材も反映
- ・前年同期より投稿のリーチ数増（平均643件⇒760件）
- ・同じくネット通販の件数が1件から5件に、売上も大幅に増加
- ・それまで少なかった投稿へのコメントがついた
⇒「実績」「共感」創出に成功

★投稿のエンゲージ数（最多は2014年）



★ネット通販の売り上げ増加



実習を終えて

- ・Facebookのエンゲージ数、オンラインショッピングの売り上げは伸びたので、現状維持のためにも今後も改善が有効と考えられる。
- ・Facebook以外の情報発信源も活用したほうがいいのではないか。
- ・浪岡の方や観光客の皆さんに、とても親切にいただいた。
- ・コメント欄で話しかけていただき、とても温かく感じた。
- ・Facebookを初めて利用して、他の方とコミュニケーションを取れるのがとても楽しかった。

道の駅「いまべつ」インターンシップ結果概要①



実習概要

- 実習期間：平成29年8月17日（木）～8月31日（木）【14日間】
- 実習生：青森中央学院大学 学生1名
- 実習内容：①駐車場清掃
②道の駅開店準備
③レストランでのホール作業
④顧客調査

取組状況



<駐車場施設内待合ホールの清掃
実施状況>



<道の駅内の水道水水質検査
実施状況>



<レストラン入口でのメニューの確認と
テーブル案内の様子>

道の駅「いまべつ」インターンシップ結果概要②



実習成果

- 成果
- ・利用者の傾向の把握
 - ・お客様のニーズ
 - ・連休中の販売の仕方

テーブル用お冷やの準備



食後のテーブル片付けの様子



実習を終えて

・今回の実習では、県外からくるお客様よりも地元の方々が多く利用している印象が強かった。連休中には県外のお客様が集中するため、レストランにおいてはその期間の売り上げで総売上が左右される。商品に関しても試食を出してからの売り上げが大きく伸びたため、各商品の試食を連休中に提供することでもう少し売上を伸ばせると考えた。やはり、いかにお客様に商品を知ってもらうかというのが重要になってくると実感した。レストランのメニューに関しても他の道の駅とより連携を組むことによって特定の道の駅ではなく、いろいろな道の駅でその味を楽しんでもらうことができるということがもしてきたなら、道の駅もより活気づくなど考える機会が多い実習だった。

道の駅「たざわ」インターンシップ結果概要①



実習概要

- 実習期間：平成29年8月7日（月）～8月18日（金）【10日間】
- 実習生：福島大学 学生1名
- 実習内容：①開店準備
 - ②厨房業務
 - ③売店および対面販売業務
 - ④インフォメーション業務

取組状況



<草木塔講義の実施状況>



<対面販売の実施状況>



<売店業務の実施状況>

道の駅「たざわ」インターンシップ結果概要②



実習成果

- 相手に合わせた接客のやり方を考え実践できた。
アルバイトとは違う客層への接客だったため、元気さや明るさ、笑顔を意識して接客に当たった。
- 地元についてよく知ることができた。
インフォメーション業務を通し、地元の観光地やお土産品について、今までより詳しく知ることができた。今後社会に出てからも、地元の話コミュニケーションツールとして活用したい。

実習を終えて

忙しい時期にインターンシップ生を受け入れていただき大変ありがたかった。忙しい時期だからこそ学ぶことが多かった。

様々な部署で仕事を体験させていた分多くのことを経験できた。コミュニケーションが活発な職場で、そのおかげで仕事も円滑にすすんでいるとおもったので、私も相手に積極的に働きかけて物事を円滑に進められるようになりたいと思った。

道の駅「さとみ」インターンシップ結果概要①



実習概要

- 実習期間：平成29年8月13日（日）～8月26日（土）【14日間】
- 実習生：茨城キリスト教大学 学生2名
- 実習内容：①「道の駅」店舗販売に関する業務（準備・片づけ、店舗・レストラン接客）
②店舗内販売およびソフトクリーム等の販売、販売促進活動
③地元食材を使用した新メニューの開発と販売
④地域の方々との交流（夏祭り等のイベント参加）

取組状況



<店舗の販売状況>



<ソフトクリーム販売所にて>



<接待・販売状況>

道の駅「さとみ」インターンシップ結果概要②



実習成果

- 新メニューの考案・販売
- ・2名で考案した地元食材を使用したメニュー（夏野菜のカポナータ、フルーツサンデー）が、幅広い年齢層に好評でした。

・新メニュー表と価格



・地元食材を使用した新メニュー



実習を終えて

- ・2週間という短い期間でしたが、充実したインターンシップを行うことができました。道の駅での準備・販売の他にも、夏祭りへの参加等で交流が出来た事も貴重な体験でした。新メニューについては、地元の食材にこだわり考案しました。メニューの検討から食材の調達、価格設定まで時間が掛かりましたが、幅広い年齢層に購入していただき達成感を感じています。特にフルーツサンデーが良く売れたのが、自信になりました。

道の駅「ひたちおおた」インターンシップ結果概要①



実習概要

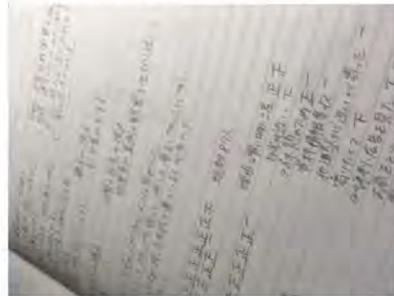
- 実習期間：平成29年8月11日（金）～8月27日（日）【14日間】
- 実習生：専修大学 学生1名
- 実習内容：①レストランホールスタッフ体験
②インフォメーション業務でのアンケート調査の実施
③トマトハウスの農業就労体験
④コーヒーショップでの会計やその他イベントの補助

取組状況

<アンケート調査の実施状況>



<体験まための実施状況>



道の駅「ひたちおおた」インターンシップ結果概要②



実習成果

<作成したスライド>

アンケート調査結果	アンケート調査結果
<ul style="list-style-type: none"> ・アンケートを実施するにあたっての目的 <ul style="list-style-type: none"> -企業分析学習を補強する ・アンケートを実施するにあたっての目標 <ul style="list-style-type: none"> -顧客の意見を集める ・アンケートを実施するにあたってのゴール <ul style="list-style-type: none"> -得たデータで分析する 	<ul style="list-style-type: none"> ・長所(顧客から得た意見) ・接客の綺麗さと清潔さ ・商品種類のレイアウトが何れも変わって飽きない ・日配品や食材のバリエーションが豊富 ・子供が遊べる広場がある(アスレチックや遊具など) ・改善点(顧客から得た意見) ・通路が狭いので広くしてほしい ・交通の便の改善 ・テラス席をより増やすべき ・PRイベント時の販促品をより豊かにしてほしい

■学んだこと

- ・業務をする上での報告、連絡、相談の大切さをよく知ることができた。
- ・農業の体験を3日間させて頂き、生産者側の立場に立って大変さを知る経験ができた。
- ・実際の現場に立つことで、運営の流れの詳細を体験し学ぶことができた。

実習を終えて

- ・道の駅「ひたちおおた」の駅長との話の中で、駅長がいかに地域との繋がりを大切にしているか、ということを知ることができた。
- ・障害者用のトイレや災害時のための備え、循環バスなどの交通の利便性といった細かい所への気配りが感じられた。
- ・業務の中には大変なものもあったが、働くことを楽しんで体験し、多くのことを学習できた。

道の駅「まくらがの里こが」インターンシップ結果概要①



実習概要

- 実習期間：平成29年8月3日（木）～8月4日（金）【2日間】
- 実習生：立教大学 学生1名
- 実習内容：①道の駅を支える仕組みについて理論的に学ぶ
 - ②レジ業務にてお客様の購買動向を視察
 - ③生産農家様と直売所へ野菜を陳列・インタビュー
 - ④パンの加工状況視察・販売業務

取組状況



<地産のものを利用した食品の
販売業務の実施状況>



<レジ業務の実施状況>



<パン販売業務の実施状況>

道の駅「まくらがの里こが」インターンシップ結果概要②



実習成果

- 生産農家様と野菜を直売所へ陳列・インタビュー
 - ・直売所を運営する仕組みについて理解した。
 - ・運営側が商品提供者や従業員の意見に積極的に耳を傾ける姿勢の重要性を理解した。
- レジ業務にてお客様の購買動向を視察
 - ・古河ではメロンとカボチャが特産とのことであったが、その点をより推していくことで、購買者の中での古河の印象付けも強くできるのではないかと考えた。
 - ・道の駅内の様々な施設の中でも直売所が最も人気であり、重要な役割をもっていることを実感した。
 - ・顧客のことを考えたサービスが多くなされていた。

実習を終えて

- ・実習全体を通して、従業員等からの意見を取り入れることの重要性を感じられた。多くのアイデアを参考にすることによってより良い姿にしていけることを理解した。
- ・もう少し作りを広くした方が、来訪者の方がより開放感を感じられて快適に過ごせるのではないかと考えた。
- ・この道の駅に関わる人すべてが仲良く支え合っている印象を受けた。労働環境を整えることの大切さを実感した。

道の駅「どまんなかたぬま」インターンシップ結果概要①



実習概要

- 実習期間：平成29年8月31日（木）～9月5日（火）【6日間】
- 実習生：帝京大学 学生1名
- 実習内容：①農産物直売所「朝採り館」の販売業務
②移動スーパー「とくし丸」の販売業務
③移動スーパー「とくし丸」の開拓業務

取組状況



＜農産物直売所「朝採り館」
販売業務の実施状況＞



＜移動スーパー「とくし丸」
販売業務の実施状況＞



＜移動スーパー「とくし丸」
開拓業務の実施状況＞

道の駅「どまんなかたぬま」インターンシップ結果概要②



実習成果

■「どまんなかたぬま」での実習

- ・農産物直売所では、地産地消の取り組みを勉強することが出来た。
- ・移動スーパー「とくし丸」販売業務では、お客様との距離が近い分、接客スキルを身に付けることが出来た。
- ・移動スーパー「とくし丸」開拓業務では、買い物難民の現状について学ぶことが出来た。

・「とくし丸」開拓業務の成果



実習を終えて

- ・6日間という短い期間だったが、毎日が新しい発見のある充実したインターンシップだった。
- ・道の駅では、初めて導入された移動スーパー「とくし丸」を販売と開拓と学び、今後増加する買い物難民を現場で学んで、移動スーパーの今後の重要性に気づかされた。

道の駅「ららん藤岡」インターンシップ結果概要①



実習概要

- 実習期間：平成29年8月7日（月）～8月14日（月）【7日間】
- 実習生：帝京大学 学生1名
- 実習内容：①農産物直売所での座学、レジ補助、商品の出荷
②花の交流館での花の手入れ、フラワーアレンジメント
③レストランのホール業務
④観光案内所での座学

施設写真



<施設案内板>



<農産物直売所>



<花の交流館>

道の駅「ららん藤岡」インターンシップ結果概要②



実習成果

- ・植物に対する知識が増えました
- ・作業効率を考えながら仕事が出来ました
- ・道の駅の運営について知ることが出来ました

・フラワーアレンジメント実習



・群馬県認定の「エコファーマー」の目印



実習を終えて

- ・「何をしたら学生の為になるか」と色々案を考え、実習内容を決めたり、資料を用意して私を受け入れていただき、とても感謝しています。
- ・施設管理、小売業、飲食業の3事業部と、観光案内所での実習や座学で教えていただいた事は、これからの私の将来を考えるための参考になりました。

道の駅「風和里しばやま」インターンシップ結果概要①



実習概要

- 実習期間：平成29年9月4日（月）～9月10日（日）【5日間】
- 実習生：専修大学 学生1名
- 実習内容：①レジ打ち補助、品出し等の接客業務
②生産者さんとの交流
③系列店「空の駅 風和里しばやま」視察
④風和里しばやまオリジナル「古代米バウムクーヘン」試食販売

取組状況



<レジ打ち補助>



<ラベル貼り>



<POP作成>

道の駅「風和里しばやま」インターンシップ結果概要②



実習成果

☆風和里しばやまオリジナル「古代米バウムクーヘン」の試食販売を行いました。



実習を終えて

- ・この道の駅は、町民による町民の為のなくてはならない存在なのだと知ることができた。
- ・スタッフの方々と生産者さんの会話が多くの信頼関係につながり、結果としてより良い店舗運営につながっているのだと感じた。
- ・決してほかの格安チェーンには真似できない「あたたかさ」が、多くのお客様を引き付けているのだと思う。
- ・一週間という短い期間ではあったが、たくさんの人生の先輩とお話しをして、自分自身大きく成長でき、貴重な経験となった。

道の駅「季楽里あさひ」インターンシップ結果概要①



実習概要

- 実習期間：平成29年8月10日（木）～8月18日（金）【9日間】
- 実習生：帝京大学 学生1名
- 実習内容：①野菜、果物のパック詰め
②レストランの補助
③夏期のイベント補助
④商品の仕入れ

取組状況



<野菜のパック詰めの実施状況>



<イベント補助の実施状況>



<イベント補助の実施状況>

道の駅「季楽里あさひ」インターンシップ結果概要②



実習成果

- 得たもの
 - ・コミュニケーション能力
 - ・情報伝達能力
 - ・皆様の温かい人情

実習を終えて

・お盆の繁盛期にわざわざ受け入れをしていただいた、季楽里さんですが、お忙しいにも関わらず私へのご指導を全く怠らず、真摯に対応してくれました。また、勤務後も駅長や料理長にご馳走になったり、勤務中も生産者様から食べ物を頂いたりして、人の温かみをしかと感ずることができました。私の学生生活の中で、一生忘れない思い出になり、また、自身のこれからの就職活動に役立つような知識も得ることができました。このインターンシップは私の一生の思い出です。改めて、本当にありがとうございました。

道の駅「季楽里あさひ」インターンシップ結果概要①



実習概要

- 実習期間：平成29年9月10日（木）～9月24日（木）【14日間】
- 実習生：平安女学院大学 学生1名
- 実習内容：①露店（金魚すくい・かき氷・水ふうせん）の運営
②バイキングレストラン（ホール）・花屋の接客
③野菜の袋詰め・品出し・レジ
④道の駅グランプリ出場の米粉焼の試作

取組状況



<露店（金魚すくい）の実施状況>



<トウモロコシ早食い大会の実施状況>



<米粉焼きの実施状況>

道の駅「季楽里あさひ」インターンシップ結果概要②



実習成果

- 道の駅向上のために
 - ・実習生と社員の方との意見交換を行いました。
 - ・イベントを盛り上げるためにたくさんの呼びかけを行いました。

・道の駅向上への案

- ・レストランのデザートメニューの種類の増加
- ・季楽里あさひの広い土地を利用したフリマの開催
- ・休憩所の充実
- ・ゴミ箱の位置 など

・トウモロコシの早食い大会呼びかけで多数参加



実習を終えて

- ・道の駅は、遠方の方々の休憩所だけでなく、人々の暮らしの一部であると感じることができた。
- ・皆でつくるものだ実感し、道の駅の在り方を考えることができる良い機会だった。
- ・会社の向上、維持することがどれだけ大変であるか実感しました。

道の駅「雷電くるみの里」インターンシップ結果概要①



実習概要

- 実習期間：平成29年9月4日（月）～9月13日（水）【10日間】
- 実習生：長野大学 学生1名
- 実習内容：①環境部門における実習（駐車場、トイレ等の清掃活動）
 ②食堂部門における実習（食堂での軽食提供に係る業務全般）
 ③店舗部門における実習（農産物直売所、お土産品売店での接客業務）
 ④地元生産者との交流、道の駅運営の改善点へのアイデア出しなど

取組状況



<清掃活動等の実施状況>



<直売所で接客業務の実施状況>



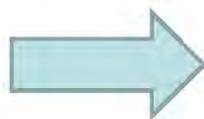
道の駅「雷電くるみの里」インターンシップ結果概要②



実習成果

研修前の不足部分

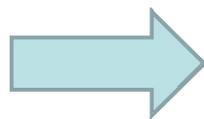
実行力



研修を振り返って

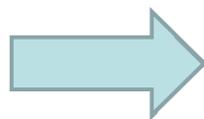
疑問に思ったことは積極的に質問し、業務に取り組めた。

課題発見力



どうすれば貢献できるのかという答えを見つけるのに時間がかかった。

傾聴力



職員の方の話を聞いてメモを取ることを心がけた。

実習を終えて

- 長野県は農業が盛んなことから、研修前から地元で貢献できる職業に就きたいと考えていたが、農産物直売所で生産者の方の話を聞き、農業関係の職業に就きたいと考えた。
- そのために、道の駅だけでなく、JAや農場等の職業について調べ、農業関係の職業の視野を広げたい。

道の駅「あおき」インターンシップ結果概要①



実習概要

- 実習期間：平成29年8月6日（日）～8月17日（木）【10日間】
- 実習生：文教大学 学生1名
- 実習内容：①店頭での野菜の苗の販売
②お墓参り用の仏花の販売
③農園でのジャガイモ掘り
④店内の清掃・備品整備

取組状況



<店頭での野菜の苗の実施状況>



<仏花の組み立ての実施状況>



<店内清掃の実施状況>

道の駅「あおき」インターンシップ結果概要②



実習成果

- ・店頭での接客販売を通じて、サービス業に必要なスキルやホスピタリティの精神を学ぶことができた。
- ・実際に自分で仏花を作ったり、ジャガイモを収穫することによって、農家などの実際に現場で働いている人の大変さを理解することができた。

・制作した仏花



・収穫したジャガイモ



実習を終えて

- ・**よかった点**
 - ・体験を通して、社員の方やお客様と積極的にコミュニケーションが図れたのでよかった。また、普段のアルバイトでの接客やビジネスマナーを実習で活かせたのでよかった。
- ・**悪かった点・反省点**
 - ・分からないことや、困ったことがあったら、すぐに社員の方に聞いてしまったので、もっと自分で考えて行動をするべきだった。

道の駅「南アルプスむら長谷」インターンシップ結果概要①



実習概要

- 実習期間：平成29年8月22日（火）～8月29日（月）【7日間】
- 実習生：立教大学 学生1名
- 実習内容：①道の駅の運営構造の把握
②直売所での販売業務体験（レジ打ち、陳列、ソフト販売等）
③地元特産品の加工場での加工・梱包体験
④農業体験

取組状況



<直売所の商品陳列実施状況>



<道の駅の周辺視察実施状況>



<農業体験の実施状況>

道の駅「南アルプスむら長谷」インターンシップ結果概要②



実習成果

- ・道の駅を訪れたお客様との接客のなかで、この道の駅がこの地域の観光の拠点であることを理解した。
- ・道の駅にかかわる人々の地域でのつながりが、道の駅の成長に連動しており、人々の交流の拠点となっていることを知った。
- ・インターン活動の一部が、地域新聞に取り上げられた。
- ・道の駅の運営のための公式googleアカウントを開設した。



- ・長野新聞に掲載された記事
- ・道の駅の目の前にある、美和ダムのダムカード配布に関する内容

実習を終えて

- ・道の駅と地域の農民方々との繋がりを直接感じる事が出来た。高齢化・人口減少の中で、地域の方々が互いに支えあって生活しており、都会にはない温かさを感じた。
- ・周囲を山に囲まれた盆地であり、地元客のほかに登山客やキャンプ客も多かった。マウンテンバイクやダム見学等、ほかにも根強い人気を持った観光資源が多く、道の駅から観光に訪れた人々へ向けて発信できる情報はまだまだあるという風を感じられた。

道の駅「瀬替えの郷せんだ」インターンシップ結果概要①



実習概要

- 実習期間：平成29年8月5日（土）～8月8日（火）【4日間】
- 実習生：法政大学 学生1名
- 実習内容：①「道の駅瀬替えの郷せんだ」における実習（接客のお手伝い、ポップ作り、施設内の清掃、商品の陳列など）
②お盆縁日の準備、玉こんにゃく販売のお手伝い
③道の駅を利用される方、お店の方、また農家の方々へのインタビュー

取組状況



<道の駅内ミニスーパーでの販売、接客の実施状況>



<お盆縁日準備の状況>



<お盆縁日開催中の状況>

道の駅「瀬替えの郷せんだ」インターンシップ結果概要②



実習成果

- ・道の駅での販売は、農家の方々との強い信頼関係の上で成り立っていると学ぶ
- ・地域の方々の笑顔をお願い、支え合う場であるのだと学ぶ

・店内野菜陳列後の様子



・農家さん訪問時の様子



実習を終えて

道の駅、瀬替えの郷せんださんは周辺地域とどのような関りを持っているのか、それをテーマにした。そもそも道の駅というのは駐車場とお手洗いのことを指す。今は、それに付属したお土産売り場や食べ物販売などが拡大、有名になってきている。

だが、瀬替えの郷せんださんは商売メインではなく、地域内の交流が主なのだと言った。それは、もともと「仙田体験交流館」として機能していたこともあり、名は道の駅に変わったが今でも、交流の場として機能している。

地域の方々には、もちろん買い物をする、という目的もあるが、それ以上に道の駅内のミニスーパーで働いている店員さんや、お客さん同士での会話を楽しみに来店されていた。私もお客さんとお話をし、また隣でお話を聞いていて、皆さんとてもパワフルで、輝いているように感じた。そして、ここにこの道の駅の魅力があるのだと考えた。

道の駅「伊吹の里」インターンシップ結果概要①



実習概要

- 実習期間：平成29年8月17日（木）～ 8月31日（木）【14日間】
- 実習生：岡山理科大学 学生 1名
- 実習内容：①食堂【穂波】（調理補助、掃除）
②パン工房【檜の実】（成形、掃除、ラッピング）
③直売所【森の民】（品出し、掃除）
④事務（POP作成）

取組状況

- ①食堂での取り組み … お惣菜のパック詰め等の調理補助、開店時には受付、閉店時にはキッチンの掃除・客席の掃除を行った。
- ②パン工房での取り組み…パン生地の成型、ゼリー等のデザート作りや品出しを行った。
- ③直売所での取り組み… 足りない商品の品出し、閉店時のゴミ出しを行った。
- ④事務での取り組み … POP作成のソフト(ラベル屋さん)を提案し、それで店内商品のPOPを作成した。

道の駅「伊吹の里」インターンシップ結果概要②



実習成果

- ・パン工房では、昔から好きだったパンの成型、特にオリジナルの食パンは一から作ることができ、成形も学ぶことができた。
- ・事務の作業では、学科で学んでいることを応用し、PCでPOP作成のためのソフトを入れたり、役に立てることがあったため、とても嬉しかった。
- ・食堂、直売所で人間関係を円滑に進めるには、いろいろな人との連絡、相談が大切だと学ぶことができた。

実習を終えて

- ・食堂では、少ない人数で効率よく動くには、一人一人が考えて動くことが重要だなと実感した。
- ・自分の得意分野、苦手分野がはっきり分かった。
特に得意分野だと感じたのは、流れをつかんで一つの作業に集中してとりかかれるところだと感じたので、これからはそれを生かしていきたい。
- ・見えないところで多くの人が、一つの場所を支えていることが分かった。

道の駅「かなん」インターンシップ結果概要①



実習概要

- 実習期間：平成29年8月21日（月）～8月25日（金）【5日間】
- 実習生：大阪観光大学 学生1名
- 実習内容：①主に接客・レジ業務補助
②農作業

取組状況



道の駅「かなん」インターンシップ結果概要②



実習成果

- 接客・レジ業務補助をする際、地元のお客さんと沢山お話しをすることができ、やりがいを感じました。
- 初めてトマトやネギ等の農作業をし、いろいろな苦労を知りました。

・品出し



・農作業



実習を終えて

- 五日間の実習は大変でしたが、時間が経つのはあっという間でした。今までに経験したことがないこともたくさん経験することができ、とても充実した五日間でした。
- 接客についてなどいろいろなことを学びました。サービス業界に向けて、今後活かしていきたいです。
- 道の駅の皆さんはとても親切で大変お世話になりました。ありがとうございました。

道の駅「とうじょう」インターンシップ結果概要①



実習概要

- 実習期間：平成29年8月29日（火）～9月1日（金）【4日間】
- 実習生：大阪観光大学 学生1名
- 実習内容：①レジ業務補助
②商品陳列
③農作業（葡萄の収穫）
④出荷作業

取組状況



<葡萄収穫の実施状況>



<出荷作業の実施状況>



<郵送の箱詰め作業実施状況>

道の駅「とうじょう」インターンシップ結果概要②



実習成果

- 実習を終えて
- ・接客をしてみても就職に活かそうと思った。
- ・毎日の農作業で旬の野菜などの知識がついた。

・かんぴょう



・畝にかかったカラス



実習を終えて

- ・毎日、畑でできた野菜中心の食事を食べさせていただいて食生活に変化がありました。
- ・接客の難しさや、経営について初めて知る事がほとんどだったのでこれからの就職で活かしていこうと思いました。農作業をしてるうちに苦手だった虫も気にならなくなりました。農家の方や道の駅の関係者が居ての実習なので充実した実習ができて感謝しています。

道の駅「ふたかみパーク當麻」インターンシップ結果概要①



実習概要

- 実習期間：平成29年9月13日（水）～9月15日（金）【3日間】
- 実習生：大阪観光大学 学生1名（留学生）
- 実習内容：①直売所での仕事
②味噌と味噌だれ作り
③甘酒の作り方

取組状況



<麴をほぐす作業>



<米麴混ぜる作業>



<ソフトボール形の味噌を樽に入れる>

道の駅「ふたかみパーク當麻」インターンシップ結果概要②



実習成果

- 味噌の作り方と手順を勉強しました。
- 生麴作りが、一番手間がかかること、味噌は日本人の日常生活に不可欠な一部であるということがわかりました。
- 温度の調節と消毒の大切さと発酵食品の良さもわかりました。

・味噌を袋に入れる



・完成



実習を終えて

- 三日間の実習はあっという間に経ちました。味噌の作り方だけではなく、その歴史、材料の選択、保蔵方法を勉強しました。
- 味噌の他に、甘酒や味噌だれなどの発酵食品の作り方も習うことができました。
- 健康を重視している現代社会で、日本の発酵食品の良さを世界中に宣伝すべきだと思います。
- 道の駅のスタッフさんたちは親切で、詳しく説明してくれました。この実習に参加して、本当によかったと思います。

道の駅「紀の川万葉の里」インターンシップ結果概要①



実習概要

- 実習期間：平成29年8月15日（火）～8月21日（月）【7日間】
- 実習生：岡山理科大学 学生1名
- 実習内容：①商品の袋詰め
②傷んだ商品を選定
③柿の葉寿司に使う洗い終わった柿の葉上の水分のふき取り
④お客様の車や2階の食堂への重い商品や食材の運搬

取組状況



<商品の袋詰めの実施状況>



<傷んだ商品を探している実施状況>



<柿の葉寿司と一緒に出す割り箸をつめているところの実施状況>

道の駅「紀の川万葉の里」インターンシップ結果概要②



実習成果

- ・重い荷物を運ぶのに頼りにされました。
- ・農家の方々に「おはよう」、「元気だね」、「頑張ってるね」と声をかけられました。
- ・自分からは大きい声での声掛けを心がけました。
- ・年配の方が多かったので積極的に力仕事に取り組みました。

・玉ねぎを2階の食堂に運ぶところ



・柿の葉を拭いているところ



実習を終えて

- ・皆さんとても優しい人達で何をすればいいか教えてくれました。例えば返却のため傷んだ果実や野菜を選定する基準や柿の葉寿司用の柿の葉の拭き方を教えてもらいました。
- ・コミュニケーションの大切さを今回の実習で学びました。

道の駅「若桜」インターンシップ結果概要①



実習概要

- 実習期間：平成29年8月8日（火）～8月18日（金）【11日間】
- 実習生：桃山学院大学 学生1名
- 実習内容：①販売業務（開店・閉店準備、レジ打ち、品出し）
②食堂での注文業務
③若桜町見学（若桜駅SL、氷ノ山、岩屋堂）

取組状況



<レジ打ち>



<商品陳列>



<若桜町見学（若桜駅SL）>

道の駅「若桜」インターンシップ結果概要②



実習成果

- ・お盆の期間であったため、多くのお客さんが来られた。早く、正確に対応するのは大変であったが、良い経験になった。
- ・時間が出来た時は、切り花を包む新聞紙をレジの横に用意するなど次の業務がしやすいように準備をすることを学んだ。

実習を終えて

- ・接客のアルバイト経験がなく、初めてのレジ業務だった。最初は、ミスが多く落ち込んでいたが、段々慣れていくうちにミスも少なくなり、お客さんに対しても自然と笑顔で優しく接することができた。
- ・販売業務では、一人で現場にいることも多く、分からないことも多かった。分からないことは自分で勝手に判断せず他の従業員さんに積極的に聞くようにした。

道の駅「あらエッサ」インターンシップ結果概要①



実習概要

- 実習期間：平成30年2月15日（木）～2月19日（月）【5日間】
- 実習生：大阪観光大学 学生1名
- 実習内容：①レジ業務補助
②商品陳列
③ポスター・ポップ作成
④仕込み・盛り付け

取組状況



<商品陳列の実施状況>



<レジ業務補助の実施状況>



<ポスター作成の実施状況>

道の駅「あらエッサ」インターンシップ結果概要②



実習成果

- ・アルバイトで接客経験を十分に生かして、お客様に対する気遣いができた。
- ・島根で採れるおいしい魚についてなど、今まで触れることがなかった知識をたくさん教えていただいた。

・お魚調理



・ポスター完成



実習を終えて

- ・地元産にこだわり新鮮な魚が並ぶ、その結果安心して地元で消費できるという良いサイクルになっていることを知った。
- ・教えていただいた新たな知識を今後いらっしゃるお客様に島根の良さとして、発信をしていきたいと思った。

道の駅「笠岡バイファーム」インターンシップ結果概要①



実習概要

- 実習期間：平成29年8月18日（金）～8月28日（月）【10日間】
- 実習生：倉敷芸術科学大学 学生1名
- 実習内容：①商品開発（ソフトクリームの新商品）
②駐車場拡大に向けた新施設案、ツアーの考案 など
③インターンシップ成果発表会（笠岡市役所にて）
④道の駅業務（畑仕事、品並べ）

取組状況



<道の駅での作業>



<笠岡についての勉強会>



<トラクターの運転>

道の駅「笠岡バイファーム」インターンシップ結果概要②



実習成果

- ・人気のソフトクリームを使った新商品を考案。ソフトクリームのカップのサンプル作成。
- ・笠岡諸島をフェリー、ヘリコプターなどで観光するツアー案。
- ・駐車場拡大に向けた新施設の考案。
- ・カブトガニ博物館と連携した、カブトガニのPR方法の提案。
- ・最終日、市役所関係者、インターンシップ関係者の前での成果発表。

市役所での発表



実習を終えて

- ・商品開発では予算面で苦労したが、今までと違った観点からの商品提案ができた。笠岡ならではの物をたくさん盛り込んだものをイメージし、理想的な形のものを作成することができた。
- ・笠岡バイファームで働く人や、お客様、笠岡市役所職員など、様々な人と話をする中で得ることがとても多かった。トラクターの運転や野菜の選別など、道の駅の業務を経験し、よい学びができた。

道の駅「笠岡バイファーム」インターンシップ結果概要①



実習概要

- 実習期間：平成29年8月18日（金）～8月28日（月）【10日間】
- 実習生：岡山理科大学 学生2名
- 実習内容：①道の駅・笠岡市の活性化（新作アイス）、観光客の増加を目的とした新たな企画立案（展望台、天体観測、フェリー・ヘリコプターによる観光プラン）
②商品の陳列、袋詰め、畑仕事の手伝い（トラクター運転、種まき）

取組状況



<アイデア提案の実施状況>



<トウモロコシの陳列準備>



<干拓地の説明>

道の駅「笠岡バイファーム」インターンシップ結果概要②



実習成果

- - ・5つのテーマに絞った成果発表を行った
 - ・アイスの新商品、フェリー・ヘリコプターを利用した観光プラン、天体観測、展望台（新施設）の提案



実習を終えて

- ・道の駅という環境で、自分たち学生にどのような企画ができるか最初は不安だったが、10日間という限られた期間で成果発表まで形にできたことは大きな経験になった。（学生）
- ・インターンシップを通して企画・開発を10日間することになり、その中で様々なアイデアなどを考え、さらに実行するところまで考え抜くことで思考が深くなり、非常に良い経験になった。（学生）

道の駅「ふおレスト君田」インターンシップ結果概要①



実習概要

- 実習期間：平成29年8月21日（月）～8月25日（日）【5日間】
- 実習生：大阪観光大学 学生1名（留学生）
- 実習内容：①「森のパン屋さん」でのレジ
②「喫茶21番店」でのスタッフ（接客したり、料理を運んだり、料理を小鉢に盛る作業をしたりしました）
③フロントでお土産のレジ
④客室の掃除、食事のセット作業、宴会の準備
⑤美術館で接客したり、作品の展示の準備したりしました
⑥「囲炉裏」というレストランで宴会の準備したり、料理を提供したりしました

取組状況



<ブルーベリーを狩る状況>



<アイスクリームを作る状況>



<缶詰めをしている状況>

道の駅「ふおレスト君田」インターンシップ結果概要②



実習成果

- 各職場で実習して、お客さんから「いい笑顔ですね」、「サービスが最高だよ」という言葉をいただきました。また、「頑張ってね」と応援してくれました。
- 平田観光農園での体験としてアイスクリーム作りや缶詰めの仕方などを知ることができました。広島三次ワイナリーでワインの作り方を見学し、色々なワインの種類を試飲して、勉強になりました。
- 初めて、旅館サービス（温泉や宴会など）に触れて、厳しきや日本文化の面白さを知るようになり、興味を持つようになりました。
- 「ふおレスト君田」の皆さんとの大切な出会うことが出来てよかったです。



実習を終えて

短い時間「ふおレスト君田」で実習して、勉強になったことが山ほど多かったです。将来、サービス業界に向かう私にとって、それは大切な体験だと思います。接客することは私は初めてではないが、「ふおレスト君田」で実習したからこそ、気づいたことを見つけました。それは店員さんとお客さんのコミュニケーションの必要性です。マニュアルに従うだけでなく、やはりお客さんと雑談やおしゃべりすれば、距離がなく自然に親しくなり、お客さんも喜ばずだと思えます。自分が振り返るとそれはまだまだできないので、今後、その経験を活かしたいと思います。

また、外国人の立場から見ると、「ふおレスト君田」は日本の文化を学ぶことができる所だと思います。今度、留学生向けの君田温泉ツアーを計画して、留学生の友達を「ふおレスト君田」につれていきたいと思っています。

道の駅「ふおレスト君田」インターンシップ結果概要①



実習概要

- 実習期間：平成29年8月21日（月）～8月25日（火）【5日間】
- 実習生：岡山理科大学 学生1名
- 実習内容：①囲炉裏
②風呂掃除と番台、巡回バスの付き添い
③フロント
④はらみちを美術館
⑤三次市内観光施設視察

取組状況



< 囲炉裏の実施状況 >



< 温泉の実施状況 >



< はらみちを美術館の実施状況 >

道の駅「ふおレスト君田」インターンシップ結果概要②



実習成果

- ・ 囲炉裏では、料理の配膳について学びました。
- ・ フロントや番台では、「ごゆっくりお過ごしください」や「お気をつけて」などの声かけがとても大事だということを知りました。
- ・ はらみちを美術館では、はらみちを先生の経歴を聞き、絵を見て、たくさんの人に先生の絵を知ってもらいたかったです。
- ・ 市内観光施設視察では、私が行ったことがない三次の観光施設に行くことができ、三次について詳しく知ることができました。

・ 常清滝



・ 平田観光農園



道の駅「ふぉレスト君田」インターンシップ結果概要③

実習を終えて

今回の君田温泉のインターンシップでは、お客様に快適に過ごして頂くためのサービスや声かけについて学ぶことができました。

「ありがとうございました」や「お気をつけて」などの声かけや挨拶は、どの仕事でも必要なので、意識せず自然にできるようにしたいです。

また、巡回バスと美術館で、就職について、アドバイスを頂きました。公務員と民間の企業、どちらに進むべきか悩んでいましたが、公務員を目指すべきだとはっきりさせることができました。

今回学んだことを、就職活動、そして社会にでて、お客様の対応をする際に活かしていきたいです。

道の駅「来夢とごうち」インターンシップ結果概要①



実習概要

- 実習期間：平成29年8月28日（月）～9月3日（日）【6日間】
- 実習生：岡山理科大学 学生1名
- 実習内容：①安芸太田町、道の駅について座学
②広島グッドデザイン賞審査立会同行
③柿を使用した商品開発
④柿農園の手入れ
⑤道の駅前出店

取組状況



<商品開発>



<道の駅前出店>



<柿農園の手入れ>

道の駅「来夢とごうち」インターンシップ結果概要②



実習成果

■アンケート調査

POP広告を作成し、道の駅前で試作品の商品を実際に食べてもらった。そしてアンケートに記入してもらい、結果を表やグラフにまとめた。



実習を終えて

■道の駅での実習や、地域の人達と交流をして町全体で安芸太田町を盛り上げていこうと感じた。インターンシップを通して学んだことをこれからも活かしていきたい。

道の駅「世羅」インターンシップ結果概要①



実習概要

- 実習期間：平成29年8月7日（月）～8月15日（水）【8日間】
- 実習生：桃山学院大学 学生1名
- 実習内容：①レジ打ち
②品出し
③商品の検品
④コーヒー作成

取組状況



<品出しの実施状況>



<商品を渡している最中の実施状況>



<レジの実施状況>

道の駅「世羅」インターンシップ結果概要②



実習成果

- ・お客様のニーズにあったことが出来るようになった。
- ・農家の人から商品を店頭で並べるまでにいくつもの手順をふまないといけないと思った。

品出し



・店内の様子を確認中



実習を終えて

・道の駅と聞くとあまり目立たないように思われがちだが全国に1030か所もありそれぞれの道の駅でしのぎを削っている。その中でも、世羅では完成してから2年ほどしか経過しておらず、綺麗な道の駅であった。しかも、新しいことに挑戦し続けている。そのようなところで素晴らしい経験が出来たことはこれから役に立つと思います。

道の駅「みはら神明の里」インターンシップ結果概要①



実習概要

- 実習期間：平成29年8月10日（木）～8月17日（木）【8日間】
- 実習生：岡山理科大学 学生1名
- 実習内容：①事務員の補佐
②産直物品販売の補佐
③飲料販売

取組状況



<物販の補佐の実施状況>

道の駅「みはら神明の里」インターンシップ結果概要②



実習成果

- ・仕事に対する考え方が変化しました。
- ・接客業の大変さを体感できました。

実習を終えて

忙しい時期の受け入れ、ありがとうございました。

このインターンシップを通して接客業はお客様のために働いていることがよく理解できました。
今までお客様の笑顔を見られるように頑張ろうと思い、お仕事をさせていただきましたが、空回りしていました。
努力だけでは上手くいかないことを実感させられました。
これからは一つでも誰にも負けないものを見つけます。

道の駅「公方の郷なかがわ」インターンシップ結果概要①



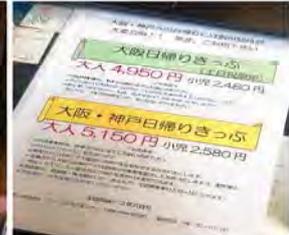
実習概要

- 実習期間：平成29年8月28日（木）～8月31日（日）【4日間】
平成29年9月7日（木）～9月10日（日）【4日間】
- 実習生：岡山理科大学 学生2名
- 実習内容：①商品陳列、レジ
②商品発注
③ホームページ更新
④ポスター作成・管理
⑤観光案内・パンフレット補給、掲示
⑥スタンプラリー、記念切符の販売
⑦ラッピング用紙作成
⑧掃除（外回り、玄関、トイレ、商品棚、床、ガラス）

取組状況①



<商品陳列の実施状況>



<ポスター作りの実施状況①>

取組状況②



<棚掃除の実施状況>



<発注の実施状況>



<行事の把握の実施状況>



<ポスター作りの実施状況②>

道の駅「公方の郷なかがわ」インターンシップ結果概要②



実習成果

- 観光案内について学んだ。
『公方』の由来を知り地元の歴史を学べた。
- ホームページの更新を行った。
2017年に行った行事や、これから行う行事やグッズ販売について告知をし、もっと道の駅のことを知ってもらえるように工夫した。
- 商品陳列・レジ業務を行った。
実際にお客様と関わることができる機会であった。道を聞かれたり、おすすめのお土産を聞かれたりし、最終的にはお客様との会話を楽しめるようになった。
- 掃除を徹底した。
出勤して掃除から始まり掃除で終わる実習だった。毎日、外から中まで掃除しても、次の日になったら結構汚れたりしていて、誰もが自由に使える場所だからこそ汚す人はいるし綺麗にしてくれる人もいるのだなと感じた。
私は前者にならないように気をつけ、綺麗にしてくれる人がいることを忘れないようにしようと感じることができた。



<観光案内パンフレット>



<トイレ>



<商品陳列・レジ>



実習を終えて

- 道の駅は誰でも利用できるもので、特にトイレは夜でもずっと使える。だからこそ誰もが快適に使えるように毎日掃除を欠かさず行っている。それでも次の日になったら結構汚れており、道の駅の方に話を聞くと、わざと汚す人もいるとのことである。実際に実習で掃除を行って、当たり前のことではあるが道の駅だけではなくほかの施設でも綺麗に使おうと思った。
- 清潔・綺麗なお店には人は集まる。そのためにトイレ掃除や外回りの掃除を徹底する努力がされていると感じた。
その結果、お客様からお礼状がきたりする素敵な道の駅であると感じた。
- 道の駅は県外の人向けの施設ではなく、地元の人にも便利な施設だと感じた。地元ではあるが知らない商品も多かったり、県内や市内の情報が多くあり、これからは色んなところの道の駅に行ってみようと思った。
- ホームページの更新という貴重な経験をさせていただいて、告知することによっての集客増があると分かった。
インターネットを使った告知はこれから、更に必要になっていきますので、もっとパソコンを使えるようにしようと思った。

道の駅「ふれあいパークみの」インターンシップ結果概要①



実習概要

- 実習期間：平成29年8月11日（金）～8月14日（月）【4日間】
- 実習生：岡山理科大学 学生1名
- 実習内容：①物産館での販売、喫茶店での接客やメニューの調理
②温泉施設の管理、宿泊施設の掃除
③フロントでの接客、事務の仕事
④食堂での接客、宴会場の準備や片付け

取組状況



<温泉循環装置のフィルターの掃除>



<フロントでのロッカーキーの受け渡し>



<宴会場の準備 >

道の駅「ふれあいパークみの」インターンシップ結果概要②



実習成果

- ・様々な年齢のお客様に快適に過ごしてもらうために、という気持ちからその場面にあった対応をとることが身についた
- ・今回体験した仕事を含め、多種多様な作業がうまく組み合わさって機能していた。様々な役割の方と協力してお客様にサービスを提供することの大切さが理解できた。
- ・チームの協力体制をスムーズに行うためには、普段からのコミュニケーションをしっかりとることが必要と感じた。

実習を終えて

- ・客として訪れる時とは違った目線から物事を見ることができた。
- ・自分がこれまで利用した時には全く考えなかったが、客に快適に過ごしてもらうために様々なスタッフの努力の上にその快適さが成り立っていることが分かった。

道の駅「うわじまきさいや広場」インターンシップ結果概要①



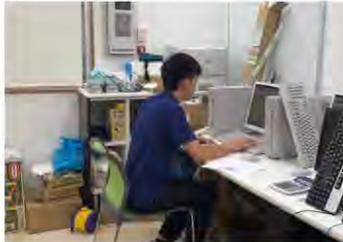
実習概要

- 実習期間：平成29年8月21日（月）～8月23日（水）【3日間】
- 実習生：香川大学 学生1名
- 実習内容：①販売業務（レジ打ち）
②商品管理業務（仕入入力）
③施設設備管理業務
④商品仕入れ
⑤商品品出し

取組状況



<販売業務の実施状況>



<商品管理業務の実施状況>



<商品品出しの実施状況>

道の駅「うわじまきさいや広場」インターンシップ結果概要②



実習成果

- - ・商品の品出しなどの販売準備
 - ・売り場での販売
 - ・温度管理、閉め作業等の施設管理業務
 - ・仕入入力といった事務作業
 - ・商品仕入れの現場の見学といった、様々な業務を体験させていただくことができた

・商品品出し後の商品棚



・施設管理業務として、
冷蔵庫の温度チェック表



実習を終えて

- ・3日間という短い期間ではあったものの、職員の方々のご厚意もあり、道の駅の多岐に渡る業務内容の中から上述したような様々な業務内容を体験させていただくことができた。
- ・小売業の業務内容を知ることができたほか、道の駅とその他の小売業の違い、人口減少社会・地域における道の駅の今後の在り方といったものについても話を聞きつつ業務を体験できたことは、地域に根差して働こうと考えている私（学生）にとって良い学びになった。
- ・座学でなく、実際に活動することで、地域の課題を考える機会にもなった。

道の駅「さいかい（みかんどーム）」インターンシップ結果概要①



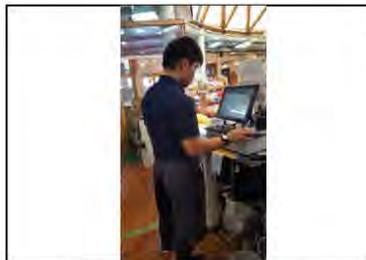
実習概要

- 実習期間：平成29年 8月18日（金）～ 8月29日（火）【11日間】
- 実習生：長崎国際大学学生 1名
- 実習内容：①・・・道の駅でのレジ打ちや接客、商品の品出し
②・・・注力商品のセールスポイントの検討、また新商品の提案
③・・・イベント内の企画（ハロウィン、みかんフェスティバル等）
④・・・インターンシップ総括（報告書の作成、改善案の提出）

取組状況



< 商品品出し の実施状況 >



< レジ打ち の実施状況 >



< 新商品PR の実施状況 >

道の駅「さいかい（みかんどーム）」インターンシップ結果概要②



実習成果

- - ・レジでの接客では、お客様に対しての気使い、思いやりなど、接客の大変さを知ることができた。
 - ・商品の品出しでは、より多くの商品を購入してもらったための工夫を学ぶことができた。



実習を終えて

- ・元氣村で提供されている体験を通じて、グリーンツーリズムの楽しさや面白さそして自然の大切さを伝えていくことの大切さを再認識した。
- ・ミニイベントの企画提案を通じて、お客様を楽ませるためのイベント作りの大変さを知ることができた。

道の駅「阿蘇」インターンシップ結果概要①



実習概要

- 実習期間：平成29年8月16日（火）～8月26日（土）【11日間】
- 実習生：文教大学 学生1名
- 実習内容：①阿蘇の情報を発信するブログ作成
②阿蘇地域の情報雑誌掲載のためのヒアリング
③阿蘇田園空間博物館の資源と活用法の視察
④熊本県全体の地域活性の取り組みなどの座学

取組状況



<高校生との意見交換の実施状況>



<里モンフォーラムの実施状況>



<ヒアリングの実施状況>

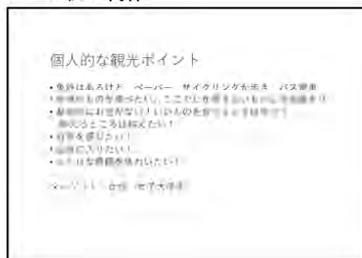
道の駅「阿蘇」インターンシップ結果概要②



実習成果

- ・PowerPointによるフィードバック
- ・道の駅阿蘇ブロガー部記事
- ・あかうしのあくび

・プラン制作



・ブログ作成



実習を終えて

- ・地域活性化に対する興味関心が増した。道の駅阿蘇さんの商品はほぼ阿蘇市内のものしか販売しないなどといった、阿蘇市内だけで取り組んでいる様子が良かった。わたしも将来はある一定の地域に貢献してみたいと思うようになり、とても良い機会となった。
- ・熊本地震で被害を受けていたので、地域の方々は元気がないかもしれないと思ったが、とてもそのようなことはなかった。年長の方々は阿蘇を誇りに思い、また交流した高校生や、障害を抱えた方もそれぞれ阿蘇に対して明るい未来を持っていたので、これから先も希望がある地域だと感じた

道の駅「阿蘇」インターンシップ結果概要①



実習概要

- 実習期間：平成29年8月16日（水）～8月26日（土）【11日間】
- 実習生：文教大学 学生1名
- 実習内容：①ホームページのブログ更新
②道の駅内でのレジ業務
③ASO田園空間博物館のまちづくり業務
④インターンシップを通しての提案（職場内発表）

取組状況



<ブログ更新の実施状況>



<火吹き神事の実施状況>



<トレッキングの実施状況>

道の駅「阿蘇」インターンシップ結果概要②



実習成果

- ・ASO田園空間博物館が行う業務が理解できた。
- ・講演会にいっつか参加したりと、関連性のあるものも深く知ることが出来た。
- ・様々な種類の体験をさせていただき、充実した。

- ・講演会参加



実習を終えて

- ・初回に資料を用意してASO田園空間博物館について説明していただき、わからないところも丁寧に答えていただいたためとてもよかった。
- ・道の駅業務だけではなく、まちづくり業務も行っていたため、自身が気になっていた仕事を知ることが出来た。

道の駅「阿蘇」インターンシップ結果概要①



実習概要

- 実習期間：平成29年8月27日（日）～9月13日（水）【18日間】
- 実習生：岡山理科大学 学生1名（留学生）
- 実習内容：①観光窓口と外出考察
②レジ販売
③中国語の翻訳
④ポスターの作成

取組状況



<ポスターの作成の実施状況>



<翻訳の実施状況>



<レジ販売の実施状況>

道の駅「阿蘇」インターンシップ結果概要②



実習成果

■実習成果の例

- ・原生的な山道で考察する仕事を完璧にできたと思う。
- ・阿蘇火山のロープウェイ駅の展望台を考察するとき、保護帽の色には中国からの観光客の感覚として、「忌むというような気持ちがある可能性が高い」ということを管理者に伝えた。

・原生的な山道での考察



・阿蘇火山のロープウェイ駅で



実習を終えて

・道の駅阿蘇でのインターンシップは自分の想像より良かったと思う。行く前に、阿蘇からの仕事の内容について販売の仕事もあるから、面白くない仕事かしらと思っていたが、結局逆になった。観光窓口や翻訳や外出考察はもちろん、レジと販売の仕事も想像より楽しかった。今回のインターンシップは初めてであるが、参加したら自分は今回の仕事のような仕事を一番したいということがわかった。自分が好きな仕事をするとき、残業しても、一生懸命努力する気もいっぱい出ると思う。それで、できれば、卒業したら道の駅阿蘇での仕事もしたいと思う。

道の駅「阿蘇」インターンシップ結果概要①



実習概要

- 実習期間：平成29年9月13日（水）～9月20日（水）【7日間】
- 実 習 生：日本文理大学 学生2名（留学生）
- 実習内容：①現地での販売実習
②韓国語のパンフレット作成
③韓国語のホームページ作成
④震災地の訪問

取組状況



<事前打ち合わせ>



<翻訳作業の様子>



<くまもんとの記念写真>

道の駅「阿蘇」インターンシップ結果概要②



実習成果

- ①販売実習
阿蘇の特産物について学び、観光客にアピールした。
- ②韓国語のパンフレット作成
韓国語パンフレットを作成、韓国人観光客にアピールした。
- ③韓国語のホームページ作成
韓国語ホームページを作成、韓国人観光客にアピールした。
- ④震災地の訪問
熊本の震災地を訪問し、災害の悲惨さについて学んだ。

実習を終えて

実習を終えて、以下のような点を学び感じた。

- ・阿蘇の特産物について知ることができ、国内や海外観光客にアピールでき、貴重な経験になった。
- ・パンフレットやホームページの韓国語への翻訳を通して地域の国際交流に貢献でき、やりがいを感じた。
- ・阿蘇の人々とのインターンシップを通して、阿蘇に親しみを持つことができ、今後も交流を続けたい。

特産品の韓国語での紹介



대기(사) 지역 명품육(소)은 그소향입니다. 명품가죽(가)이 들어 있어, 새처럼 느낌이 있고, 향기를 좋아하시는 분들에게 추천할 수 있습니다.
한 줄이 지면으로 이렇게 다양하게 먹을 수 있으며, 간편도 간편하게 먹을 수 있는 것이 특징입니다.
잘 가지고 다닐 수 있게 만들 수 있어서, 많은 분들에게 추천하는 것이 좋습니다.
내용은 많은 정보를 가지고 있습니다. 여러분의 사랑을 바랍니다.

震災地の訪問の様子



道の駅「阿蘇」インターンシップ結果概要①



実習概要

- 実習期間：平成30年2月14日（水）～2月18日（日）【5日間】
- 実習生：大阪観光大学 学生1名
- 実習内容：①サテライトの現地視察
②レジの体験
③野焼き見学
④情報の発信

取組状況



<サテライトの現地視察の様子>



<レジ体験の実施状況>



<野焼き見学の実施状況>

道の駅「阿蘇」インターンシップ結果概要②



実習成果

- ・阿蘇地域の文化と観光地への理解が深まった。
- ・地域振興の大変さがわかった。観光客を誘致するため、情報の発信や発信の相手など、細かいことまで考えなければならぬことを学んだ。
- ・観光客のニーズを把握して、役に立つ多言語のパンフレットを作った。

・サテライトの現地視察



・ブログで情報の発信



実習を終えて

- ・お客さんへの言葉遣い、電話対応の正確な方法を研修を通して、分かるようになった。
- ・阿蘇の実習前、熊本に対するイメージはくまモンだけだった。しかし、今回の実習に参加し、熊本の地震のひどさ、（阿蘇神社はまだ修復されていないことと阿蘇駅から熊本駅への電車はまだ再開されていないことなど）がわかりました。道の駅のスタッフたちと市民が連携し、イベントやその他の活動を行って、地域振興をしている姿が阿蘇の隅々に見えた。
- ・今回習った情報発信のやり方を活用し、日本の良さを世界各地に伝えていきたい。

道の駅「あそ望の郷くぎの」インターンシップ結果概要①



実習概要

- 実習期間：平成29年8月16日（水）～8月18日（金）【3日間】
- 実習生：江戸川大学 学生1名
- 実習内容：①品出し
②商品の袋詰め
③移動販売
④商品の陳列

取組状況



<野菜の品出しの実施状況>



<移動販売の実施状況>



<お土産の陳列の実施状況>

道の駅「あそ望の郷くぎの」インターンシップ結果概要②



実習成果

- ・今までは客として商品を購入するだけであったが、商品が店頭に並ぶまでを学ぶ事ができた。
- ・六次産業の難しさと魅力が理解できた。

・あそ望の郷くぎの



・移動販売の様子



実習を終えて

- ・熊本の被災状況を自分の目で見たにより、報道されていない部分を知ることができたのは貴重な体験である。
- ・今回お世話になった「あそ望の郷くぎの」は地元の人との関わりが深く、無くてはならない存在だと感じた。

道の駅「榎脇」インターンシップ結果概要①



実習概要

- 実習期間：平成29年8月5日（土）～8月12日（土）【8日間】
- 実習生：帝京大学 学生1名
- 実習内容：①道の駅榎脇にてアンケート調査実施
 - ②レジ業務
 - ③商品管理業務（野菜等の運搬）
 - ④食堂業務
 - ⑤地域振興業務（市比野温泉夏祭りでの業務）

取組状況



<アンケート調査業務>



<レジ業務中①>



<レジ業務中②>

道の駅「榎脇」インターンシップ結果概要②



実習成果

- ・アンケート調査では約3日間で最低100名の最高200名回答者数を目標とし、結果162名から回答をいただき、道の駅榎脇に対するご意見を聞くことが出来た。
- ・レジ業務では、野菜や花、加工商品など商品項目ごとに分けながら袋に入れ、多くのお客様が来店するなかスムーズに業務を進行することが出来た。
- ・道の駅榎脇の野菜を川内とれたて市場（川内漁港）まで運搬し、漁港では鮮魚をいただいて地域間で連携した業務を経験した。
- ・地域振興業務では、道の駅榎脇として地域の方と連携を図りながら祭りを進行し、地域活性化へと貢献が出来た。



・道の駅榎脇で撮影

実習を終えて

実習では大学の授業とは異なり、実際に道の駅榎脇で働き、地域の方の声を聴くことが出来て、講義だけでなく実際に地域に入って意見を聴く重要性を学んだ。そして、お客様から意見を聴くごとに道の駅榎脇の役割、出品者へ生きがいを提供する場、地域間連携などといった地域振興に大きく貢献していることを学んだ。

最後に、アンケート調査業務等や地域の皆様と交流を通して、地域に密着した職業の魅力や大切さを実際に体験し学び、今後も道の駅榎脇は地域活性化に欠かせない施設と感じました。

(5) 基本協定（ひな形）、各様式等

「道の駅」就労体験型実習の実施に関する基本協定

全国「道の駅」連絡会（以下「甲」という。）と〇〇〇大学（以下「乙」という。）は、乙の所属学生（以下「学生」という。）が、「道の駅」において就労体験型実習を行うことについて、下記のとおり協定を締結する。

記

第1 目的

「道の駅」における就労体験を通じて、学生が実践的に学習するとともに、もって、活動の舞台となる「道の駅」の活性化の好循環に資することを目的として、「道の駅」就労体験型実習（以下、単に「実習」という。）を行う。

第2 就労体験型実習実施に係る基本的役割等

甲は、全国の「道の駅」を対象として、実習の実施内容等を取りまとめ、乙に提示の上、学生を受け入れる「道の駅」の決定を行う。

乙は、甲の提示する実習内容に基づき、派遣する学生を推薦する。また、受入が決定された学生に対し、実習中の遵守事項を周知するとともに、実習を円滑に進めるため必要な指導及び監督を行う。

第3 諸条件

実習の実施にあたって、必要な事項は学生を受け入れる「道の駅」と乙の間で別途定めるものとする。

第4 協議

本協定に定めがない事項又は本協定に疑義が生じた事項については、甲と乙が協議の上決定するものとする。

本協定の締結を証するため、本書2通を作成し、甲及び乙が記名捺印のうえ、それぞれ1通を保管するものとする。

平成 年 月 日

甲 全国「道の駅」連絡会会長 遠野市長 本田 敏秋

乙 〇〇大学学長【学部長等でも可】 〇〇 〇〇

(別添1)

実習計画書

実習実施 「道の駅」	道の駅名	道の駅
実 習 生	所属大学等名	
	氏 名	
「道の駅」 担当者	職 名	
	氏 名	
実習計画	目 的	
	月 日	内 容

※大学担当者と「道の駅」担当者の間で協議・検討し、実習内容を決定すること。

※必要に応じて、実習計画書の体裁を変えても良い。

(別添2)

「道の駅」就労体験型実習に関する覚書

道の駅「●●●」(以下「甲」という。)と〇〇〇大学(以下「乙」という。)は、別記「道の駅」就労体験型実習生名簿に記載されている乙の所属学生(以下「学生」という。)が、甲において就労体験型実習(以下「実習」という。)を行うことについて、下記のとおり覚書を締結する。

記

第1 実習実施に係る基本的役割等

甲は、別記のとおり学生に実習させることを目的として受け入れ、学生に対し必要な指導・助言を行う。

乙は、学生に対し、本覚書に定める事項を周知するとともに、実習を円滑に進めるため必要な指導及び監督を行う。

第2 実習時間、手当等の支給及び事故への対応等(道の駅と大学で協議し内容を決定)

(1) 実習時間は、午前〇時〇〇分から午後〇時〇〇分まで(以下「定時」という。)とし、このうち午後〇時から午後〇時までを休憩時間とする。ただし、〇〇〇にあつては、実習時間は、午前〇時〇〇分から午後〇時〇〇分までとし、このうち午後〇時〇〇分から午後〇時までを休憩時間とする。なお、定時以外にも実習を行うことがある。

(2) 甲は、実習中、学生に対し、通勤費(自宅又は滞在先より)を原則支給しない。また、手当(日当)、食費及び旅費(滞在先までの往復旅費)は必要に応じて甲の原則負担とする。

(3) 乙は、実習中における関係他者(甲、人物、財物等)に対する法律上の損害賠償責任を負担することによって被る損害を補償できるよう、学生に損害賠償保険等に加入させ、保険等の写しを甲に提出させることとする。

(4) 学生の実習期間中の災害及び通勤に際しての災害については、学生の自己責任で損害を負担するものとし、また、乙が誠意をもって問題の解決にあたるものとする。

第3 実習中における遵守事項等

(1) 学生は、実習に関する甲の指示に従い、実習期間中は実習に専念し、甲又は他の「道の駅」の信用を傷つけ、又は不名誉となるような行為を行ってはならない。

(2) 実習の欠務は、正当な事由による場合以外は認めない。やむを得ず欠務する場合は、事前に甲に申し出てその指示に従うこととする。正当な事由による場合であっても2日以上欠務した場合、甲は、実習を打ち切ることができることとする。

(3) 学生は、甲における実習活動中に知り得た情報(公開されているものを除く。)の開示については、甲の指示に従わなければならない。実習終了後においても、同様とする。

(4) 学生は、実習期間終了後2週間以内に、実習内容に関する報告書(様式自由)を作成し、甲に提出しなければならない。

(5) 学生は、実習の成果を論文等により発表する場合(乙の所属学生又は教職員のみ発表する場合を除く)には、事前に甲の承認を受けなければならない。

(6) 甲は、学生がこの覚書に従わない場合、その他実習を継続しがたい事由が生じた場合は実習を打ち切ることができる。甲は、実習を打ち切った場合は、速やかに乙にその旨を通知する。

第4 誓約書の提出

学生は、実習に先立ち、甲に対して誓約書（別添3）を提出する。

第5 協議

本覚書に定めがない事項又は本覚書に疑義が生じた事項については、甲と乙が協議の上決定するものとする。

本覚書の締結を証するため、本書2通を作成し、甲及び乙が記名捺印のうえ、それぞれ1通を保管するものとする。

平成 年 月 日

（日付は、空欄。当方において本覚書を受領した日付を記入し、貴職へ返送致します。）

甲 道の駅「●●●」責任者（首長、駅長等） ●●●●

乙 ○○大学・・・・・・ ○○ ○○
（総括責任者）

別 記

「道の駅」就労体験型実習生名簿

受入部署名	受入開始日	受入終了日	学部・学科	氏 名

(別添3)

誓 約 書

道の駅「●●●」責任者 殿

道の駅「●●●」において就労体験型実習を行うに当たり、「道の駅」設置者（自治体等）が定める就業体験実習に関する実施要領等を理解し、実習生として下記のとおり遵守することを誓約します。

記

1. 実習期間中は専ら所定の実習に従事し、実習目的の達成に努めること。
2. 実習期間中は「道の駅」職員が遵守すべき法令及び規則を遵守するとともに、実習生としての活動について「道の駅」担当者の指導、監督等に従うこと。
3. 実習期間中は、特定の政治政党、宗教、企業、団体の利益のための行為を行わないこと。
4. 「道の駅」における実習活動中に知り得た情報（公開されているものを除く。）の開示については、「道の駅」担当者の指示に従うこと。実習終了後においても、同様とすること。
5. 実習終了後2週間以内に、実習内容に関する報告書（様式自由）を作成し、「道の駅」担当者に提出すること。
6. 実習の成果を論文等により発表する場合（乙の所属学生又は教職員のみ発表する場合を除く）には、事前に「道の駅」責任者（駅長等、「道の駅」設置者が設定）の承認を受けること。
7. 病気等のため予定されていた実習を受けられない場合は、あらかじめ、「道の駅」担当者にその旨を連絡すること。やむを得ない場合は、事後速やかに「道の駅」担当者にその旨を連絡すること。

平成 年 月 日

大 学 等 名 学 生 氏 名 印

(別添4)

就労体験型実習受入結果報告

道の駅名	道の駅				
担当者名					
実習生名					
大学学部名等	大学	学部	学科	年	
期 間	月	日	～	月	日
出席状況	出席	日	・	欠席	日
	遅刻	日	・	早退	日
評価項目			評価	特記事項	
実習生の 実習態度	規律正しい態度であり、実習中支障がなかった			A・B C・D	
	業務内容の的確な理解ができていた			A・B C・D	
	業務内容に適応した行動であった			A・B C・D	
	目的意識をもって意欲的に取り組む姿勢が見られた			A・B C・D	
就労体験型実習で得られた成果（アウトプット）					
1. 顕著な成果が得られた 2. 成果が得られた 3. あまり成果がなかった					
就労体験型実習の波及効果・良い影響（例 職場が明るくなった、職員の IT スキル向上 等）					
今後の改善点					
その他（感想・良かった点等自由にご記入ください。）					

評価：A（優れている） B（やや優れている） C（普通） D（劣っている）の4段階

3. 平成29年度 連携企画型実習結果

(1) 連携企画型実習状況

平成29年度においては、全国33箇所の「道の駅」と29大学との間で、連携企画型実習が実施されました。

表-5 平成29年度 連携企画型実習状況一覧

道の駅名	都道府県	大学名	道の駅名	都道府県	大学名
いまべつ	青森県	青森大学	ウェーブパークなめりかわ	富山県	富山国際大学
あ・ら・伊達な道の駅	宮城県	石巻専修大学	瀬女	石川県	金沢星稜大学
鳥海	山形県	東北公益文科大学	とよとみ	山梨県	山梨学院大学
安達	福島県	福島大学	あおき	長野県	長野大学
常陸大宮	茨城県	茨城大学	中条	長野県	松本大学
ひたちおおた	茨城県	いばらき地域づくり大学 ・高専コンソーシアム	賤母	岐阜県	名古屋外国語大学
どまんなかたぬま	栃木県	佐野日本大学短期大学	どんぐりの里 いなぶ	愛知県	愛知学泉大学
もてぎ	栃木県	跡見学園女子大学	紀宝町ウミガメ公園	三重県	鈴鹿大学
ハッ場ふるさと館	群馬県	跡見学園女子大学	竜王かがみの里・アグリパーク竜王	滋賀県	滋賀短期大学
いちごの里 よしみ	埼玉県	立教大学	山陰海岸ジオパーク浜坂の郷	兵庫県	鳥取環境大学
果樹公園あしがくぼ	埼玉県	淑徳大学	吉野路 大塔	奈良県	帝塚山大学
おがわまち	埼玉県	城西大学	ふるさとセンター大塔	和歌山県	和歌山大学
鴨川オーシャンパーク	千葉県	城西国際大学	小豆島ふるさと村	香川県	香川大学
ちぢみの里おぢや	新潟県	長岡技術科学大学	たからだの里さいた	香川県	香川大学
良寛の里 わしま	新潟県	長岡技術科学大学	風早の郷風和里	愛媛県	愛媛大学
砺波	富山県	富山国際大学	つの	宮崎県	宮崎大学

※1 上記大学数は重複数を除いた合計である。

※2 いばらき地域づくり大学・工専コンソーシアムは3大学とするが、茨城大学は重複しているため※1に基づき合計数は1減としている。

(2) 平成29年度 連携企画型実習結果概要

 道の駅「いまべつ」と青森大学との連携



国土交通省による、「道の駅」と大学の連携事業として、「道の駅」いまべつと青森大学が平成27年連携協定の覚書を交換。平成28年3月26日に開業した北海道新幹線の効果・影響の検証等を実施

 平成27年10月6日 国土交通省による、「道の駅」と大学の連携事業として、「道の駅」いまべつと青森大学が、連携協定の覚書を交換。
学生の視点を生かした道の駅の活動支援事業が始まる。



【青森大学】
「大学の知的財産を活用することにより地域への社会貢献を行うとともに、地域との親密な交流を通じて地域から愛される大学となることを目指す」ことを大学の教育理念としており、地域社会との交流体験を通じて一人ひとりの個性と能力を伸ばす「実践スキルアップ」を実施している。

 連携は、学生が「道の駅」の商品開発や運営への提言を行う「連携企画型」で実施。



「道の駅」いまべつ・山田駅長へ聞取(平成27年度)

活動計画

- 1年目(平成27年度)
 - ・「道の駅」の現状とニーズ把握
- 2年目(平成28年度)
 - ・新幹線の効果・影響の検証
 - ・「道の駅」のニーズに応じた提言・支援
- 3年目(平成29年度)
 - ・新幹線の効果・影響の検証
 - ・学生による企画、実践の試行

【道の駅「いまべつ」】
平成28年3月26日に開業した、北海道新幹線「奥津軽いまべつ駅」に隣接した「道の駅」。今後は地域の観光拠点を目指して取り組んでいくこととしている。

 道の駅「いまべつ」と青森大学との連携



平成29年度 取組み内容：聞き取り調査、フィールド調査を実施



「道の駅」いまべつ・綿谷駅長へ聞取調査



「道の駅」いまべつ内フィールドワーク



報告会で成果を説明①



荒馬まつりの調査



レンタサイクル用試作マップ



報告会で成果を説明②

 「道の駅」いまべつ綿谷駅長への聞取調査を5月と8月に実施し、新幹線の効果を検証
また、荒馬まつりを調査し、観光客の誘導など課題を検証

平成29年度 提言

- ・新幹線開業効果の薄れ
→情報発信・広報機能強化
- ・レンタサイクルの活用
→サイクリング用マップの試作
→マップを活用する体制づくり
- ・新幹線・バス待ち時間の活用

道の駅「あ・ら・伊達な道の駅」と石巻専修大学との連携



道の駅「あ・ら・伊達な道の駅」の現状のにぎわいを今後も維持発展させるための振興ビジョン策定にあたり、「道の駅」として目指す未来の姿を具体的に設定し、学生とともに「道の駅」の将来像について検討を実施する

「個性が活きるにぎわいの場」 (「あ・ら・伊達な道の駅」に関わる全ての人を笑顔でつなぐ場所)

- 「道の駅」の現況の把握
- ・平成13年開業から16年が経過
 - ・H28年度来場者数約360万人
 - ・土・日を中心に多彩なイベント開催
 - ・熱気球搭乗体験など体験型企画の実施
 - ・インバウンド観光の促進



- 「道の駅」として目指す未来の姿を具体的に設定
- 目標(5年後)**
- ・年間リピーター率約80%
 - ・年間来場者数約400万人

- 現状の賑わいを今後も維持発展させるために・・・
- 振興ビジョンの策定にあたり 学生の視点を生かした意見、提案を行う

- 目標の実現に向けて・・・
- 設定された目標に向けて学生と職員による「道の駅」の将来像を考えワークショップを実施

【石巻専修大学】(所在地:宮城県石巻市)
石巻専修大学は「社会に対する報恩奉仕」を建学の精神として1989年に開学しました。
本学では「実践的な教育」を教育目標に掲げ、様々な分野をより専門的に学べるようコース・履修モデルを導入。さらに、実験・実習やゼミナールなど、教員との「対話」を重視し、少人数教育を行う本学ならではのきめ細かな指導を行っています。

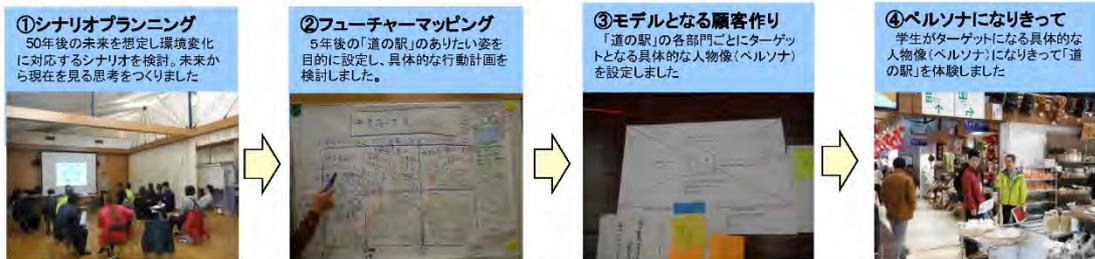
【あ・ら・伊達な道の駅】(所在地:宮城県大崎市岩出山)
重点「道の駅」
地域資源(伊達政宗の史実・文化等)を活用し、インバウンド観光を促進する拠点を構築。
温泉・地域資源を活かした独自商品を開発・販売し、鳴子峠や温泉郷を「見る観光」、地域の文化・芸能を「知る観光」にそれぞれ位置づけ、一段高いレベルの観光の提供を行う。

道の駅「あ・ら・伊達な道の駅」と石巻専修大学との連携



平成29年度 取組み内容：石巻専修大学生と「道の駅」職員とのワークショップ

【活動の流れ】(大学生と「道の駅」職員との協同)



【ペルソナ目線で意見発表】(学生からの提案)



※ ペルソナの設定とは、「道の駅を訪れる人はどんな人なのか、どんな人に「道の駅」に来て欲しいのかを具体的に(年齢、性別、職業、住所、趣味、家族構成など)に設定し、ターゲットのニーズに合わせたブランド戦略を打ち出すことを可能にするもの。

【連携の感想】

(学生①)
実際の現場で活動できたこと、社会人の方とディスカッションできたことは非常に貴重な経験となりました。

(職員①)
「道の駅」に対する理想が働く側(スタッフ)と求める側(ゲスト)では違いがあり、「あら伊達」を知らない学生の方々の意見で初心に戻ることができた。

(学生②)
グループで1つの課題をクリアすることで、『周りの方と協調すること』や『視野を広くすること』に関して成長することができた。

(職員②)
生徒さんと一緒になって道の駅の理想をイメージすることができた。特に、ペルソナというターゲットを見つけることが印象的だった。

【ペルソナの声】

- ・直売所に産直野菜の活用レシピを準備する
- ・お客さんの導線を考えた売り場配置の見直し
- ・売店側(お客さん)からレストラン内を見せることで集客力アップを図る

道の駅「鳥海」と東北公益文科大学との連携



道の駅「鳥海」と東北公益文科大学が連携して道の駅の多様な役割や地域社会との関わり、課題について学ぶと共に、若者目線での「道の駅」を拠点とした観光情報発信機能強化の企画提案等に取り組むものであり、平成29年度、山形県内においては初の取り組みです。

【競争型課題解決演習】 「道の駅公益活性化プロジェクト」

- 実施日時：平成29年10月6日～平成30年1月26日
金曜日の全13回 13時00分～14時30分
- ・10月6日(金)：ガイダンス (場所：東北公益文科大学202教室)
 - ・10月13日(金)：「道の駅」鳥海講義 (場所：東北公益文科大学202教室)
 - ・10月27日(金)：酒田河川国道事務所講義 (場所：東北公益文科大学202教室)
 - ・11月10日、11月14日、11月17日、11月24日：現地調査、来店者聞き取り調査 (場所：「道の駅」鳥海)
 - ・12月15日 道の駅駅長との意見交換会 (東北公益文科大学)
 - ・1月26日 成果報告会 (遊佐町役場)
- 実施場所：「道の駅」鳥海、東北公益文科大学
- 受講生：東北公益文科大学の学生29名
- ※「競争型課題解決演習」とは、地域や企業から提示された課題の解決に公益学を学ぶ学生が取り組む東北公益文科大学の演習授業。(競争型→複数の学生チームに課題の解決案を競わせる方式)

①「道の駅」の現状と課題の把握

- ・道の駅の現状と課題等について「道の駅」鳥海の駅長、国交省酒田河川国道事務所より講義を受け、道の駅の役割、地域との関わり、課題について学ぶ。

②観光情報発信機能の強化に向けた来店者への聞き取り調査

- ・現地調査により観光情報発信機能の把握等を実施、調査結果を踏まえ「道の駅」鳥海との意見交換



③大学生目線での観光情報発信機能強化の企画提案

- ・売り場の改善策、道の駅の更なる活性化策の検討(グループディスカッション)を経て、1月26日遊佐町役場議場で提案発表の報告会を開催

【東北公益文科大学】

東北公益文科大学は、2001年、山形県並びに庄内地域2市3町(鶴岡市・酒田市・三川町・庄内町・遊佐町)が設立した日本で初めて「公益学」が学べる公設民営の大学です。グローバルな視野を持ち、地域の人々とともに、地域社会が直面する経済、行政、福祉などの課題に、リーダーシップをもって果敢に取り組む人材を育成します。



【道の駅(鳥海)】

「道の駅」鳥海は、東北山形県の最北、名峰鳥海山山頂を有する遊佐町にあり、日本海側の国道7号沿い、秋田県境付近に位置する道の駅です。日本海と鳥海山の恵みを受けた地元産の農産物と水産物を人気の的として、利用客数約230万人(H24県内第1位)を誇り、全国から来訪者を集めています。



道の駅「鳥海」と東北公益文科大学との連携



取組み内容：観光情報発信機能強化の企画提案

○「道の駅」の現状と課題の把握と 観光情報発信機能の強化へ向けた来店者への聞き取り調査

- ・10月の毎週金曜日に大学に道の駅関係者(駅長、国交省職員等)から「道の駅」の制度や運営状況を講義
- ・11月の4日間で、道の駅の現地調査や観光情報発信機能に関する利用者への聞き取り調査を実施



【講義の状況】



【現地調査・聞き取り調査の状況】

○道の駅駅長らとの意見交換会

- 講義や現地調査、聞き取り調査の結果を基に駅長と意見交換会を実施し、現状や課題を以下の通り把握した。
- ・利用者の年齢が50～60代が5割、庄内地区、秋田県からの来訪者が各々3割程度。
 - ・情報発信施設については半数以上が「知らない」
 - ・知っている人の半数以上が、「利用したことがない」



【道の駅駅長らとの意見交換】



【遊佐町役場で成果報告会】

○成果報告会

場所：遊佐町役場議場 日時：平成30年1月26日
出席者 道の駅：駅長、従業員、農産物直売所責任者
遊佐町：副町長、産業課長、地域生活課係長
意見交換会で把握した、現状と課題に対して、学生から以下のような企画提案がなされた。

- ・道の駅館内の交通情報、観光情報などへのアクセス用のQRコードを増やす。
- ・中高年の利用が多いSNSを使用し、県外の利用差に向け庄内地区の名物、飲食店やイベント情報等を発信する。
- ・コミュニティー新聞などに地元向けの情報を掲載し、病院、市役所、金融機関などで、目につくようにする。
- ・フードコートテーブルに透明なシートを敷き、観光情報の紙を入れる。

○成果報告に対する 道の駅駅長 の 評価

- ・自分たちが出来る着眼点を見出し、当駅スタッフが思い つかないような発想をしていた。とても参考になった。
- ・QRコードを利用して近隣の飲食店を含めた「道の駅鳥海ふらっと」から地域の情報発信を行う提案は説得力がありました。
- ・即実践できるような事を提案頂いた部分は前向きに検討していこうと思います。



道の駅「安達」と福島大学の学生が連携して、二本松市・市民・地元商工業者も巻き込み、地域活性化を目的とした芸術祭の企画・運営および商品開発を実施

『芸術祭の開催による地域活性化プロジェクト』

- 「重陽の芸術祭」実行委員会開催
第1回 平成29年5月17日
テーマ、企画内容の検討
開催場所および開催時期の決定
- 第2回 平成29年7月28日
道の駅および二本松市内を会場とするイベント内容および開催までの準備状況説明
- 第3回 平成29年8月3日
レセプションについて、
城跡展示物「ship's cat」について等
- イベント開催
平成29年9月9日～11月23日



発展

オリジナル商品の開発・販売

『芸術祭の概要』

- 重陽とは
9月9日は、五節句のひとつ「重陽の節句」
菊を用いて不老長寿を願うことから別名「菊の節句」
命を尊び、風情溢れる節句
二本松市 日本三大菊人形・美味しい地酒・黒塚伝説・智恵子抄
⇒重陽の節句に相応しい地
- 道の駅安達および二本松市内各施設におけるイベント
・美術品の展示(道の駅安達、二本松城跡、智恵子の生家、ふるさと村、)
・ワークショップ(安達太良物産、福島大学、安達ヶ原ふるさと村)
（「工房」作業場など協働で仕事を行う“場”教育研修の手法で参加体験型のグループ学習）
・シンポジウム(安達文化ホール)
（聴衆の前で、特定の課題について何人かが意見を述べ、参加者と質疑応答を行う形式の討論会）
・ダンス公演(安達ヶ原ふるさと村)
- オリジナル商品
・重陽重・重陽そば(道の駅・安達ヶ原ふるさと村で期間限定販売)
・二本松観光地絵葉書(道の駅・ふるさと村・岳地域で限定販売)
・記念Tシャツ(道の駅・安達ヶ原ふるさと村で限定販売)



重陽重

国立大学法人福島大学
「新たな地域社会の創造」に貢献できる“地域とともに歩む人材育成大学”をモットーに、地域貢献活動に力を入れている。地域の中核的な知の拠点にして、福島県及び地域社会が抱える課題の解決に貢献する活動を積極的にを行い、社会の活性化と産業の成長に貢献することを目指している。平成29年度についても道の駅「安達」と人間発達文化学類渡辺晃一ゼミとの連携により、「芸術祭の開催による地域活性化プロジェクト」を実施した。

道の駅「安達」智恵子の里
『智恵子抄』で有名な高村光太郎の妻、高村智恵子生誕の地。
『ほんとうの空』のもと、全国でも珍しい上下線ともにある道の駅です。
特徴として、上り線に千年の歴史を持つ上川崎和紙を体験できる施設があり、下り線には50種類以上ある焼きたてパンを毎日販売しています。
広い芝生広場もあり、上下線ともに一日中楽しめる道の駅です。

平成29年度 取組み内容：道の駅と二本松市内を会場にしたイベントの企画・運営
美術品の展示（会場：道の駅安達、菊人形会場、霞ヶ城天守台、智恵子の生家ほか）

- 道の駅「安達」智恵子の里 下り線 開催期間：9月9日～11月23日
- 岳温泉「安達太良物産」店舗内

- 二本松城跡



道の駅「安達」下り線
ワタドリ計画



岳温泉 安達太良物産 店舗内
ワタドリ計画



二本松城跡 ヤノバケジ 「ship's cat」



ワークショップ

○岳温泉 安達太良物産 店内 テーマ『自分だけの岳温泉絵葉書』

9月10日 10:00～17:00 ワタドリ計画



ワタドリ計画(麻生知子・武内明子)



ワークショップの様子



岳温泉 安達太良物産



○福島大学 テーマ『上川崎の和紙でつくる切り絵』

9月17日 10:30～16:00 福井利佐



福井利佐



ワークショップの様子



重陽の芸術祭がきっかけのオリジナル商品

重陽の芸術祭オリジナル商品

・ 期間限定でのオリジナル商品販売

道の駅安達、安達ヶ原ふるさと村、菊人形祭り会場などで期間限定販売



芸術祭オリジナルTシャツ商品



大七酒造コラボ商品



重陽そば

重陽の芸術祭
オリジナルメニュー



重陽重

【取組の概要】

魅力的な地域資源を発掘し、道の駅から発信します。

- (1)魅力を体感できるイベント・ツーリズムの企画
- (2)特産物を使った商品開発
- (3)情報発信、PR

【検討の流れ・概要】

- ①地域住民との竹堤の整備：常陸大宮の地域資源である竹堤で、不要な竹の伐採を実施
- ②かわプラザの七夕：竹をいかしたイベントを企画。大宮の地域資源である「西ノ内和紙」を用いて、凧づくりワークショップを実施。
- ③竹あかりまつり：3000個の竹あかりが道の駅を照らすイベントを企画した。イベント当日は、竹行灯づくりワークショップを実施。

【茨城大学人文地理学1ゼミナール】

茨城大学人文地理学1ゼミナールは、観光地理学を学ぶゼミナールです。学びの実践の場として県内の4市と連携活動を行っています。常陸大宮市では地理学という視点から地域資源を発掘するとともに、若い感性も取り入れ常陸大宮の魅力発信していきます。

【道の駅常陸大宮】

茨城県内の12か所目の道の駅として、2016年3月に開業した。重点「道の駅」にも登録されており、洋野菜を使ったレストランや体験農園がある。道の駅沿いには久慈川が流れていて、川を見ながら休憩できる特徴がある。道の駅を拠点として地域活性化に取組む市民グループなどが育ち始めている。

平成29年度 取組み内容：道の駅「常陸大宮」との連携活動について

かわプラザ・竹あかりまつり

(2017年9月30日(土)/10月1日(日) 計2日間)

●竹あかり設置点灯(約3000基)



竹あかりを並べる学生



点灯式の様子



点灯式に参加する人の様子①



点灯式に参加する人の様子②

●竹林・スタードームライトアップ



スタードームの天幕に絵を描く地元の子供たち



スタードームづくり



竹林のライトアップ①



竹林のライトアップ②

- ・3,000個の竹あかりが道の駅を照らすイベントを実施。
- ・道の駅北側の竹林内にバルーンライトを設置し、竹林のライトアップを実施。
- ・併せて、竹を割って組み上げた「スタードーム」の天幕に絵を描く地元の子供対象のプレイベント(9/23)を実施。



道の駅「ひたちおおた」といばらき地域づくり大学・高専コンソーシアムとの連携

“学生による道の駅支援事業”参加校：茨城大学、茨城女子短期大学、常磐大学



【取組の概要】

コンソーシアムによる多方面からの多様な連携事業の実施

- ・(1) SNSを利用した情報発信の強化
道の駅を取り巻く地域の魅力の発信を強化することで、地域全体の活性化をサポート
- ・(2) 新たな魅力の提案（キャラクターデザインや新商品の開発、若い世代に向けた道の駅利用法の提案など）
若者や女性を積極的に巻き込んでいくために、若者や女性に向けた魅力づくりをサポート
- ・(3) 地域の活性化に寄与する共同研究の実施

【検討の流れ・概要】

- ①常陸太田〇×クイズ：オープン1周年を記念して常陸太田〇×クイズを開催。
- ②おおたフィッシング：「常磐大学・水戸ホーリーホックコラボター（明治安田生命J2リーグ第28節水戸ホーリーホック対京都サンガF.C.）」において、道の駅ひたちおおたに縁のある商品を景品とした釣りゲーム。
- ③商品開発 じょうづるまん販売イベント：「じょうづるまん」を通して多くの人に道の駅を訪れてもらい、常陸太田市そのものや市が力を入れている子育て支援政策について知ってもらう。

【いばらき地域づくり大学・高専コンソーシアム】

「いばらき地域づくり大学・高専コンソーシアム」は、地方創生に関し大学・高専に求められる役割を主体的かつ積極的に果たすとともに、茨城県に所在する大学・高専が関係を深め、茨城県及び県内地方公共団体、並びに産業界等と連携・協働して地域の振興に寄与し、「いばらき」の発展に資するため、平成27年3月に県北・県央地域の4大学・高専で設立された団体。

その後、県全体で取り組むべき課題に対応する必要性から、平成28年8月に新たに9校が加わり、計13校での組織化が図られた。各校の特色を活かし、様々な分野における活動に取り組んでいる。

【いばらき地域づくり大学・高専コンソーシアム会員校】（平成29年1月現在・13校）

- ・①茨城大学（水戸市）・②茨城キリスト教大学（日立市）・③茨城県立医療大学（阿見町）・④茨城工業高等専門学校（ひたちなか市）・⑤茨城女子短期大学（那珂市）・⑥筑波大学（つくば市）・⑦筑波学院大学（つくば市）・⑧筑波技術大学（つくば市）・⑨つくば国際大学（土浦市）・⑩常磐大学（水戸市）・⑪日本ウェルネススポーツ大学（利根町）・⑫放送大学（茨城学習センター）（水戸市）・⑬流通経済大学（龍ヶ崎市）

【道の駅ひたちおおた】

茨城県内の13カ所目の道の駅として、2016年7月に開業した。JA常陸が運営する農産物直売所をはじめ、旬の食材を使ったレストラン、カレーや常陸秋そばなどが楽しめるフードコート、年間を通してトマトの摘み取り体験ができる「体験ほ場 トマトハウス」が特徴。



道の駅「ひたちおおた」といばらき地域づくり大学・高専コンソーシアムとの連携

“学生による道の駅支援事業”参加校：茨城大学、茨城女子短期大学、常磐大学



平成29年度 取組み内容：道の駅「ひたちおおた」との連携活動について

①常陸太田〇×クイズ

（2017年7月29日開催）



- ・日時：7月29日（土）
（11:00～11:30、14:00～14:30）
- ・広報：ポスター、チラシ、SNS
- ⇒ **子どもから大人まで、多くの方が参加**

オープン1周年を記念して、常陸太田〇×クイズを開催
来訪者にクイズを通して、楽しく常陸太田市や道の駅ひたちおおたについて知ってもらい、興味を持ってもらう。



道の駅「ひたちおおた」といばらき地域づくり大学・高専コンソーシアムとの連携

“学生による道の駅支援事業” 参加校：茨城大学、茨城女子短期大学、常磐大学



平成29年度 取組み内容：道の駅「ひたちおおた」との連携活動について

②おおたフィッシング

(2017年8月16日実施)



「常磐大学・水戸ホーリーホックコラボデー（明治安田生命J2リーグ第28節 水戸ホーリーホック対京都サンガF.C.）」において、道の駅ひたちおおたに縁のある商品を景品とした釣りゲーム

→県央地域のみならず県外に向けても認知度向上に貢献



道の駅「ひたちおおた」といばらき地域づくり大学・高専コンソーシアムとの連携

“学生による道の駅支援事業” 参加校：茨城大学、茨城女子短期大学、常磐大学



平成29年度 取組み内容：道の駅「ひたちおおた」との連携活動について

③商品開発 じょうづるまん販売イベント

(2018年1月20日、21日)



「じょうづるまん」を通して多くの人に道の駅を訪れてもらい、常陸太田市そのものや市が力を入れている子育て支援政策について知ってもらう

道の駅「どまんなかたぬま」と佐野日本大学短期大学との連携



道の駅「どまんなかたぬま」と佐野日本大学短期大学（総合キャリア教育学科）の学生が連携して、道の駅をフィールドに社会貢献（福祉事業）活動、イベントなどを企画・実施します。

大学と「道の駅」の交流・連携の一環として、佐野日本大学短期大学と道の駅「どまんなかたぬま」、宇都宮国道事務所で連携企画型の実習を平成27年度から実施している。

取り組み

- ①夏休み小学生調理体験教室、クリスマスワークショップを企画・実施
- ②学生手作りのオレンジリボンなどを配布し、児童虐待防止の啓発活動を実施
- ③インバウンド観光への取組として、道の駅や佐野市の観光資源を収集・調査し、外国の方に紹介する観光パンフレットを試作

反映

「オレンジリボン運動」は、児童虐待防止推進運動のことです。子ども虐待防止のシンボルマークとしてオレンジリボンを広めることで、子ども虐待をなくすことを呼びかける市民運動です。この運動を通して、子どもの虐待の現状を伝え、多くの方に子ども虐待の問題に関心を持っていただき、虐待のない社会を築くことを目指しています。



参考：児童虐待防止ネットワークグループ

結果

- ①イベントを通して地域の子供たちと交流し、賑わいを創出しました。
- ②昨年度に続き、「オレンジリボン（児童虐待防止）運動」を道の駅から発信しました。
- ③台湾からの短期留学生に中国語パンフレットを使用して佐野市の魅力を紹介・交流しました。これにより、中国語パンフレットの活用と佐野市の魅力の発信ができました。

【佐野日本大学短期大学】

佐野日本大学短期大学（平成29年度から「佐野短期大学」から校名変更）の学生たちは、文部科学省認可の「総合キャリア教育学科」において、栄養士、保育士、幼稚園教諭、介護福祉士、社会福祉士、医療事務、観光、ファッション、ビジネス、健康スポーツなどの専門分野で学んでおり、卒業後の正規採用就職率も毎年度95%以上と高率を誇っています。

同じ佐野市にある道の駅「どまんなかたぬま」をフィールドとして、短大で学んだ学習成果を活かしながら、子どもから高齢者まで楽しめるイベントの企画、商品開発、福祉的視点での改善提案、地域貢献活動に取り組みます。

【道の駅「どまんなかたぬま」】

日本列島の東西南北の基準点を線で結び、その線が交わる中心点が栃木県佐野市（旧田沼町）にあることから「どまんなか」の街、だから「どまんなかたぬま」です。

道の駅には、本格中華料理をはじめ、和洋食、ジェラートなどありとあらゆる“美味しいもの”が揃っています。地元新鮮野菜や特産品、全国各地のパラエディに富んだ逸品も取り揃えており、楽しく買い物ができます。

夏には「おひげ屋敷」、冬にはカーテンイルミネーションなど年間を通してイベントも盛りだくさんで、家族みんなが楽しめる“エンターテインメント型”道の駅です。



道の駅「どまんなかたぬま」と佐野短期大学との連携



平成29年度 取り組み内容：道の駅をフィールドに社会貢献活動、イベント等を企画実施

○大学と「道の駅」の交流・連携の一環として、佐野日本大学短期大学と道の駅「どまんなかたぬま」、佐野市及び宇都宮国道事務所で連携企画型の実習を平成27年度から実施している。

○平成29年度も道の駅をフィールドに様々な調査、社会貢献活動、イベント等を企画・実施しました。

●夏休み小学生調理体験教室を実施

●クリスマスワークショップを開催

●道の駅で学生手作りのオレンジリボンとチラシを配布し、児童虐待防止啓発運動を展開



●外国の方に紹介する中国語の観光パンフレットを試作。更に台湾からの短期留学生に中国語パンフレットにより佐野市の魅力を発信



道の駅「もてぎ」と跡見学園女子大学との連携



道の駅「もてぎ」と跡見学園女子大学（観光コミュニティ学部）の学生が連携して、道の駅を拠点とした地域活性化等の企画提案を行います。

道の駅担当職員との勉強会や茂木町の観光資源を訪れ、学生自ら地元の思いを聞き取り体験することで、女子大生目線から茂木町の魅力の再発見、改善点の発見などを行う

【道の駅との打合せ】
道の駅の現状と課題を道の駅のご担当者様からお話しいただき、今回の取り組みに反映します。



反映

テーマ「道の駅もてぎの知名度向上を兼ね外向けに商品展開を広げる」

- ①道の駅もてぎを全国区に ⇨道-1グランプリ2連覇を目指すには
- ②道の駅もてぎブランドを全国区に ⇨もてぎ産の果物を使用したオリジナル商品や茂木町のブランド米を全国に直販

反映

結果

- ①道-1グランプリに参加するにあたり、道の駅もてぎ名物「ゆず塩ら〜めん」のPR方法の検討や味の研究、また、効率良くお客様を回転させるため役割分担を提案した結果、茂木産の商品の魅力を十分に伝えることができたこともあり「道-1グランプリ」2連覇達成
- ②商品の魅力を伝えるため通販商品の写真の見栄えを改善し、商品価値のUP・魅力UPを提案

【跡見学園女子大学】

1875（明治8）年の「跡見学校」創立以来の140年の歴史ある伝統校で、実践的な教養を備え、自立した女性を育成するための教育・研究を実現することを教育理念としています。創立当初より社会での実践を重視する教育、「教育実践」を行っており、この「教育実践」の一つであるインターンシップ（就業体験）において、参加学生数と参加率が全国女子大学第1位の成果をあげています。連携に参画している「観光コミュニティ学部」は、「観光」と「コミュニティ」の両面から地域を活性化させることのできる「デザイン能力」をもった女性の育成を目指し、平成27年度から新しく開設されました。観光マネジメント学科の学生が「大学生観光まちづくりコンテスト」でグランプリ（観光庁長官賞）を受賞するなど観光地域づくりに関して多数の実績があります。

【道の駅「もてぎ」】

茂木町は、里山や棚田に代表される豊かな自然に囲まれながら、国際的サーキット「ツインリンク」も擁するまち。「道の駅もてぎ」（所在地：栃木県芳賀郡茂木町）は、栃木県内第1号の道の駅として平成8年にオープンして以来、新たなチャレンジで発展し続ける道の駅界の“トップリーダー”的存在です。
素材を厳選した人気の手作りアイスに茂木産の新鮮野菜、特産の「ゆず」や「えこま」を使ったオリジナル商品の数々は要チェックです。焼きたて「パウムクーヘン」に、昨年、第1回道-1グランプリでグランプリを受賞した話題の「ゆず塩ら〜めん」といつも話題に事欠かない駅です。



パウム工房ゆずの木

道の駅「もてぎ」と跡見学園女子大学との連携



平成29年度 取組み内容：知名度向上を兼ね外向けに商品展開を広げる提案を行いました

○道の駅の知名度向上のため、女子大生目線、外モノ目線から通販ホームページの改善と道-1グランプリ2連覇を目指しPR方法の検討・販売UPのための役割分担を提案

●道の駅概要説明



道の駅もてぎの現状と課題
①キャパシティが限界に近い
②道の駅もてぎの知名度向上
③オリジナル商品のさらなる展開

●野菜直売所、「おみやげけやき」にて就労体験



- ・野菜直売所では、オープンから多くのお客様が来店
- ・おみやげ けやきでは袋詰め、品出しを体験
- ・朝はパンも良く売れ、お昼には品切れ状態に。

●道-1グランプリ2連覇に向けた作戦会議



- ・PR方法の検討
- ・味の研究
- ・販売UPのための役割分担

●通販の販売推進会議



- ・もてぎ産の果物を使用したオリジナル商品や茂木町のブランド米を全国に直販
- ・通販ご利用者様から頂いたご意見の原因を追求
- ・他の通販サイトとの比較

●道の駅へ提案



- HPの改善
- ・商品の写真の見栄えを改善
- 道-1グランプリ2連覇に向けて
- ・接客時にもてぎ特産「ゆず」を紹介など

●道-1グランプリ2連覇達成



全国1117の道の駅の1位に！！

道の駅「ハッ場ふるさと館」と跡見学園女子大学との連携



道の駅「ハッ場ふるさと館」と跡見学園女子大学（観光コミュニティ学部）の学生が連携して、道の駅がダム観光や地域連携の拠点となるための提案を目指します。

私たちはゼミ全体で、群馬県長野原町のハッ場ダムを中心とした地域活性化に取り組み、「道の駅ハッ場ふるさと館」がハッ場ダム見学のキーステーションとして、そして地域連携の拠点となるために様々な企画・提案を行いました。

【勉強会等の開催】

ハッ場ダム建設の歴史の勉強会、長野原町と周辺地域の観光資源調査、また現地視察することで新たな課題が見つかりました。



課題の抽出

- 課題①完成間近なダム観光の拠点としての機能がまだまだ弱い
- 課題②売り場商品の配列や、商品のPRが不足
- 課題③道の駅からのハッ場ダムへの集客が少ない

反映

取組内容

- 取組①道の駅をベースにやんばダムツアー参加者の拡大を計画
- 取組②やんばダムコンシェルジュに挑戦
- 取組③ダム観光客を長野原町全体に拡散！新たなレンタサイクルコースを提案
- 取組④女子大生視線で店内販売促進ポップを提案

【跡見学園女子大学】

1875（明治8）年の「跡見学校」創立以来の140年の歴史ある伝統校で、実践的な教育を備え、自立した女性を育成するための教育・研究を実現することを教育理念としています。創立当初より社会での実践を重視する教育、「教育実践」を行っており、この「教育実践」の一つであるインターンシップ（就業体験）において、参加学生数と参加率で全国女子大学第1位の成果をあげています。連携に参画している「観光コミュニティ学部」は、「観光」と「コミュニティ」の両面から地域を活性化させることのできる「デザイン能力」をもった女性の育成を目指し、平成27年度から新しく開設されました。観光マネジメント学科の学生が「大学生観光まちづくりコンテスト」でグランプリ（観光庁長官賞）を受賞するなど観光地域づくりに関して多数の実績があります。

【道の駅「ハッ場ふるさと館」】

ハッ場ふるさと館は、群馬県吾妻郡長野原町にある道の駅です。2013年4月29日に国土交通省のハッ場ダム建設事業により、水没する地域の生活再建と地域振興を目的に建設されました。雄大な自然に囲まれており、四季を通じて様々な景色や地元の味覚を楽しむことができます。嫉妬キャベツなど、地元で採れた新鮮な農産物や土産などが大人気！川原湯温泉の源泉からひいた名物の足湯では、景色を眺めながら足湯に浸かることができます。ハッ場ダム観光をはじめ、草津温泉や北軽井沢方面まで、地域の情報を発信している旅の総合情報コーナーがあります。



道の駅「ハッ場ふるさと館」と跡見学園女子大学との連携



平成29年度 取組み内容：道の駅がダム観光や地域連携の拠点となるための提案

○「道の駅ハッ場ふるさと館」がダム観光や地域連携の拠点となるために地域の核としてリニューアルできるようご提案を目指しました

●事前準備



- ①ハッ場ダム建設の歴史の勉強会
- ②長野原町と周辺地域の観光資源調査
- ③現地視察
- ④長野原町で合宿を実施

●取組①道の駅をベースにやんばダムツアー参加者の拡大を計画



- ・入口付近でのチラシ配りや呼び込み
- ・館内アナウンスでの宣伝

●取組②やんばダムコンシェルジュに挑戦



- ・女子大生コンシェルジュに挑戦
- ・「国土交通省・やんばダムコンシェルジュ認定書」をいただきました。

取組③ダム観光客を長野原町全体に拡散！新たなレンタサイクルコースを提案



- ・チラシ・ポスターの作成
- ・レンタサイクル利用者への特典（完走証明書の贈呈等）を提案

●今回の取り組みが高く評価され、「大学生観光まちづくりコンテスト2017」で4つの賞を受賞



グランプリの「観光庁長官賞」、「地域リノベーション賞」、「水資源機構賞」、「パフォーマンス賞」を受賞

取組④女子大生視線で店内販売促進ポップを提案



- ・ハッ場ふるさと館のみなさんと試行錯誤を重ね、ポップを完成
- ・作成したポップは現在、「ハッ場ふるさと館」で実際に活用されています。

道の駅「いちごの里よしみ」と立教大学との連携



道の駅「いちごの里よしみ」と立教大学(観光学部)の学生が連携して、特産品「吉見いちご」を使用したいちご染め体験ブースの運営や吉見の食材を活かした独自商品などを企画・立案します。

吉見町の地域資源調査

町の魅力を追求するため、道の駅や町の地域資源調査を実施します。



吉見町PR大使
よしみん

連携コンセプト



【立教大学】

立教大学観光学部(所在地:新座市)は、「道の駅」と連携し、学生の実践的学びとして様々なプログラムを実施しています。
道の駅「いちごの里よしみ」を舞台とした「連携企画型」として、東教授のゼミナールに所属している学生が、コンセプトの提案や商品企画、イベント企画等、様々な課題に取り組んでいます。

【吉見町】

・吉見いちご

合併直後の昭和30年代から養蚕に代わって栽培が始まった吉見のいちご。荒川と市野川に挟まれた肥沃な大地はとびきりおいしいいちごの生育に最適で、今や県内一の生産量を誇る産地です。



・吉見あぶら味噌

吉見町認定のB級グルメ「あぶら味噌」は、昔から農家で食べられていた郷土料理。栄養価も高く疲労回復に効果的です。町内飲食店では、あぶら味噌ハーモニーを展開中。



・花便り(桜・菜の花／紅葉)

四季折々の花が楽しめるのも魅力です。特に、桜堤公園の桜のトンネルと菜の花のコントラスト、晩秋を彩る八丁湖の紅葉と紅葉をライトアップするヒーリングナイトは、吉見町自慢の景色です。



【道の駅「いちごの里よしみ」】

埼玉県内第1位の生産量を誇る「吉見いちご」の直売やいちごのお土産が買える、「いちごづくし」の道の駅。地元野菜が並ぶ農産物直売所、B級グルメが味わえる食堂、いちごをモチーフにした遊具もある広場など、年間を通して多くの来場者で賑わいます。



道の駅「いちごの里よしみ」と立教大学との連携



平成29年度 取組み内容：地域イベントの企画

イベントの企画

吉見町の「吉見のうまいもんフェアin いちごの里よしみ」で学生が「ハンカチのいちご染め体験」「地元キャラクターよしみんの着ぐるみを着てお出迎え」「よしみんシールの配布」を行いました。(平成29年4月15日)

地元の皆さんとともに吉見町の特産品「吉見いちご」を使用した「いちご染めランタン作りブースの運営」を行いました。(平成29年8月19日)

吉見町B級グルメのあぶら味噌を使用した「あぶら味噌焼きうどん」の販売・PRを実施。(平成29年11月4日、5日)

●あぶら味噌焼きうどんの販売



●吉見うまいもんフェアの様子



●ランタンフェスティバル



改善

取り組んだイベントの反省・改善点や、今後の方向性についてとりまとめました。



地域コミュニティの核としての道の駅施設

町内外から人が集まる道の駅吉見ファンを増やすための施策

夏祭りの継続的な開催
etc...

&

(現在出ている案)
・地元うどん屋さんの日替わり出店
・旬を楽しむ地元産のいちごお汁
・いちご染めの活用(結露、布類)
・あぶら味噌の健康調味料化(おめかした内やドレッシングなど)

よしみ道の駅＝地域の恵みのショールームへ!



横瀬町の道の駅「果樹公園あしがくぼ」と淑徳大学（経営学部観光経営学科）の学生が連携して、「横瀬町産の紅茶の活用」をテーマに紅茶産業の活性化につながる提案を行いました。

現地調査

道の駅果樹公園あしがくぼ「新茶まつり」に参加。商品の特性や現状を把握しました。



現状把握と課題の整理

「横瀬町と道の駅の概要」「横瀬産紅茶の歴史と現状」「横瀬町の紅茶の楽しみ方」について整理。



紅茶の試飲・販売

イベントの実施

淑徳祭(学園祭)において「あしがくぼティーサロン」、道の駅において「紅茶まつりby淑徳大学」を行いました。

横瀬産紅茶の調査

2016年度道の駅連携事業への参加学生の発表を参考に、紅茶の活用策を模索するうえでの参考にしました。



紅茶産業活性化の提案

横瀬町産の紅茶の歴史・現状を把握して課題を整理し、紅茶産業の活性化につながる提案を行いました。



「観光とメディア」を

テーマに情報発信

情報発信ツール(Instagram、Facebook、Twitter、YouTube、Blog)を活用し、道の駅「果樹公園あしがくぼ」を全国に情報発信。

【淑徳大学】

淑徳大学(経営学部所在地:埼玉県入間郡三芳町)は、社会福祉の増進と教育による人間開発・社会開発に貢献する人材の育成を目的とした大学で、2015年に創立50周年を迎えました。

経営学部は体験型・実践型学習を充実させていることが特徴です。講義での知識の獲得だけでなく、企業の協力を得て、学んだ知識や論理を確認・定着・発展させる取り組みを積極的に実施しています。このような取り組みから、学生に広い視野を持ってもらうとともに、分析し、解決する力を養成しています。

【道の駅「果樹公園あしがくぼ」】

当道の駅は、秩父の山々の深い緑、横瀬川の清流、澄んだ空気と四季折々の花と果樹といった豊かな自然に囲まれています。駅内施設には、農産物直売所、食堂、体験交流施設などがあり、屋外には四季折々の花を楽しめる交流広場があります。

施設のすぐ脇を流れる横瀬川の河原も散歩でき、水に親しみ、ゆっくり休めるなど、ドライブ途中のリフレッシュには最適です。花、緑、風、水といった自然のすばらしさを体験できる道の駅です。



平成29年度 取組み内容：「横瀬町産の紅茶の活用」による紅茶産業の活性化の提案

取組み前の調査



横瀬町役場職員よりお茶まつりについて調査



横瀬町産の紅茶試飲ならびに茶葉販売のイベント協力実施

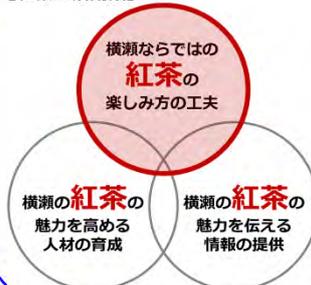


横瀬産紅茶に関する調査・検討

【道の駅・横瀬町のSWOT分析】

<p>Strengths</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小規模丁寧な生産 ・人気商品「紅茶ソフト」の存在 ・紅茶と相性の良い特産品の存在 	<p>Weaknesses</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生産者の高齢化 ・不十分なニーズ把握 ・商品企画力の弱さ
<p>Opportunities</p> <ul style="list-style-type: none"> ・観光地としての知名度 ・アニメ舞台としての注目 ・各地の地紅茶への注目 	<p>Threats</p> <ul style="list-style-type: none"> ・著名な「狭山茶」の存在 ・紅茶のペットボトル商品の普及

【紅茶の活用策】



「横瀬町産の紅茶の活用」工夫

紅茶の試飲・販売イベントの実施

●淑徳祭(学園祭)における「あしがくぼティーサロン」



●道の駅における「紅茶まつりby淑徳大学」



アンケートの実施

横瀬町産の紅茶を販売

道の駅「おがわまち」と城西大学との連携



道の駅「おがわまち」と城西大学（現代政策学部庭田ゼミナール）の学生が連携して、道の駅を拠点とした新たな魅力による町の観光振興を目指し、地域資源を活用した小川町ブランド商品の開発と、映像作品を通じた地域プロモーションを企画・立案します。

①小川町の実地調査

- ・小川町の地域資源調査
- ・道の駅おがわまちの利用状況調査
- ・町民・町役場と学生のディスカッション

学生が道の駅や町民との交流を通して、小川町・道の駅の現状を把握し、町の魅力を発見します。

②小川町ブランド商品の開発

学生と町の生産者が協力し、和紙原料の副産物や有機野菜等を活用し、新たなお土産品や健康効果を内包した食品等を開発し、SNS等を活用したPRを行います。

学生と町の生産者のコラボレーション

③小川町プロモーション動画の制作

学生が町民との交流を通して発見した魅力ある人や風景を撮影し、人と風土をテーマにした映像作品を制作し、広く発信します。

学生と町民のコラボレーション

新たな魅力を創出し、小川町の観光振興を目指します。

【埼玉県 小川町】

ユネスコ「細川紙」の和紙のふるさと

1300年も昔からこの地で和紙が漉かれる。その内の「細川紙」の手漉き和紙の技術が、平成26年ユネスコ無形文化遺産に登録。



豊かな自然と共存する有機農業

本来の生き物同士の共存・共生を尊重することで、化学肥料や農薬を使わない有機農業。いち早くそれを実践し、いまや世界中から持続可能な有機農業の研修に訪れる。



和紙をふんだんに使った七夕まつり

昭和24年から戦後の和紙の復興を願って始まった小川町七夕まつり。艶やかな竹飾りが駅前通りを彩る。夜には花火大会も催され、小川町の夏の風物詩になっている。



【城西大学】城西大学（所在地：埼玉県坂戸市および東京都千代田区）は、大蔵大臣や通産大臣を歴任した水田三喜男によって「学問による人間形成」を理念に1965年に建学されました。現代政策学部（所在地：坂戸市）は、政策学とキャリア教育により、問題解決能力を備えた人材の育成を目指しています。道の駅「おがわまち」との連携プロジェクトに参加する庭田ゼミナールは、「地域活性化政策～まちづくり／観光・交通の研究と実践」をテーマに、理論と実行力を兼ね備えた地域の担い手を育てるため、アクティブラーニングを用いた問題解決型授業を行っています。

【道の駅「おがわまち」】平成5年4月に埼玉県2番目として登録された道の駅。武蔵の小京都と称される小川盆地のやや東側にあり、周囲に山々を抱え、豊かな槻川の流れを望み、手漉き和紙工場が多く集まる、まさに小川町の自然歴史文化の中心に位置します。道の駅内の「埼玉伝統工芸会館」はその主要施設で、県内の伝統的手工芸品の20産地30品目を一堂に会した展示施設です。特に、ユネスコに登録された技術である手漉き和紙の実演体験に多くのお客様が訪れています。また、地元の有機野菜等の直売所も設置され、地粉を使ったうどんやそばなどが食べられるレストランもあります。

道の駅「おがわまち」と城西大学との連携



平成29年度 取組み内容①：小川町ブランド商品の開発～楮の葉を利用した食品開発

商品開発



和紙の原料「楮（こうぞ）」の刈り取り



アンケートの実施



試作（試食～生地の改良）



和紙を使用したパッケージの作成

和紙の原料になる皮以外は廃棄されてしまう楮。その廃棄されてしまう葉を利用して、道の駅で販売する食品を考案しました。

商品コンセプトは、道の駅に集うサイクリストやライダーが手軽に栄養を補給でき、テイクアウト可能な地産加工食品。

城西大学薬学部医療栄養学科の協力により、楮の葉にはカルシウムと食物繊維が豊富であることがわかりました。

そこで、粉末にした楮の葉を練りこんだ皮で小川町産有機野菜を包んだトルティーヤを提案しました。

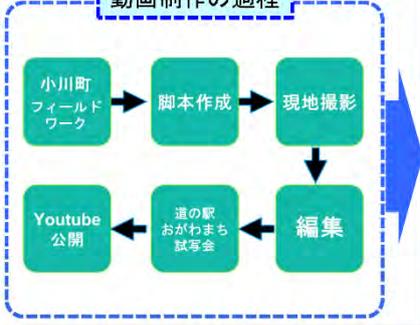
仮販売

- ・道の駅おがわまちの広場
- ・3月2日（金）10時～
- ・30個の限定販売
- ・アンケートの実施



平成29年度 取組み内容②：小川町プロモーション動画の制作

動画制作の過程



学生たちが町の方々と交流しながら地域資源を発掘し、小川町の魅力を発信する地域プロモーション動画「小川町 心の旅」を昨年度から継続し、「疑似観光」「インタビュー」「ショートムービー」を新たに企画立案し、制作・公開しています。



脚本作成の様子



ショートムービーの現地撮影状況



編集作業

疑似観光動画



伝統行事の特集 などインターネットで公開中

ショートムービー



小川和紙、短編ラブストーリーインターネット公開待ち

インタビュー



生の声を重視編集集中

道の駅「鴨川オーシャンパーク」と城西国際大学との連携



道の駅「鴨川オーシャンパーク」と城西国際大学（観光学部）の学生が連携し、道の駅でゆったりとした時間を過ごすための『空間演出』に向けたプロジェクトに取り組みます。

①道の駅の付加価値を高める

- 鴨川オーシャンパークならではのアクティビティを提供することで、施設の付加価値を高めることを検討・実施



海に面した立地環境を活かし、新たなイベントを創出

②情報発信機能の強化

- 広大な敷地を持つ「鴨川オーシャンパーク」の回遊性を高め、海や花など、施設全体を楽しむことができる情報発信の提案



水遊びが出来る「千年磯」は、家族連れにも人気

【城西国際大学（所在地：千葉県鴨川市）】

城西国際大学は、ウェルネスツーリズム※を目指した実践的な観光学を学びます。特に親身な教育、地元鴨川・南房総でのフィールド地域プロジェクトを通しての実務に強い教育が特色です。
※ウェルネスツーリズムとは、「観光者と住民との協働で生み出される人と地球にやさしい観光」のことです。

ウェルネスツーリズム



【道の駅「鴨川オーシャンパーク」】

鴨川オーシャンパークは、文字通り豊かな自然や温暖な気候に育まれた鴨川の魅力である「海」と「花」を基本テーマに、訪れる人々に憩いとやすらぎのひとときをつくる観光拠点づくりを目指すとともに、地場産業や文化、芸術分野との連携を図ることで、地域の総合的な活性化と交流の場を目的とした海浜型リゾートパークです。



道の駅「鴨川オーシャンパーク」と城西国際大学との連携



平成29年度 取組み内容：道の駅の付加価値を高める

取組み概要

【目的】

当企画は、鴨川オーシャンパーク前に位置する太夫崎港にてクルージングイベントを企画・実施することで、鴨川市における新しい海の活用法を提案し、あわせて鴨川オーシャンパークの集客効果を高めることを目的とする。鴨川の新しい海のレジャーを提案することで、より観光地としての魅力向上を図る。

〈具体的な内容〉

- A) 船：1隻（漁業兼遊覧船での実施）
- B) 乗員：20名（学生が観光ガイドとして乗船）
- C) 運行回数：3回（計43名が乗船）
- D) 乗船時間：30分ほど
- E) 実施日：7月17日（月・祝）

新たなイベントを創出することで、鴨川オーシャンパークの付加価値を高め、道の駅利用者の満足度をより向上させることが出来ないか議論を重ねてきました。

太平洋の大海原を眼前にする太夫崎漁港に隣接する道の駅ならではの特徴を活かすため、観光船による「海遊覧旅」を企画し、新しい海の活用方法を提案するとともに、道の駅の付加価値を高めることとしました。

●「海遊覧旅」の案内ポスター



- 海辺の道の駅の特徴を活かしたクルージングイベント。鴨川の魅力をお客様に直接伝える事ができ、利用者の満足度は良好！⇒ プロジェクト成功！！



平成29年度 取組み内容：情報発信機能の強化

企 画

- 鴨川に住む学生が鴨川の魅力を確認し、その魅力を学生目線で伝えていくことを主眼に企画

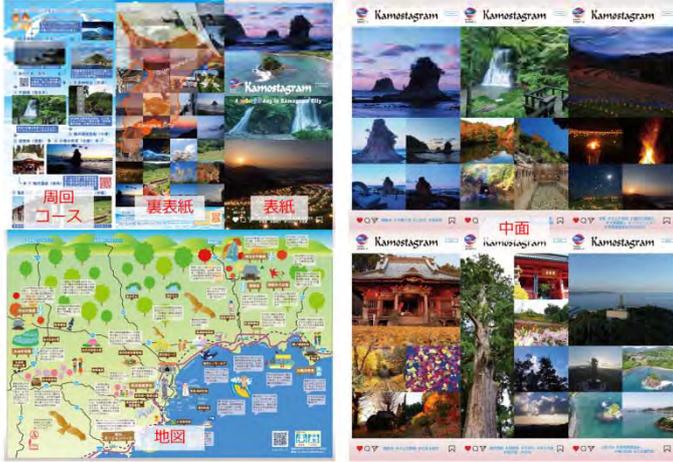


- 「インスタ映え」がキーワード！！



地域独自の魅力やその季節の旬の魅力等の情報とともに、そこに至る経路や地図情報を効果的に伝えることによって、観光客が様々な観光スポットを訪れ、じっくりと地域の魅力を楽しめるよう工夫しました。

2017年の流行語大賞に選ばれた「インスタ映え」をキーワードとして、鴨川の豊かで美しい自然を印象づけるような写真を掲載したリーフレットを作成しました。



道の駅「ちぢみの里おぢや」と長岡技術科学大学との連携



長岡技術科学大学の学生が、道の駅「ちぢみの里おぢや」と周辺地域が連携したサービスについて、利用者ニーズを把握し、地域活性化方策を検討



【小千谷市の概要・課題】

小千谷市は、新潟県のほぼ中央部に位置し、日本一の大河・信濃川により形成され、美しい山河に恵まれている。しかし、人口減や高い高齢化率(H29高齢化率約33%)といった課題を有し、中心市街地の賑わいが失われつつある。



賑わいを取り戻すため、一定の集客がある「道の駅」から「街中」への立ち寄りを目指して、取り組みを実施

【取組内容】

- ①道の駅「ちぢみの里おぢや」利用者アンケート調査
- ②アンケート調査結果の分析
- ③道の駅周辺地域の観光・店舗情報、地域特有の情報発信の方法の提案

長岡技術科学大学

長岡技術科学大学は、1976(昭和51)年に設立されました。社会の変化を先取りする“技学”を創成し、未来社会で持続的に貢献する実践的・創造的能力と奉仕の志を備えた指導的技術者を養成する、大学院に重点を置いたグローバル社会に不可欠な大学を目指すことを大学の理念としています。



道の駅「ちぢみの里おぢや」

国道17号沿いに位置する「道の駅」ちぢみの里おぢやは、トイレ、道路情報施設、観光案内所だけでなく日帰り温泉施設も備えており、多くの人が訪れます。

また、道の駅がある小千谷市は、三国峠と新潟市の中間に位置し、特産の麻織物 小千谷縮と錦織で知られています。



道の駅「ちぢみの里おぢや」と長岡技術科学大学との連携



平成29年度 取組内容：地域活性化方策の検討

道の駅と周辺店舗が連携した利用者需要の高い活動へ向けた現状課題と改善策の提案を行う

現地調査

○実施内容

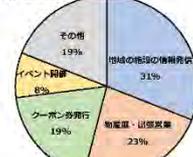
- ・道の駅の利用者及び周辺店舗にアンケート調査
- ・周辺の飲食店などを訪れてもらうため
- ・のクーポン券の配布



「道の駅」利用者アンケート調査

調査結果

■利用者実態調査



利用者が道の駅へ求めている活動

■周辺店舗意識調査

利用者実態調査の結果を受けて、道の駅での「店舗情報発信」、「出張営業」、「クーポン券発行」の可能性について、意識調査を実施。

【店舗情報発信(チラシの配布等)】

・他の活動と比較すると行いやすく、売上増加や顧客確保につながれば参加したいという店舗が多い。

【出張営業、クーポン券発行】

・挑戦したいが未経験であるため、何をすれば良いかわからないという参加に消極的になる店舗が多い。

問題点・提案

○問題点

- 利用者実態調査から
 - ・道の駅で発信する現在の地域情報に満足していない。
- 周辺店舗意識調査から
 - ・活動に参加したいが、何をしたら良いかわからないという店舗が多い。
 - ・他店舗との交流の重要性を感じている店舗が多く、地域内でのコミュニケーションが日常的に行える体制が必要

○提案

- 利用者実態調査から
 - ・地域情報・オリジナリティに特化した情報発信
- 周辺店舗意識調査から
 - ・店舗情報発信等の参加しやすいものから行い、参加経験を積むことで他の活動を行う足掛かりにしていく。
 - (情報発信→クーポン券発行→出張営業)
 - ・参加希望店舗に対し、アドバイザー(商工会議所や外部経験者)からのサポート制度

道の駅「良寛の里わしま」と長岡技術科学大学との連携



長岡技術科学大学の学生が、道の駅「良寛の里わしま」と周辺地域が連携したサービスについて、利用者ニーズを把握し、地域活性化方策を検討



【和島地域・寺泊地域の概要】

長岡市の合併地域である和島地域および寺泊地域は、それぞれ歴史的資源、海洋資源を活かしたまちづくりが進められており、両地域がますます発展するためには、それぞれの地域資源を活かすとともに、観光周遊強化も求められるところである。



賑わいを取り戻すため、一定の集客がある「道の駅」から「街中」への立ち寄りを目指して、取り組みを実施

【取組内容】

- ①道の駅「良寛の里わしま」利用者アンケート調査
- ②アンケート調査結果の分析
- ③道の駅周辺および寺泊エリアの観光周遊強化に向けた施策の提案

長岡技術科学大学

長岡技術科学大学は、1976(昭和51)年に設立されました。社会の変化を先取りする“技学”を創成し、未来社会で持続的に貢献する実践的・創造的能力と奉仕の志を備えた指導的技術者を養成する、大学院に重点を置いたグローバル社会に不可欠な大学を目指すことを大学の理念としています。



道の駅「良寛の里わしま」

・築180年の古民家を移築した地域交流センター「もてなし家」は、地元素材を活かした郷土料理を味わえる他、地域の特産品を一堂に集めた物産コーナーを設けており、多くの人が訪れます。



・長岡市と合併したことにより利用者の幅が広がり、国道116号沿線だけでなく長岡市全体からも多くの利用者が訪れている。

道の駅「良寛の里わしま」と長岡技術科学大学との連携



平成29年度 取組内容：地域活性化方策の検討

道の駅「良寛の里わしま」および寺泊エリアを対象として調査・検討を行い、観光周遊強化に向けた施策の提案を行う。

現地調査

○実施内容

- ・道の駅の利用者にアンケート調査
- ・道の駅「良寛の里わしま」
⇒寺泊エリアのクーポン券の配布
- ・寺泊エリア
⇒道の駅「良寛の里わしま」のクーポン券の配布



「道の駅」利用者アンケート調査

調査結果

- ・クーポン券を配布したところ1割弱の利用を確認できた。
- ・道の駅に併設の美術館等への利用者は少なく、主要施設の利用のみとなっている。



- ・寺泊と道の駅「良寛の里わしま」を周遊する人は少なく、周遊させるための強みも少ない。
- ・寺泊エリアへの訪問者は寺泊エリアを最終目的地としており、エリア内での観光で完結している。

改善点の提案

■クーポン券の配布

・今回の社会実験において確認できたクーポン券の需要を活用し、利用者数の増加を図り、施設の認知度の向上に努める。

■スタンプラリーの実施

・両地域を認識するきっかけを作り、道の駅「良寛の里わしま」、寺泊エリアの両エリアの流入促進を図る。

■案内標識の設置

・案内標識を設置し、両エリアの経路の周知を図る。

富山国際大学の学生が道の駅「砺波」と連携して、道の駅「砺波」を拠点とした地域活性化について企画立案



チューリップフェア

【砺波市の現状把握】

- 砺波市と言えば、富山県を代表する観光資源でもある「チューリップフェア」が有名であるが、砺波市観光客は春シーズンに偏っている。

【道の駅のニーズ】

- 春シーズンの偏りを無くし、観光客数の底上げや観光客のオールシーズン化できれば、来訪者が増える。
- 道の駅「砺波」周辺には、観光や文化施設があり道の駅来訪者が立ち寄りやすくできないか。

- 道の駅「砺波」を拠点とした地域活性化対策を検討する。

■富山国際大学

国際的視野に立脚した人間形成を基本に時代の潮流に対応できる人材を育成して、国際社会と地域社会へ貢献することを目指し、世界や地域に開かれた大学として、平成21(1990)年に設立されました。「国際化、情報化、少子高齢化、環境との共生」といった時代の潮流を受けとめた教育研究や人材育成により、国際社会および地域社会の発展に貢献すること」を使命としています。

■道の駅「砺波」

国道156号沿いにある「道の駅・砺波」は、散居村とチューリップの町、砺波の観光拠点。駅には、球根やハンカチ、ネクタイといったチューリップグッズのほか、地元的新鲜な野菜が揃う直売所があります。春にはチューリップ、夏にはカンナが見事な「チューリップ公園」、1年中チューリップが見られる日本で唯一の博物館「チューリップ四季彩館」、「砺波市美術館」、「郷土資料館」、「エレガガーデン」が隣接しています。



平成29年度 取組み内容：道の駅「砺波」周辺アクセスマップを作成します。

【企画立案の検討】

道の駅拠点とした地域活性化対策を検討

道の駅の回遊性を高める方策を模索
砺波市観光PRできないか？

道の駅周辺観光アクセスマップの作成



企画立案の検討状況

【取り組み結果】

・マップ案の検討のため、道の駅周辺調査実施



・砺波市の年間イベントスケジュールを盛り込んだ道の駅周辺観光マップ作成
・各施設には、大学生の視点でのコメントあり



【成果】

・道の駅「砺波」に周辺アクセスマップを手交



・道の駅「砺波」周辺アクセスマップ1000部印刷、道の駅、関連施設に設置



富山国際大学の学生が道の駅「ウェーブパークなめりかわ」と連携して、よりにぎわいのある道の駅の活性化対策を企画立案



ほたるいか

【滑川市の現状把握】

- ・滑川市来訪の観光客が減少、春シーズンに偏っている。
- ・平成28年実施アンケートでは、滑川市という言葉で連想するのは「ほたるいか」が半数以上

【道の駅のニーズ】

- ・道の駅来訪者はファミリーが多い。
- ・もっと道の駅で楽しんでほしい。
- ・滑川市といえば、やはりホタルイカ。最大の観光資源をよりPRしたい。

よりにぎわいのある道の駅の活性化対策を検討する。

■富山国際大学

国際的視野に立脚した人間形成を基本に時代の潮流に対応できる人材を育成して、国際社会と地域社会へ貢献することを目指し、世界や地域に開かれた大学として、平成2(1990)年に設立されました。「国際化、情報化、少子高齢化、環境との共生といった時代の潮流を受けとめた教育研究や人材育成により、国際社会および地域社会の発展に貢献すること」を使命としています。

■道の駅「ウェーブパークなめりかわ」

道の駅「ウェーブパークなめりかわ」は、「ほたるいかミュージアム」「タラソピア」「休憩施設」を核として、海、水に親しみ、自然を楽しむ施設で、特に「ほたるいかミュージアム」は、マーケット、レストランのゾーンと、ホタルイカの不思議な世界と深海を思い起こさせる、幻想的な光で演出されたミュージアムの2つのゾーンから成り、海洋療法のアイテムを採り入れた深層水体験施設とともに観光拠点、地域のシンボルとなっています。



平成29年度 取組み内容：フォトスポット「顔出し看板」を設置します。

【企画立案の検討】

よりにぎわいある道の駅活性化対策の検討

来訪者の道の駅滞在時間延ばす方策を模索

フォトスポット(顔出し看板)の作成、設置

図案の検討

道の駅:ホタルイカを今まで以上にPRしていきたい。

大学生:富山湾で365日年中スキューバダイビング可能であることに注目。PRのため顔出し看板のデザイン案に取り組みたい。



企画立案の検討状況

【取り組み結果】

大学生によるスケッチ



デザイン完成



【成果】

・地域振興施設(ホタルイカミュージアム館内)にフォトスポット「顔出し看板」を設置



・フォトスポット「顔出し看板」の利用状況



道の駅「瀬女」と金沢星稜大学との連携



道の駅「瀬女」と金沢星稜大学経済学部の学生が連携して、観光資源を活用し、道の駅を含めた白山市全体の地域活性化の企画提案を実施。



【白山市の概要・課題】

白山市は石川県の南部に位置し、日本海から日本三名山の一つでもある白山まで、起伏に富み、市内全域で白山手取川ジオパークをなす。観光資源が豊富な白山ろく地域（白山市域の山間地である河内、吉野谷、鳥越、尾口、白峰の5地域）では人口流出が深刻で、老年人口の占める割合は全体の約40%であり、集落の維持・存続が危ぶまれ、地域活性化が不可欠である。（平成28年度白山市統計より）

地域活性化のためには定住人口増加はもちろんのこと、交流人口（観光客等）の拡大が重要である。また、平成29年は白山開山1300年という節目の年でもあり、地域の観光・情報発信の拠点である道の駅「瀬女」をフィールドに、白山ろく地域全体の地域活性化を期待した取り組みを実施。

- 【取組内容】
- ①道の駅「瀬女」交通量等調査
 - ②道の駅「瀬女」利用者アンケート調査
 - ③道の駅「瀬女」商品調査

金沢星稜大学

金沢星稜大学は、昭和42年に金沢経済大学として設立し、平成14年に金沢星稜大学に名称変更されました。建学の精神「誠実にして社会に役立つ人間の育成」の実現を目的に、北陸の産業・文化の発展に寄与するとともに、広く国家社会に貢献することを使命としています。



道の駅「瀬女」

日本三名山のひとつ白山、岐阜県とつながる白山白川郷ホワイトロード（旧愛称：白山スーパー林道）、独自の文化が根付き、国の重要伝統的建造物群として指定されている白峰地区。また冬には白山ろくスキー場への中継点として、魅力あふれるエリアの中心に位置しています。サイクリングロードである、手取川キャニオンロード利用者の休憩場所としても利用されています。



道の駅「瀬女」と金沢星稜大学との連携



平成29年度 取組内容：道の駅「瀬女」にて交通量調査

道の駅「瀬女」周辺にて交通量調査（立寄率調査）を実施し、利用者居住地等の傾向を分析し、それに対する集客方法を考える。

現地調査

実施内容

- ・交通量調査（H29.8.28～29）



交通量調査状況

調査結果

- ・国道360号を通行する車両のうち、道の駅「瀬女」に立ち寄った割合は、午前中で約4割、夕方では約5割であった。
- ・立ち寄った車両のうち、最も多かった車籍地は石川県で、次いで愛知県、福井県、富山県が多い傾向にあった。
- ・少数ではあるが、北海道や神奈川県、岡山県からの車両も見られた。

提案

○集客方法

- ・白山ろくの温泉地やスキー場に向かう車両に対して、看板等にて先の道の駅「白川郷」までの距離及び周辺に「道の駅」がないことを示し、道の駅「瀬女」への立ち寄りを促す。
- ・岐阜県白川郷へ巡る観光バスも通過するため、道の駅「白川郷」と両方に立ち寄りしてもらうためのコラボ商品を開発をする。



看板設置例

平成29年度 取組み内容：道の駅「瀬女」にて利用者アンケート調査

道の駅「瀬女」利用者にアンケート調査を実施し、道の駅「瀬女」の来訪目的とそれ以外の来訪場所等を分析し、観光スポット調査と合わせて集客方法を考える。

現地調査	調査結果	提案
<p>実施内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アンケート調査 ・周辺観光スポット調査 (H29.8.28～29)  <p>アンケート調査状況</p>  <p>観光スポット調査状況</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・年齢層別で見ると、50歳代～60歳代の利用者が多い。 ・来訪目的は休憩が多いが、「白山ろく地域」へは自然景観を求める利用者が多い。 ・周辺には自然景観が魅力である、「白山白川郷ホワイトロード」や「綿ヶ滝」等のSNS映えするスポットがあるが、SNS利用者層である若年層に魅力を発信できていない。  	<p>○集客方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・観光を目的とする方にとって「食」や「体験」に関する道の駅「瀬女」周辺の魅力を発信出来ていないので、それらを融合した観光パックの企画。 ・SNS利用者へ「白山ろく地域」の魅力を発信するため、自然景観によりSNS映えする写真をドローンで撮影し、拡散する。  <p>自然景観 白山ろく</p> 

平成29年度 取組み内容：道の駅「瀬女」にて商品調査

道の駅「瀬女」にて陳列されている商品を観察し、ディスプレイ・商品パッケージ等により、より多くの商品を手にとってもらうことが出来る方法を考える。

現地調査	調査結果	提案
<p>実施内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・店内での商品調査 (H29.8.28～29)   <p>商品調査状況</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・2017年の白山開山1300年を記念した関連商品や特産物が、市販の菓子、他県(北陸地区)の土産物等と混在しており、目立たないため購買意欲を高めることができていない。 ・特産物(とち餅等)について知らない人が多い中、漠然と商品が陳列されているため、観光客が困惑してしまう。 ・特産物については、1パックの個数が多く、価格も高くなるため、お試しで買いつらい。 	<p>○販促方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特産物についての説明ボードを作成し、白山の山の幸などの良さを知ってもらうとともに、見た目を超える魅力を伝え、商品への購買意欲を高める。 ・商品全般のPR方法として、トイレ等の多くの人に見てもらえる場所にポスターを設置することや、商品のパッケージをおしゃれなものにする。 ・特産物の店内での試食や1つのパックでの個数を減らし、価格も下げることにより、観光客が購入するハードルを下げる。 

道の駅「とよとみ」と山梨学院大学との連携



道の駅「とよとみ」と山梨学院大学の学生が連携し、道の駅で販売する特産物等の多言語型POP広告*の作成や、留学生の視点による外国人観光客向けの観光施設の充実など、道の駅を中央市のインバウンド観光の拠点とするための取組みを行います。

※商品名と価格、キャッチコピーや説明文、イラストを手描きしたもの

- 「道の駅」の現地調査
観光案内所、施設案内表示及び商品ディスプレイなどの問題点の抽出
- 中央市の観光施設の調査
中央市の「歴史・文化」を学び、留学生の視点で観光地の魅力を発見

反映

- 外国人観光客向けに多言語型パンフレット・POP広告の作成
- 留学生の視点で発見した観光施設の魅力を外国人観光客向けにアピールする改善点の提案

発展

道の駅を中央市のインバウンド観光拠点に

【山梨学院大学】

山梨学院大学（所在地：山梨県甲府市）は、昭和21年に創立され、日本文化への深い理解と広い国際的視野をもって社会に貢献する人間の育成を目指し、豊かな教養と創造力を備えた人格の形成を図ることを教育理念としています。学部横断型専攻として観光・ホスピタリティプログラムを行っており、観光、宿泊、レジャー施設等で活躍できる人材の育成に取り組んでいます。また、国際交流センターではアジア、ヨーロッパ、アメリカ圏からの留学生との国際交流を図ることで、グローバルな視野を養っています。

【道の駅とよとみ】

国道140号線の中央市の玄関口として緑色の屋根が目印。地元産の土づくりこだわった野菜・果物等の販売をしている。「平成21年度 全国直売所甲子園」にて優勝。特産品：とうもろこしワイン、とうもろこし焼酎、スイートコーン、手作りハム・ソーセージ

■道の駅とよとみ
【特産品のトウモロコシを使った焼酎】



■中央市の観光施設
【歴史郷土資料館】



道の駅「とよとみ」と山梨学院大学との連携



平成29年度 取組み内容：道の駅で販売する特産物について、留学生の視点や感覚で表現した多言語POP広告を作成・表示

留学生ならではの視点や感覚を活かし、外国人観光客にも魅力が伝わるような多言語POP広告の作成に取り組みました。

定型的な翻訳ではなく、国によって異なる「魅力の感じ方」にあわせ、表現を工夫しました。



●道の駅「とよとみ」特産物等の多言語型POP広告

（中国語表記）



（日本語訳）

- ・山梨県産のぶどうの果汁を使用し、チョコレートと一緒にできたもの
- ・ぶどうの味が濃く、甘くておいしい、新しい食感を体験できる
- ・2016やまなしギフトコンテスト優秀賞受賞



- ・人気たっぷり
- ・売上はナンバー1
- ・独特な食べ方及びきれいな包装、そして、おいしい食感、食べたら忘れられない



信玄餅の食べ方は、人それぞれ。
食べ方の一例を紹介。

掲示方法等の検討

●見栄えする場所の調査



●掲示方法の調整



道の駅「あおき」と長野大学との連携



道の駅「あおき」と長野大学（環境ツーリズム学部）の学生が連携し、道の駅を拠点とした取り組みで、村の魅力を引き出し、観光振興による地域活性化を目指します。

取組①

学生による青木村の実地調査

- ・青木村の地域資源調査
 - ・道の駅「あおき」の利用状況調査
 - ・村民への聞き取り調査
- 学生が村内の調査や村民との交流を通して、青木村・道の駅の現状を把握し、村の魅力を調査します。

取組②

特産品を活かした新商品の開発

青木村限定栽培の蕎麦「タチアカネ」を活用したオリジナルメニューにより、青木村の新たな魅力を創出し、道の駅での商品化を目指します。

■特産品



タチアカネ

取組③

村の魅力を活かした観光PR

村の良さである歴史的建造物や古くからある温泉などを巡る観光ルートの提案や、案内マップの作成により、道の駅から村の魅力を発信します。

■歴史的建造物や古くからある温泉



大法寺三重塔



田沢温泉

【長野大学】

長野大学（所在地：長野県上田市）は、知の共同体の構築を理念に1966年に開学されました。環境ツーリズム学部は、社会の幅広い分野で活躍する「教養ある職業人」の育成を目指しています。
道の駅「あおき」との連携プロジェクトに参加する市川ゼミナールは、「地域活性化への寄与」をテーマに、地域の担い手を育成するための授業を行っています。

【道の駅「あおき」】

平成17年に登録された道の駅。
農産物直売所では、村の特産品である「見返り漬け」や、秋には松茸をはじめとするキノコ類などを販売しています。
道の駅内のレストラン「味処こまゆみ」では、青木村限定栽培タチアカネの手打ちそばを食べることができます。

道の駅「あおき」と長野大学との連携



平成29年度 取組み内容：「タチアカネ」を活かしたオリジナルメニューの開発

取り組み前

- 青木村オリジナルブランド蕎麦「タチアカネ」を活かしたオリジナルメニューを開発



青木村の特産品である「タチアカネ」の新たな魅力を創出するため、オリジナルメニュー「そば団子」を開発

- 道の駅あおきでのイベント「青木村産業祭」で「そば団子」と「そばスープ」を無料配布。



- 「そば団子」と「そばスープ」を各100食提供。大人気で20分で完売しました。



平成29年度 取組み内容②：中条地域最大「むしくらまつり」の連携・協力

取組み前の調査

- 道の駅「中条」でのアウトキャンパス・スタディを実施。



- 38プロジェクトファームで中条特産の西山大豆の種まきを体験。



中条地域最大のまつり「むしくらまつり」から地域を盛り上げる企画・提案をおこないました。

- 食べやすい大きさに改良した「西山大豆おからドック」200個を、1個100円で完売しました。



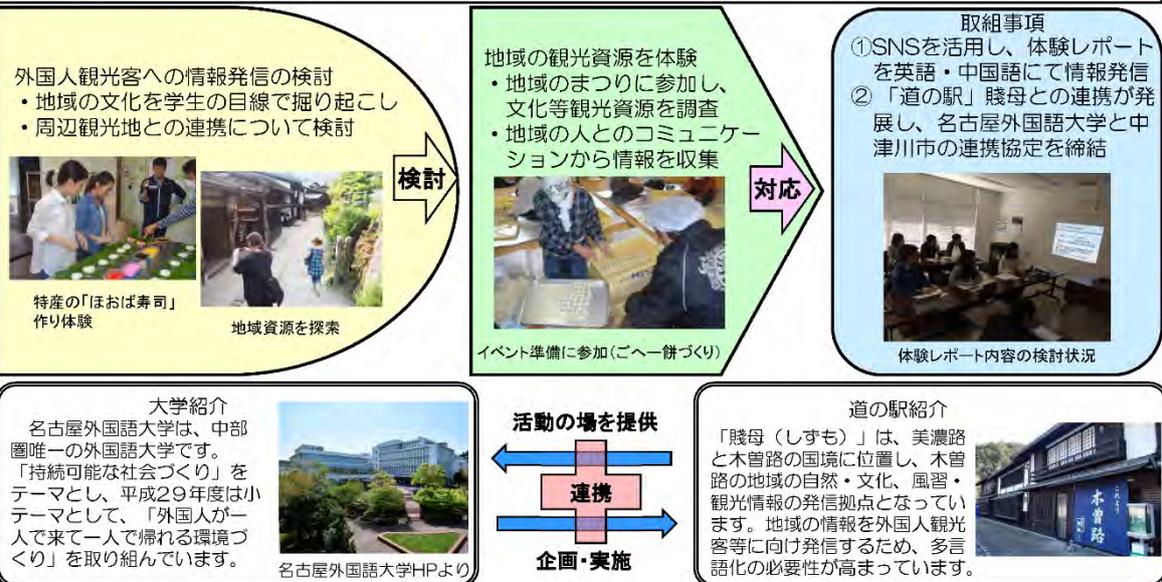
- 学生が考案した「西山大豆豆乳スープ」を約100杯振る舞い、お客様には喜んでいただくことができました。



「道の駅」賤母と名古屋外国語大学との連携



名古屋外国語大学が道の駅「賤母（しずも）」と連携し、平成27年度から、地域の自然と文化、風習・観光情報の発信に取り組んでいます。外国人観光客・世界へ向けたダイレクトな発信の取り組みとして、大学と連携し多言語による地域観光情報のポータルサイトを構築しました。



「道の駅」賤母と名古屋外国語大学との連携



平成29年度 取組み内容：道の駅のインバウンド対応

①SNSを活用し、体験レポートを英語・中国語にて情報発信

■名古屋外国語大学 ごへ祭りスケジュール

- イベント準備 平成29年10月21日(土)
- 場所 第四町内会集会所(中津川市山口987-1)
- 参加者 ごへ一人クラブ 12名
- 名古屋外国語大学 学生5名と先生1名
- 内容 ごへもち1,800本(5,400個)作成
- イベント当日 平成29年10月22日(日)
- 台風のため休止となりましたが、ごへもちは地域の方々の協力により、ロコミ販売にて完売しました。

写真：イベント準備
(地域の皆さんとのごへ餅づくり)

たれをつけて香ばしいにおい！できたてのつまみ食いがおいしい！
After dipping the special thick sauce, it's grilled again and ready to eat!!

体験レポートを英語・中国語にてSNSで紹介イメージ(中止のため、H28実績)

出展：Facebook名古屋外国語大学
「富川研究室×中津川」プロジェクト

②名古屋外国語大学と中津川市の連携協定を締結

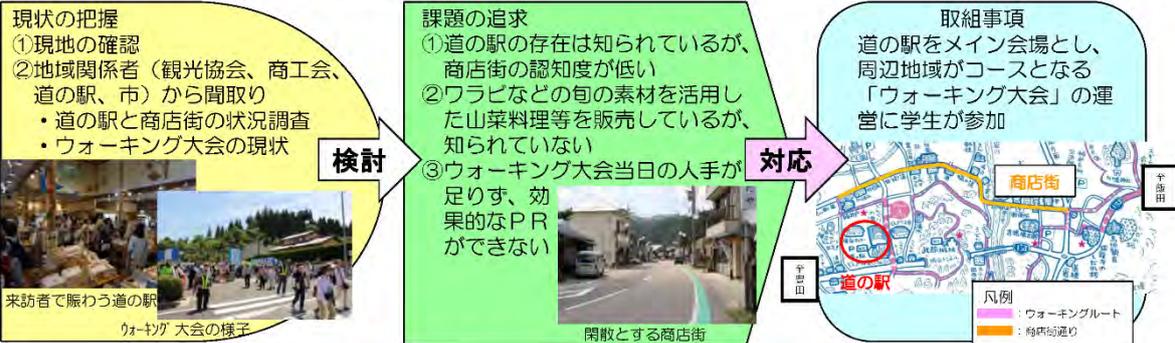
■平成27年度からの「道の駅」賤母との連携が発展し、平成29年7月25日に、更なる友好関係を深め相互に協力し、地域社会の発展、人材育成及び学術の振興に寄与することを目的として、包括的な連携協定を締結しました。

・「協定締結を機に、お互いの強みを活かしながら、まちづくりや産学官連携の良きパートナーとして、相互に高め合いたい」と今後の連携活動に期待を寄せました。

「道の駅」どんぐりの里いなぶと愛知学泉大学との連携

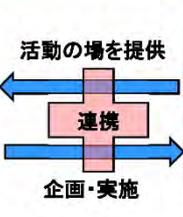


「道の駅」どんぐりの里いなぶは国道153号にあり、愛知県・岐阜県・長野県の各県境に近接することもあり、年間約60万人の来訪がある。一方、旧宿場町であった地区の商店街は空き店舗が増え活力の低下が否めない。商店街の活性化のため、道の駅と連携した取組を大学が実施した。



大学の紹介

愛知学泉大学では、地域貢献できる大学づくりを目指しており、「自分たちのまちは自分たちで育てよう」という意欲と知識を身につけたい人材を育成しています。そのため、いち早く社会人基礎力育成を柱にしたカリキュラムを導入しています。



「道の駅」の紹介

「どんぐりの里いなぶ」は、温泉施設、体験観光施設を併設する地域の観光拠点・産業拠点であり、重点道の駅に選定されています。道の駅の元気を地域に還元することが必要になっています。

道の駅「どんぐりの里いなぶ」と愛知学泉大学との連携



平成29年度 取組み内容：集客イベントのサポートによる地域の活性化

○ウォーキング大会「歩かまい稲武」を活用した地域の活性化

■「歩かまい稲武」概要

- 1開催日 平成29年5月21日(日)
- 2場 所 道の駅「どんぐりの里いなぶ」を含む豊田市稲武地区中心部一帯
- 3参加者 約1,000人(豊田市街地・名古屋市からの参加者多数)
- 4内 容 参加者が7km、8kmのコースを歩き、自然環境と中山間地の雰囲気につれる
- 5連携の趣旨 道の駅を拠点にした地域全体の活性化について、多数の集客があるイベントをきっかけにした事業を施行

①商店街で販売、公共交通利用のPRを実施

- ・地域の特産品である山菜の天ぷらなどの商品を販売
- ・豊田市街地から「道の駅」に乗り入れている路線バスの利用PRに学生が参加

天ぷら・五平餅などを学生が販売

豊田市街地と直結するバス「快速いなぶ」をPR

ウォーキング参加者に地域の魅力をPR

②商店で人気の特産料理をPRするPOPを作成

各商店の売りを明記した手作り看板を学生が作成

特産品であるワラビ、タラの芽、たけのこなど旬の素材を利用した天ぷらをユニークなイラスト、POPで紹介

商店街の名所をユニークにわかりやすく紹介

「道の駅」紀宝町ウミガメ公園と鈴鹿大学との連携



世界遺産に登録された熊野三山へ多くの観光客が訪れる中、三重県側からの経由地である「道の駅」紀宝町ウミガメ公園では、地元紀宝町へより多くの観光客の招致を目指している。その施策について、「道の駅」と大学とが連携して、より紀宝町が目される情報発信を行う為の取り組みを平成30年度に実施予定。

平成30年度取組実施に向けた検討

- ・連携先道の駅選定に関する打ち合わせ → 「道の駅」との調整を実施（紀勢国道）
- ・連携事業の検討
 - 「道の駅」、関係自治体に調査を実施（紀勢国道）
 - 調査結果を受けて連携先道の駅を選定（鈴鹿大学）
- ・鈴鹿大学と「道の駅」と紀宝町合同で第1回打ち合わせを開催
 - 連携事業に向けたヒアリング（道の駅利用実態等）を実施（鈴鹿大学）

検討

検討内容を
踏まえ
平成30年度
に取組実施
予定



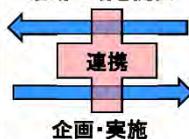
道の駅、紀宝町とのヒアリング

大学紹介

鈴鹿大学は、地域から必要とされる大学を目指した教育研究活動に取り組んでいます。その取組の中で、地方の人口減少と高齢化、地域産業が衰退に向かう現状を肌で感じながら、学生の視点でアイデアを出し、地域に貢献していく力を養っている。



活動の場を提供



道の駅紹介

「紀宝町ウミガメ公園」は、地域の観光情報や地元でとれた農産物などの販売等、紀宝町の情報発信場所となっています。世界遺産「熊野三山」を訪れる観光客が紀宝町へも足を伸ばしてもらえよう施策が望まれています。



「道の駅」紀宝町ウミガメ公園と鈴鹿大学との連携



平成29年度 取組み内容：関係機関と平成30年度実施に向けた調整

■ウミガメ公園及び紀宝町からの要望

- ①ウミガメ公園来場者の方々が待ち時間に見てもらえるような、紀宝町のPRアルバムを作りたい。
- ②農産物の生産工程や生産者の思いを照会したPOPを作成したい。
- ③紀宝町をPRできる紀宝町の特産を使った「紀宝定食」のメニュー開発。併せてインスタ映えするような盛りつけなどを提案して欲しい。

■平成30年度実施内容(予定)

- ①【高見准教授ゼミ 国際人間科学部ビジネス基盤領域】
・農家からの思い(商品の特徴や伝えるべきストーリー)を学生が聞いて、学生の視点で商品やメニューの写真撮影を行い、アルバムやパンフレットを作成する。
- ②【高見准教授ゼミ 国際人間科学部ビジネス基盤領域】
・POPの作成
- ③【前澤ゼミ 短期大学部食物栄養学専攻】
・紀宝町で生産される食材を使ったメニュー提案(定食、ファストフード、スイーツ)



①PRアルバムイメージ
(熊野古道ウォーキングマップより)



②POPイメージ
(道の駅奥伊勢おおいより)



③鈴鹿大学と鈴鹿市商工会の連携による商品開発例(かぶせ茶)

以上を「道の駅」ウミガメ公園と「鈴鹿大学」で調整中

道の駅「竜王かがみの里」・「アグリパーク竜王」と滋賀短期大学との連携



H27より道の駅「竜王かがみの里」、H29年度より道の駅「アグリパーク竜王」と滋賀短期大学が連携して、若者ならではの視点・感性及び専門分野を活かした新たな特産品の創出等、地域活性化に資する取組を進めています。

<連携内容の確認>

- ・道の駅「竜王かがみの里」及び道の駅「アグリパーク竜王」からのニーズの確認
- ・現地調査により改善点を確認

<企画・提案>

反映

- ①特産品を活かしたオリジナル商品の開発
地元食材を活かしたパンや弁当及びレストランメニューの開発
- ②売場の環境改善
陳列方法、惣菜や特産品のPOPづくり、名物定食の説明PR作成 等
- ③情報提供（休憩）施設など、施設の有効活用
多様なニーズに応じた利用勝手のよい空間の創出、イベントの開催 等

<期待する効果>

発展

- ・地域活性化の担い手となる人材育成・確保 → 平成29年度、滋賀短期大学から「竜王かがみの里」へ1名就職
- ・新たな商品の開発による地域活性化
- ・商品開発による、学生のプロ意識向上

【滋賀短期大学】

1918（大正7）年の「松村裁縫速進教授所」創立以来の約100年の歴史ある伝統校で、建学の精神である「心技一如」に基づき、品性と能力を車の両輪のようにたとえ、人格教育と実学教育を融合させることによって、一人ひとりの学生の学び力を引き出すことを基本方針としています。

【道の駅「竜王かがみの里」「アグリパーク竜王」について】

集客力のある「竜王かがみの里」と農業生産力のあるアグリパークを連携させて竜王町の地方創生の拠点として、町のブランド力の向上・魅力の発信、6次産業化推進、畜産業・農業就業者支援などに取り組んでいる。

道の駅「竜王かがみの里」と滋賀短期大学との連携



平成29年度 取組み内容：情報館を活かしたイベント

ひなまつりに滋賀短期大学の3学科によるイベント

ベーカリー塾のいちご大福作り



生活学科ミニコンサート



道の駅「アグリパーク竜王」と滋賀短期大学との連携



平成29年度 取組み内容：ベーカリー塾金丸先生パンの指導

- 売れ残りのパンのリメイク、穴が開いた原因の対策
- 作業工程の見直し
- 竜王特産品を使用したパンの試作



3

道の駅「竜王かがみの里」と滋賀短期大学との連携



平成29年度 取組み内容：竜王町まるごと「スキヤキ」プロジェクトへの参画

地元産の食材を使ったレシピコンテストの審査委員として協力いただいた。
プロジェクトの推進協議会へも委員として参画いただいた。

レシピ集を作成

このレシピ集には、地元産の食材を使ったスキヤキのレシピが紹介されています。また、スキヤキの作り方や、地元産の食材の紹介も含まれています。

道の駅「山陰海岸ジオパーク浜坂の郷」と鳥取環境大学との連携



山陰海岸ジオパークについて研究・学習する鳥取環境大学の学生と連携し道の駅を拠点に来訪者をジオサイトへ誘導するPRツールを作成

連携協議（H29春）

同大学出身で道の駅で活動している地域おこし協力隊員が連携調整

大学

授業への活用、ジオサイトでの活動体制や取材内容について検討

道の駅

提供できるスペースやメディア、ジオサイトでの受入支援について検討

大学のH29年度後期講座で活動採用

公立鳥取環境大学

「人と社会と自然との共生」の実現に貢献する人材育成と創造的な学術研究を行うことを基本理念としている大学です。

道の駅「山陰海岸ジオパーク浜坂の郷」との連携企画型事業ではプロジェクト研究という1・2回生を対象とした講義のなかで実施されました。

道の駅山陰海岸ジオパーク浜坂の郷

H29年9月オープン of 最新の道の駅です。直売所や飲食施設など施設は小規模ながら、そこで取り扱う但馬牛、そば、木タリイカなど豊富な地元産品が自慢です。

また、山陰近畿道のICに隣接し、周辺ジオサイトへのアクセスは良好で、情報提供にも力を入れています。

道の駅「山陰海岸ジオパーク浜坂の郷」と公立鳥取環境大学との連携



平成29年度 取組み内容：町の魅力PRツールを作成



町内の山陰海岸ジオパーク関係施設、ジオサイトの調査を実施。取扱商品や地域の魅力などPRしたい情報を収集しました。

山陰海岸ジオパークとは

ジオパークという科学的に貴重または美しい地形・地質を持ち、人の暮らしや文化に深い関わりを持つ一種の自然公園です。山陰海岸ジオパークはその中の世界ジオパークネットワークに加盟しています。

山陰海岸国立公園を中核として京都（京丹後市）、兵庫（北但）、鳥取県（岩美町・鳥取市）にまたがる広大なエリアを有しています。



調査した内容を基に学生がポスター・パンフレットを作製。作成したポスターは道の駅で展示。町の魅力をPRするツールとして利用しています。



道の駅「吉野路大塔」と帝塚山大学との連携



帝塚山大学食物栄養学科の学生と連携し、平成23年9月に発生した紀伊半島大水害に伴い閉鎖していた道の駅のレストランを、季節限定で再開。毎週日曜日に営業。

道の駅

観光振興の再出発拠点
就業体験の場の提供

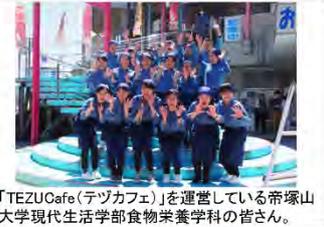
大学生

地域振興を学ぶ学生の課外活動
若者の視点・スキル等の活用

道の駅学生運営レストラン「TEZU Cafe(テヅカフェ)」

【平成29年度活動報告】

活動開始 H29.4.2(プレオープン)
H29.4.23(グランドオープン)
活動人数 帝塚山大学現代生活学部
食物栄養学科4年生 18人
活動期間 8ヶ月間(4～11月)
来客人数 約2,800人
卒業式 H29.11.18
報告会 H29.11.21



【平成28度からの改善点】

- ・定番メニューばかりがでる → ・ホールの呼びかけ、新たなPOPの作成
- ・お持ち帰りの商品が少ない → ・新商品開発(ハンドカレー、スティックカレーなど)
- ・提供時間が遅い → ・お持ち帰りの方が気軽に入店できるPOP
- ・多種多様な持ち帰りに対応した容器の導入
- ・希望シフト制から班編成(ホール、キッチン)
- ・キッチンメンバーの中でメニューごとに担当
- ・ホールでデシャップのポジションを担当

【連携活動内容】

- 学生が、食材の仕入れや調理、接客にいたるまですべて運営。
- 地場産の材料を用いて開発した「帝塚山大学オリジナルメニュー」等を利用者に提供。
- 知名度向上のため、チラシやSNSによる宣伝、各種イベントへの参加やテレビ番組等へも出演。
- 教育委員会と連携した食育活動

【帝塚山大学 現代生活学部 食物栄養学科】

食物栄養学科では、医療や福祉、行政、学校などの幅広い分野で戦力として活躍できる臨床に強い管理栄養士を育成するために、基礎から知識を深め、多くの実習経験を通じて“実践力”を身につける実学教育を実施しています。

地域や企業と連携したさまざまなプロジェクトに参加することで、食育指導や食品開発、給食事業分野に生かせる企画・提案力、マネジメント力、コミュニケーション能力を養います。

【道の駅 吉野路大塔】

UFOのような外観が特徴の施設。五條市大塔町の様々な観光情報をはじめ、特産品を一堂に集めた総合案内センターです。



道の駅「吉野路大塔」と帝塚山大学との連携



平成29年度 取組み内容：道の駅レストラン営業、オリジナルメニュー開発等

TEZU Cafe 営業

看板のサイズを大きくして、TEZU Cafeの場所をわかりやすく。

新たなPOPも作成し、新メニューで3期目のオープン。

チラシ、SNSでの宣伝、イベント参加やメディアへの出演

学生レストランTEZU Cafe

五條市道の駅吉野路大塔の学生レストランTEZU Cafeのアカウントです。帝塚山大学現代生活学部食物栄養学科の学生が日々運営しています。ぜひフォローしてください！

京奈和自動車道開通式典

24時間テレビ グルメイベント

知名度向上のため、チラシ配布やSNSによる宣伝。各種イベントへの参加やテレビ番組等へも出演。

オリジナルメニュー開発

柿氷
柿を使用したカキ氷

ハンドカレー
ジビエ鹿肉を調理したオリジナル大塔カレーを手軽に食べやすく！

豆乳レモンクリームパスタ
レモンの風味と濃厚な豆乳のクリームパスタ

奈良漬入りチーズケーキ
奈良漬のくせを抑え、食感を生かしたなめらかなデザート

活動報告会

五條市長をはじめとする関係者への「TEZU Cafe」第3期生の活動報告。

道の駅を中心とした歴史名所紹介ビデオおよび施設再活用の提案

平成27年度より田辺市大塔地区の地域活性化のため、和歌山大学経済学部野間ロゼミはふるさとセンター道の駅大塔において、道の駅活性化のため関連する歴史名所の紹介ビデオ作製、道の駅再活用案の提案などをおこなってきた。

ゼミナールの3年生により道の駅施設および周辺の歴史資源の探索のため調査をおこなった。

歴史資源について理解を深めるため、熊野古道の語り部さんと世界遺産登録記念イベントウォークをおこなった。

熊野古道を中心とした歴史資源について深めた理解をもとに歴史名所の紹介ビデオおよび施設の再活用策提案ビデオを作成し提出した。

和歌山大学経済学部野間ロゼミでは、地域活性化のお手伝いのために、の歴史理解による名所紹介、道の駅施設の再活用の提案をしています。

【道の駅】ふるさとセンター大塔は、田辺市大塔地域の拠点施設のひとつとして林産物、特産物をご用意し、道路利用者の皆様と、地域の交流をサポートする施設

平成29年度 取組み内容：熊野古道登録記念ウォークおよび施設の再活用提案ビデオ





ビデオは様々な活用できますので、
助かります。
道の駅の活性化につなげるため
ホームページに掲載したいです。

拝見させていただき、たった2度目
なのに大塔村のことを理解いただ
けて嬉しく思います。

天候に恵まれない日ばかり
でしたがまた機会があれば
晴天の日に大塔村を楽しん
でいただけたらと思います！
ゼミ生の皆さんありがとうござ
いました

道の駅周辺の道の駅紹介ビデオで、インバウンド観光客の取り込みにより
道の駅施設の再活性化を提案できたことがゼミ生たちの現場をもとにした
生き学びとなり、道の駅の活性化に悩む責任者の方の助けとなった。

道の駅「小豆島ふるさと村」と香川大学との連携



道の駅「小豆島ふるさと村」と香川大学(「地域インターンシップ」全学共通科目)の学生が連携して、小豆島ふるさと村主催イベント催し物の企画提案を行います。

①課題：小豆島ふるさと村主催のイベント催し物提案と実施

- ふるさと村祭り等イベントの内容立案、広報、運営
 - ・そうめんイベント (7月9日)
 - ・海の日イベント (7月17日)
 - ・ふるさと村祭り (9月9日)

【周辺の魅力探求のためのフィールドワーク】

小豆島の魅力、道の駅「小豆島ふるさと村」周辺の観光資源を把握するため、フィールドワークを実施し、道の駅で提供可能な企画提案に反映します。



反映

②各イベントで取り組んだ課題

- ・そうめんイベントで出す新メニュー開発
- ・海の日イベントのタイトル考案
- ・ふるさと村祭りでの出し物考案

反映

【香川大学による地域インターンシップの目的】

香川大学では、低年次で地域に向き、地域づくりの現場・しごとを理解し、地域課題解決への参画を通じて、①社会貢献、②課題探求・解決力の修得、③能動的学習を目指している。



【道の駅「小豆島ふるさと村」について】

年間を通して、すももソフト、そうめん、こびきうどん等を提供。手延べそうめん館も隣接、体験学習、釣り、体育施設の申込みも実施している。



香川大学 地(知)の拠点

香川大学(所在地:香川県高松市)は、6学部、8研究科を擁した総合大学として、個性と競争力を高めるために「地域に根差した学生中心の大学」をめざしています。また、地域貢献では、文部科学省の大学改革推進事業のひとつ、「地(知)の拠点整備事業(COC事業)」において、平成25年度に採択され、全学的に県内自治体が連携し、離島振興や街の活性化、定住促進対策などの地域活性化に取り組んでいます。「地域インターンシップ」もCOC事業において新設された科目です。

道の駅「小豆島ふるさと村」と香川大学との連携



平成29年度 取組み内容：各イベントで取り組んだ内容

そうめんイベント (7月9日)

〈内容〉

4人のインターンシップ生が、それぞれそうめんを使った新メニューを考案し、試食として、来ていただいた方に食べてもらい、どれが一番美味しかったかの評価、メニューに対するアドバイスなどをもらった。

- ・ふしのチャンプル
- ・そうめんギョウザ
- ・そうめん団子
- ・ツナマヨそうめん



〈感想・反省〉

来場者が少なかったのもっとPRを！島内そうめんと関連付けたり、海の日イベントと組み合わせで実施。

海の日イベント (7月17日)

〈内容〉

7/17の海の日にマリンスポーツ(カヤックなど)を体験できるイベント。インターンシップ生は、紙芝居を読んだり、ヨット乗船の補助。



〈感想・反省〉

マリンスポーツの種類が多く、参加者が楽しめた。子ども連れが多く、約30人ほど。今後は、インターンシップ生が若い世代などにSNSを活用し、PRを！タイトルを考える課題が出ていたが、そうめんメニュー開発と時期が重なり時間が少なく、達成できなかった。

ふるさと村祭り (9月9日)

〈内容〉

消防車、パトカーなどの見学、体験屋台、射的やヨーヨーすくいなど子供も楽しめる。屋台の一つにインターンシップ生としてふしのチャンプルを出させて頂いた。



〈感想・反省〉

竹フープ体験やお菓子投げなど、子供が参加できるものもあり、活気あふれ盛り上がった。子供専用のくじ引きや抽選会があった方がよい。中高生に舞台出演依頼→もっと盛り上がる。料理・販売に集中してしまい、出し物ができなかった。



道の駅「たからだの里さいた」と香川大学(「地域インターンシップ」全学共通科目)の学生が連携して、新しいイベントの企画提案を行います。

①課題：新しいイベントの企画・実施

- 現在の定例イベントに加え、新規顧客獲得のため、ファミリー層もしくは若年層にアピールできる新しいイベントを企画・実施する。

検討

②課題の変更：子供たちへのアンケートと次のイベントの企画<理由>

- ・当初、道の駅にある周辺施設を使った、子供を中心とした宝探しイベントを企画。
- ・しかし、子供たちの安全確保のため、スタッフの数が不足し、実施が困難なことが判明。
- ↓
- ・子供たちはどのようなことに興味があり、どんなことをしたら楽しめるのか、子供たち目線の意見を調査するために子供たちに向けたアンケートの実施。

香川大学 地(知)の拠点

香川大学(所在地:香川県高松市)は、6学部、8研究科を擁した総合大学として、個性と競争力を高めるために「地域に根差した学生中心の大学」をめざしています。また、地域貢献では、文部科学省の大学改革推進事業のひとつ、「地(知)の拠点整備事業(COC事業)」において、平成25年度に採択され、全学的に県内自治体が連携し、離島振興や街の活性化、定住促進対策などの地域活性化に取り組んでいます。「地域インターンシップ」もCOC事業において新設された科目です。

【道の駅の問題点の探求】

物産館・温泉・宿泊施設など施設が充実し、一見困ったように見えない道の駅の問題を明らかにし、働いている方から現状を聞き取り、今回の取り組みに反映します。



【香川大学による地域インターンシップの目的】

香川大学では、低年次で地域に向き、地域づくりの現場・しごとを理解し、地域課題解決への参画を通じて、①社会貢献、②課題探求・解決力の修得、③能動的学習を目指している。



【道の駅「たからだの里さいた」について】

道の駅「たからだの里さいた」は、新鮮な野菜と果物が毎日出荷される産直市を開催。温泉・宿泊施設も備え、四国霊場のお遍路が立ち寄る場所となっている。

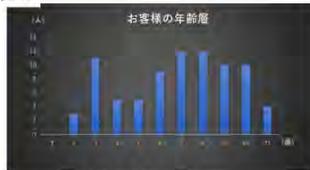


平成29年度 取組み内容：子供たちへのアンケートと次のイベントの企画

アンケート結果

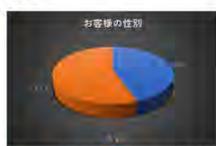
○アンケート実施日 7月9日、8月5日の2日間(現地にて)

・表1



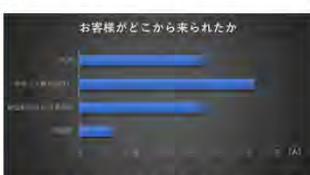
<計81名の子供たち>

・表2



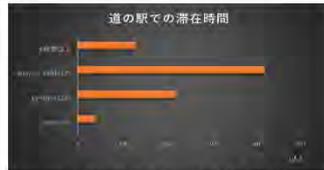
<男の子36名、女の子45名>

・表3



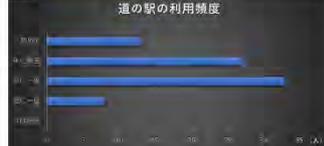
<三豊市伊以外の県内が31名>

・表4



<30分~1hの滞在時間が1番多い>

・表5



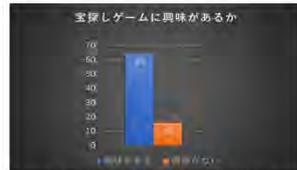
<月に1度の利用頻度が33名と1番多い>

・表6



<友達と遊ぶ目的が36名と1番多い>

・表7



<宝探しに興味ありが65名と多い>

・表8



<開催時期は夏が36名と1番多い>

分析

- ・多くの人が滞在時間30分以上のため、保護者の買い物の間にイベント実施が可能。
- ・利用頻度が多いことから、恒例イベントを増やせば再来客を見込める。
- ・友達と一緒に参加できるようなイベントを開催すれば、より多くの子供たちが集まる。
- ・夏や秋など比較的暑い時期の希望者が多いため、熱中症対策が必要。など

道の駅「風早の郷風和里」と愛媛大学の連携



道の駅「風早の郷風和里」と愛媛大学社会共創学部が連携し、道の駅活性化・地域活性化に向けた「ふわり活性化プロジェクトin柑橘まつり2018」を実施しました。

①地域と道の駅の課題

「風早の郷風和里」がある北条地域は、高齢化が進んだ地域。道の駅の正面に長浜海岸があることから、夏期は多くの海水浴客で賑わうが、冬期の集客が課題。



※この地図は国土地理院の地理院地図に加筆したものである。

②活性化プロジェクト始動

学生らしい視点を生かし、活性化企画を検討、実践する「ふわり活性化プロジェクト」が始動。若者を含む多くの人たちを呼び込むアイデアの実践により、道の駅活性化から、将来的な地域活性化を達成することを目標に設定。



■道の駅「風早の郷風和里」について

山と海に囲まれた自然豊かな場所にある道の駅。朝採れ新鮮野菜だけでなく、魚介類、手作りの惣菜や漬物など、バラエティに富んだ地元産品を購入することが可能。地元食材を使用したレストランだけでなくアイスクリームや、じゃこてんなどの軽食が食べられるコーナーも設置。

③平成29年度の取り組み

時期	取り組み内容
平成29年5月	<ul style="list-style-type: none"> 現地調査 活性化に関するワークショップの実施 道の駅に対するプレゼン
平成29年12月	<ul style="list-style-type: none"> 柑橘まつり参加に向けた企画コンペの実施 企画の決定
平成30年2月	<ul style="list-style-type: none"> 柑橘まつりへの出店



■愛媛大学について

愛媛大学（所在地：愛媛県松山市）は、7学部と大学院6研究科からなる四国最大の総合大学。『「輝く個性で地域を動かし世界とつながる大学」を創造することを理念に、地域を牽引し、グローバルな嫌で社会に貢献する教育・研究・社会活動を展開する』をビジョンに掲げ、社会共創学部を起点とした地域実践型教育による人材育成を推進。

道の駅「風早の郷風和里」と愛媛大学の連携



平成29年度 取り組み内容：柑橘類を使ったみかんスイーツの開発・販売

柑橘まつりに向けた企画コンペ(平成29年12月)

- 学生の活性化のアイデア実践、及び学生と道の駅・地域との関係構築を目的に、翌年2月開催予定の柑橘まつりへの参加を計画
- 柑橘まつりを盛り上げるための企画を検討するためのコンペを行い、実施する企画を選定



柑橘まつりで販売(平成30年2月)

- 道の駅に出品している生産者から購入した柑橘類を使用し、開発した商品を柑橘まつりで販売
- 地域の生産者や道の駅関係者の協力を得ながら、用意したスイーツ200食を3時間で完売



柑橘まつりに向けた準備【商品開発】

- 来訪者に地域を知ってもらうための取り組みとして、特産品である柑橘類を使ったスイーツ(みかん餃子、みかん大福)を開発



④今後の展望

柑橘まつりにおける課題と、実践の経験を踏まえ、更に地域に密着した「ふわり活性化プロジェクト」を推進

道の駅「つの」と宮崎大学との連携



道の駅「つの」と宮崎大学（教育文化学部）の学生が連携して、地域資源を活用し、道の駅を拠点とした地域活性化等の企画提案を行います。

①都農町の現状把握と分析

- ・SWOT分析（強み・弱み・機会・脅威）を実施
- ・道の駅「つの」での短期インターンシップ
- ・利用者アンケート、ワークショップを実施

反映

②都農町の魅力を再発見し、町を元気にできるような取り組みを実施、継続する

- ・都農町への訪問数を増やし、都農町に詳しくなるとともに人々とのつながりを強化
- ・都農町の魅力UPに繋がる各種企画を継続

反映

発展

③地域の特産物を生かした「スペイン化計画」で「町おこし」を支援

【宮崎大学】

1949（昭和24）年の創立以来の歴史ある伝統校で、変動する社会の多様な要請に応え得る人材を育成することを教育の理念とし、教育文化学部、医学部、工学部、農学部及び大学院研究科から構成されています。

平成28年4月には「地域資源創成学部」が新たに設置され、地域の活性化に不可欠な社会を牽引するイノベーション創出に向けたマネジメントの知識と、地域資源の価値を複眼的に捉える視野を持った人材を養成し、地域から要望が高い、実社会で即戦力として、日本中で活躍できる人材の輩出を目指しています。

【地域の状況を把握】

「ぶどう・梨狩り」や「都農漁港」、「矢研の滝」などを散策、体感することで状況を把握。



名高川源流は、複数の谷にかかる30余りの滝は、名高指定された自然唯一の瀑布です。

【道の駅に隣接する都農神社のお祭りへの参加】

宮崎大学根岸研究室で隣接する都農神社の祭り実行委員会への参加と料理の振る舞いを実施



【道の駅「つの」について】

道の駅「つの」では、地域特産のトマトをメインにオリジナル商品の開発に取り組んでおり、更なる地域活性化に寄与していきます。



道の駅「つの」と宮崎大学との連携



平成29年度 取り組み内容：都農神社「結びの祭り」への参加

- ・毎年開催される都農神社（近隣施設）の「結びの祭り」に参加（H30.2.11～H30.2.12）※道の駅と隣接する都農神社は橋で連絡しており、各種イベントを共同開催を実施するなど、つながりの深い施設です。
- ・宮崎大学根岸研究室で祭り実行委員会への参加と料理の振る舞いを実施

■事前打合せ

- ・祭り実行委員会への参加（11月～委員会の集まり）へ積極的に参加し、寒い時期に地場産品を使った暖かい料理を振る舞うことにより祭りを盛り上げることを企画。

■祭り前夜祭～当日

- ・「スペイン化計画」に合わせ都農町産野菜を使ったスペイン風家庭料理を振る舞い、来場した地元の家族連れや高齢者はもとより、地域外からの来場者からも好評を頂き、広く都農をアピールした。



●祭り当日のようす



●事前打合せのようす



●振る舞われたスペイン風家庭料理

全国「道の駅」連絡会事務局

〒135-0042 東京都江東区木場2-15-12 MAビル3階

TEL 03-5621-3188 / FAX 03-5621-3177

E-mail info@michi-no-eki.jp